公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第739集

川戸太田遺跡

上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2024

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

川戸太田遺跡

上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇二四

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

川戸太田遺跡

上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2024

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

上信自動車道は、群馬県渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジと長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジとを結ぶ総延長80㎞に及ぶ自動車専用の地域高規格道路です。

この事業は、群馬県の「はばたけ群馬・県土整備プラン」で示された「７つの交通軸構想」のうちの「吾妻軸」に属し、関越自動車道と上信越自動車道とを結ぶ新たな交通体系として、吾妻地域の活性化に寄与することが期待されています。

吾妻郡東吾妻町大字川戸に所在する川戸太田遺跡は、令和２年の群馬県地域創生部文化財保護課による埋蔵文化財の試掘・確認調査によって、事業対象地において埋蔵文化財の包蔵が確認されたため、群馬県県土整備部上信自動車道建設事務所と群馬県地域創生部文化財保護課との調整を経て、令和３年度に当事業団が発掘調査を実施しました。調査の結果、古代から中近世に及ぶ畑・溝・土坑・ピット・集石が確認されました。

発掘調査から報告書の刊行に至るまでには、群馬県県土整備部上信自動車道建設事務所、群馬県地域創生部文化財保護課、東吾妻町教育委員会、地元関係者の方々の多大なるご指導とご協力を賜りました。ここに篤くお礼を申し上げるとともに、本書が地域における歴史の解明に広く役立てていただけますことを願いまして序といたします。

令和６年３月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理　事　長　　向　田　忠　正

例　言

1．本書は、令和３年度上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴い発掘調査された川戸太田遺跡の発掘調査報告書である。

2．遺跡の所在地は、群馬県吾妻郡東吾妻町大字川戸字太田　1638-8　1638-11　1638-12　1638-18　1638-34
1644-18　1644-19である。

3．調査面積　3666.00㎡

4．事業主体　群馬県上信自動車道建設事務所

5．調査主体　公益財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

6．発掘調査の期間と体制は次のとおりである。
履行期間　令和３年４月１日～令和４年１月31日
調査期間　令和３年10月１日～令和３年11月30日
調査担当　須田正久(上席調査研究員・調査統括)　本田寛之(主任調査研究員)
遺跡掘削工事請負　株式会社測研
地上測量委託　株式会社測研

7．整理事業の期間と体制は次のとおりである。
履行期間　令和５年４月１日～令和６年３月31日
整理期間　令和５年11月１日～令和６年３月31日
整理担当　友廣哲也(専門調査役)
本文執筆・編集　友廣哲也
デジタル編集　齊田智彦(主任調査研究員)
遺物観察　土師器・須恵器　神谷佳明(専門調査役)
石器・石製品　関口博幸(上席調査研究員・資料統括)
遺物写真　友廣　哲也

8．出土遺物および写真・図面等記録類は群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

9．発掘調査および報告書の作成には次の関係機関にご指導、ご助言をいただいた。
群馬県県土整備部上信自動車道建設事務所、群馬県地域創生部文化財保護課、東吾妻町教育委員会

凡　例

1．本書で使用した座標軸および方位は、世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第Ⅸ系)を用い、座標北で示した。
調査対象範囲はＸ＝61886～61925、Ｙ＝-91022～91125の範囲に収まる。

2．等高線・遺構断面図等に記した数値は、海抜標高を示す。

3．遺構名については、発掘調査時の名を踏襲し、遺構種別に通し番号で標記した。

4．各遺構の土層断面に記した色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色彩監修1988「新版標準土色帖」に依っている。

5．遺構図・遺物図については、各挿図中にスケールを添付したが、畑・溝等の遺構の種別によってはスケールが統一されていない。以下実際に使用した縮尺を記載する。
遺物写真の縮尺は、実測図と同一の縮尺にした。
遺構平面図　１区全体図　1/400
畑平面図　1/40　1/60　1/100　断面図　1/40　1/60　1/80
溝平面図　1/40　1/100　1/250　1/400　断面図　1/40　1/100
集石・土坑・ピット　1/40
遺物図　須恵器・石器　1/3　　石製品　　1/1

6．本書の図版に使用したスクリーントーンを以下に示す。
遺構図：小礫範囲
遺物図：石器　摩耗痕　　敲打痕

7．遺構の計測は、全容が計測できないものについては、残存値( )で表記した。

8．降下火山灰については以下の略号を使用した。
As-B　天仁元年(1108)浅間山から噴出した軽石(浅間Ｂ軽石)
As-Kk　浅間山から噴出した軽石(浅間粕川テフラ)

9．本書では下記の地形図を編集し、掲載している。
国土地理院1/200,000地勢図「長野」(平成24年５月１日発行)
国土地理院1/50,000地形図「草津」(平成11年１月１日発行)、「中之条」(平成10年８月１日発行)
マッピングぐんま　群馬県地域創生部文化財保護課ＨＰ使用

目　次

序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真目次

第１章　調査に至る経緯、方法と経過 ・・・ 1
第１節　上信自動車道吾妻東バイパスについて ・・ 1
第２節　調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第３節　調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
１．調査区と座標の設定・・・・・・・・・・・・・・ 2
第４節　発掘調査の方法 ・・・・・・・・・・・・・・・ 4
１．発掘調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
２．遺構測量 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
３．遺構写真撮影・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
第５節　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
第６節　調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
１．発掘調査の経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
２．整理事業の経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

第２章　遺跡の地理的・歴史的環境 ・・・・・ 9
第１節　地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
第２節　歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
１．旧石器時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
２．縄文時代 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
３．弥生時代 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
４．古墳時代 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
５．奈良・平安時代 ・・・・・・・・・・・・・・・・11
６．中・近世 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

第３章　検出された遺構と遺物 ・・・・・・・・17
第１節　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第２節　畑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第３節　溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
第４節　土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
第５節　ピット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
第６節　集石 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

第４章　まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・51

遺構計測表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・54

写真図版
報告書抄録

挿図目次

第１図　遺跡の位置(国土地理院1/200,000地勢図「長野」平成24年５月１日を使用)・・・1
第２図　上信自動車道計画路線図(群馬県ＨＰ「上信自動車道」より引用 http://www.pref.gunma.jp/contents/100010158.pdf)・・・2
第３図　上信自動車道吾妻東・西バイパスの路線と各遺跡位置図(国土地理院1/50,000地形図「草津」「中之条」を使用)・・・3
第４図　調査範囲図(1/2500吾妻町都市計画図(東吾妻町提供)を一部加工)・・・5
第５図　基本土層、３面１号・２号旧石器トレンチ土層断面・・・7
第６図　周辺遺跡分布図(国土地理院1/50,000地形図「中之条」平成10年８月１日を使用)・・・13
第７図　川戸太田遺跡１面全体図・・・18
第８図　川戸太田遺跡２面全体図・・・19
第９図　川戸太田遺跡３面全体図・・・20
第10図　１面１号・２号畑・・・28
第11図　３面３号畑・・・29
第12図　３面４号畑・・・30
第13図　３面５号畑・・・31
第14図　３面６号畑・・・32
第15図　３面７号・１面９号・３面12号畑・・・33
第16図　３面８号畑・・・34
第17図　３面10号畑・・・35
第18図　３面11号畑・・・36
第19図　２面１号溝・・・37
第20図　３面１号溝・・・38
第21図　２面２号・２-１号・２-２号溝・・・39
第22図　２面３号・４号溝・・・40
第23図　３面５号・７号溝・・・41
第24図　３面６号・２面８号溝・・・42
第25図　３面９号・10号溝・・・43
第26図　３面11号溝・・・44
第27図　１面１号・３面２号～11号土坑・・・45
第28図　３面12号～20号土坑・・・46
第29図　３面21号～25号土坑・・・47
第30図　３面26号～32号土坑、30号土坑出土遺物・・・48
第31図　３面１号～16号ピット・・・49
第32図　１面１号・２号集石、１号集石出土遺物・・・50
第33図　遺構外出土遺物・・・50

表　目　次

第１表　上信越自動車吾妻東・西バイパス調査遺跡一覧・・・3
第２表　周辺の遺跡一覧・・・14
第３表　畑計測表・・・52
第４表　溝計測表・・・52
第５表　土坑計測表・・・53
第６表　ピット計測表・・・53
第７表　集石計測表・・・53
第８表　遺物観察表・・・54

写真目次

ＰＬ．１　１面１号畑全景　南西から
１面１号畑全景　南東から
ＰＬ．２　１面１号畑土層断面Ａ-Ａ′　南西から
１面１号畑調査風景　北東から
１面２号畑全景　南西から
１面２号畑東部土層断面Ａ-Ａ′　南西から
１面２号畑西部土層断面Ａ-Ａ′　南西から
ＰＬ．３　３面３号～８号畑　南西上空から
３面３号～８号畑　南上空から
ＰＬ．４　３面３号畑全景　南西上空から
３面３号畑全景　南西から
３面３号畑全景　北西から
３面３号畑土層断面Ａ-Ａ′　南西から
ＰＬ．５　３面４号～８号畑　南西上空から
３面４号～６号・８号畑　南から
ＰＬ．６　３面４号・５号畑全景　南東上空から
３面４号畑全景　南東から
ＰＬ．７　３面４号畑土層断面Ａ-Ａ′　南西から
３面４号畑土層断面Ａ-Ａ′　南東から
３面５号畑土層断面Ａ-Ａ′　南西から
３面５号畑土層断面Ａ-Ａ′　南西から
３面６号・７号畑全景　南上空から
ＰＬ．８　３面６号畑耕作痕　西から
３面６号畑耕作痕近接　北西から
３面６号畑土層断面Ｂ-Ｂ′　北東から
３面６号畑土層断面Ｂ-Ｂ′近接　北東から
３面７号畑全景　南から
ＰＬ．９　３面８号畑全景　南上空から
３面８号畑全景　北から
ＰＬ．10　３面８号畑土層断面Ａ-Ａ′　北から
３面８号畑土層断面Ａ-Ａ′近接　北から
１面９号畑全景　南東から
１面９号畑土層断面Ａ-Ａ′　南東から
３面10号～12号畑　南上空から
ＰＬ．11　３面10号～12号畑　西上空から
３面10号～12号畑　北上空から
ＰＬ．12　３面10号・11号畑　西から
３面10号・11号畑　南から
ＰＬ．13　３面10号畑全景　西から
３面10号畑全景　東から
３面10号畑土層断面Ａ-Ａ′　南東から
３面10号畑土層断面Ｂ-Ｂ′　東から
３面10号畑調査風景　西から
ＰＬ．14　３面11号畑・25号～28号土坑　南から
３面11号畑西部　南から
ＰＬ．15　３面12号畑全景　南東から
３面12号畑土層断面Ａ-Ａ′　南東から
２面１号溝全景　南東から
３面１号溝土層断面Ａ-Ａ′　南東から
ＰＬ．16　２面２号溝全景　南東から
２面２号溝土層断面Ａ-Ａ′　南から
２面２号溝土層断面Ｂ-Ｂ′　南東から
２面２-１号・２-２号溝全景　東から
２面２-１号溝土層断面Ｅ-Ｅ′　北東から
ＰＬ．17　２面２-２号溝土層断面Ｄ-Ｄ′　東から
２面３号溝全景　南東から
２面４号溝全景　東から
２面４号溝土層断面Ａ-Ａ′　東から
３面５号溝全景　南東から
３面６号溝全景　東から

３面７号溝全景　北から
３面７号溝土層断面Ａ－Ａ′　南から
ＰＬ．18　３面８号溝土層断面Ａ－Ａ′　南から
３面９号溝全景　北東から
３面９号溝土層断面Ａ－Ａ′　南西から
３面10号溝全景　南西から
３面10号溝土層断面Ａ－Ａ′　南西から
３面11号溝全景　北東から
３面11号溝土層断面Ａ－Ａ′　南西から
ＰＬ．19　１面１号土坑　南西から
３面２号土坑　南西から
３面３号土坑　北東から
３面４号土坑　東から
３面５号土坑　北から
３面６号土坑　北東から
３面７号土坑　北東から
３面８号土坑　西から
３面９号土坑　北東から
３面10号土坑　西から
３面11号土坑　東から
３面12号土坑　北東から
３面13号土坑　北から
３面14号土坑　北から
３面15号土坑　東から
ＰＬ．20　３面16号土坑　東から
３面17号土坑　南東から
３面18号土坑　北東から
３面19号土坑　南から
３面20号土坑　南から
３面21号土坑　南西から
３面22号土坑　南東から
３面23号土坑　北から
３面24号土坑　南西から
３面25号～27号土坑　南東から
３面25号土坑　南東から
３面26号土坑　南から
３面27号土坑　南東から
３面28号土坑　南東から
３面29号土坑　南から
ＰＬ．21　３面30号土坑　北東から
３面31号土坑　北西から
３面32号土坑　南から
３面１号ピット　南西から
３面２号ピット　東から
３面３号ピット　東から
３面４号ピット　東から
３面５号ピット　東から
３面６号ピット　東から
３面７号ピット　東から
３面８号ピット　東から
３面９号ピット　南から
３面10号ピット　南から
３面11号ピット　西から
３面12号ピット　南から
ＰＬ．22　３面13号ピット　西から
３面14号ピット　南から
３面15号ピット　南から
３面16号ピット　西から
１面１号集石　北東から
１面１号集石　北西から
１面２号集石　西から
３面１号旧石器トレンチ土層断面　南から
３面２号旧石器トレンチ土層断面　北東から
３面１号溝・30号土坑、１面１号集石、遺構外出土遺物
ＰＬ．23　調査区全景　東から
調査区全景　真上から
ＰＬ．24　調査区全景　東から
調査区全景　西から（後方　岩櫃山）

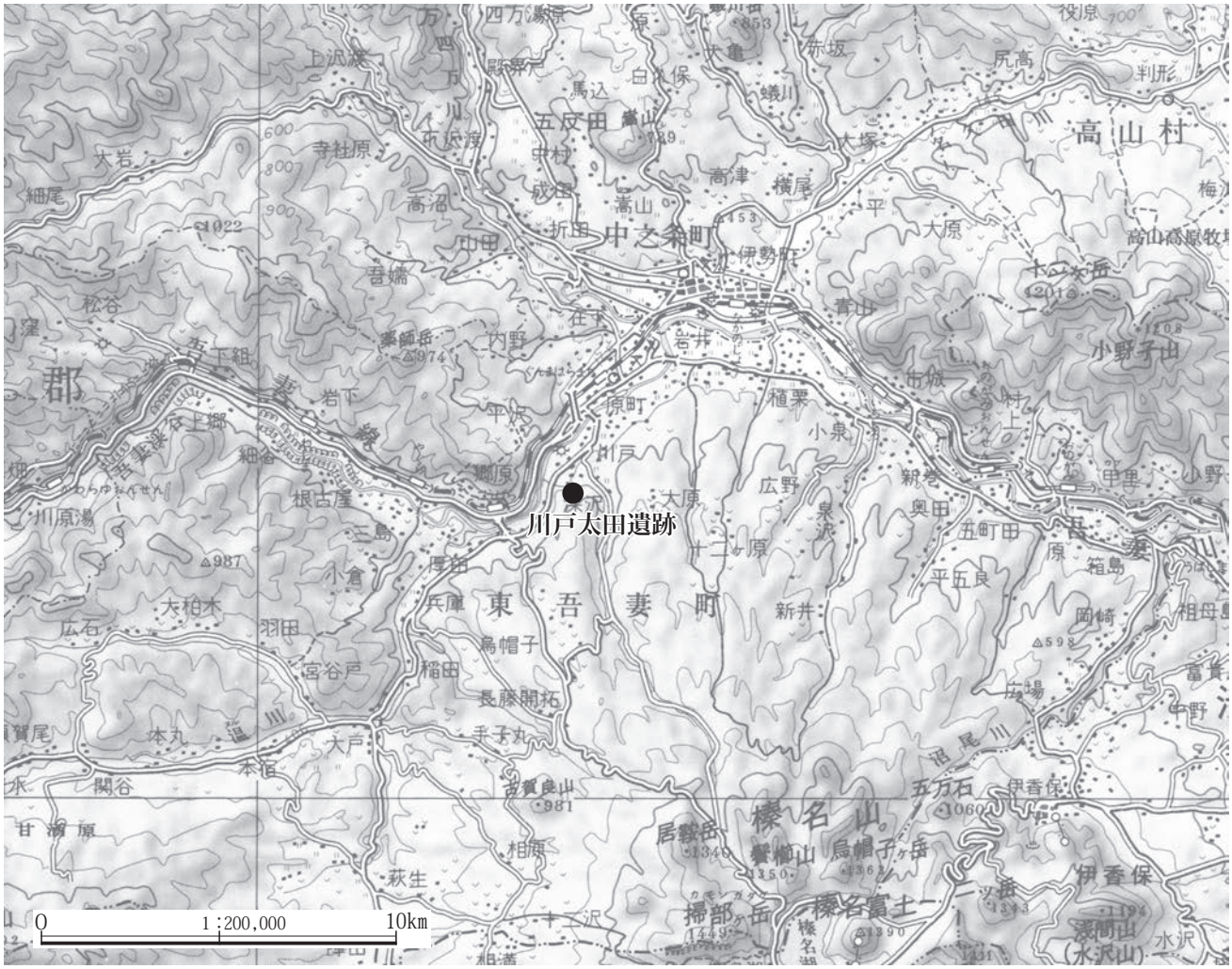
第１章　調査に至る経緯、方法と経過

第１節　上信自動車道吾妻東バイパスについて

上信自動車道(国道145・353号バイパス)は、群馬県渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジを起点に、長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジへと至る総延長約80km（群馬県約65km、長野県約15km)の地域高規格道路として、平成６年12月16日に計画路線の指定を受けた。この道路は、群馬県の「群馬がはばたくための７つの交通軸構想」における「吾妻軸」として位置づけられ、関越自動車道と上信越自動車道を連携し、吾妻地域の活性化支援に大きく寄与することが期待されている。さらに、起点となる関越自動車道渋川伊香保インターチェンジの南側に続く国道17号前橋渋川バイパスや上武道路を含めた地域高規格道路「熊谷渋川連絡道路」とともに、本県の広域的ネットワークを形成する重要路線である。

この上信自動車道は、起点から県境まで、渋川西バイパス(国施工区間約５km)、金井バイパス(約１km)、川島バイパス(約２km)、祖母島～箱島バイパス(約４km)、吾妻東バイパス２期(約７km)、吾妻東バイパス(約６km)、吾妻西バイパス(約７km)、八ッ場バイパス(約９km)の各整備区間と、さらに調査区間(約26km)とに分かれている。この中には、既に現道活用や暫定供用されている区間もある。

上信自動車道吾妻東バイパス(以下、吾妻東バイパス)は、国道145号バイパスの一部となる整備区間の一つで、東吾妻町大字植栗の吾妻東バイパス２期区間から同町大字厚田の吾妻西バイパスとの接続地点までの約6.4kmの区間である。



第１図　遺跡の位置(国土地理院１/ 200,000地勢図「長野」平成24年５月１日を使用)

第２節　調査に至る経緯

群馬県上信自動車道建設事務所(以下県上信道事務所)は、令和２(2020)年11月11日付で群馬県地域創生部文化財保護課(以下、県文化財保護課)に吾妻東バイパス工事対象範囲である東吾妻町大字川戸地内における試掘・確認調査を依頼し、それを受けた県文化財保護課では令和２年11月30日、12月１～３日東吾妻町川戸太田地内を試掘・確認調査を実施し、遺構の存在を確認した。県文化財保護課は、令和２年12月21日県上信道事務所宛て、東吾妻町大字川戸地内において発掘調査が一部必要であることを回答した。県上信道事務所は、令和３年(2021)２月24日付で東吾妻町教育委員会(以下、東吾妻町教委)宛て、川戸太田遺跡の発掘調査が必要なことを通知した。東吾妻町教委は令和３年２月24日付で県文化財保護課にこれを連絡した。工事実施にあたっては、現状における遺跡の保護・保存が困難であることから発掘調査による記録保存の措置が執られることになった。

第３節　調査の方法

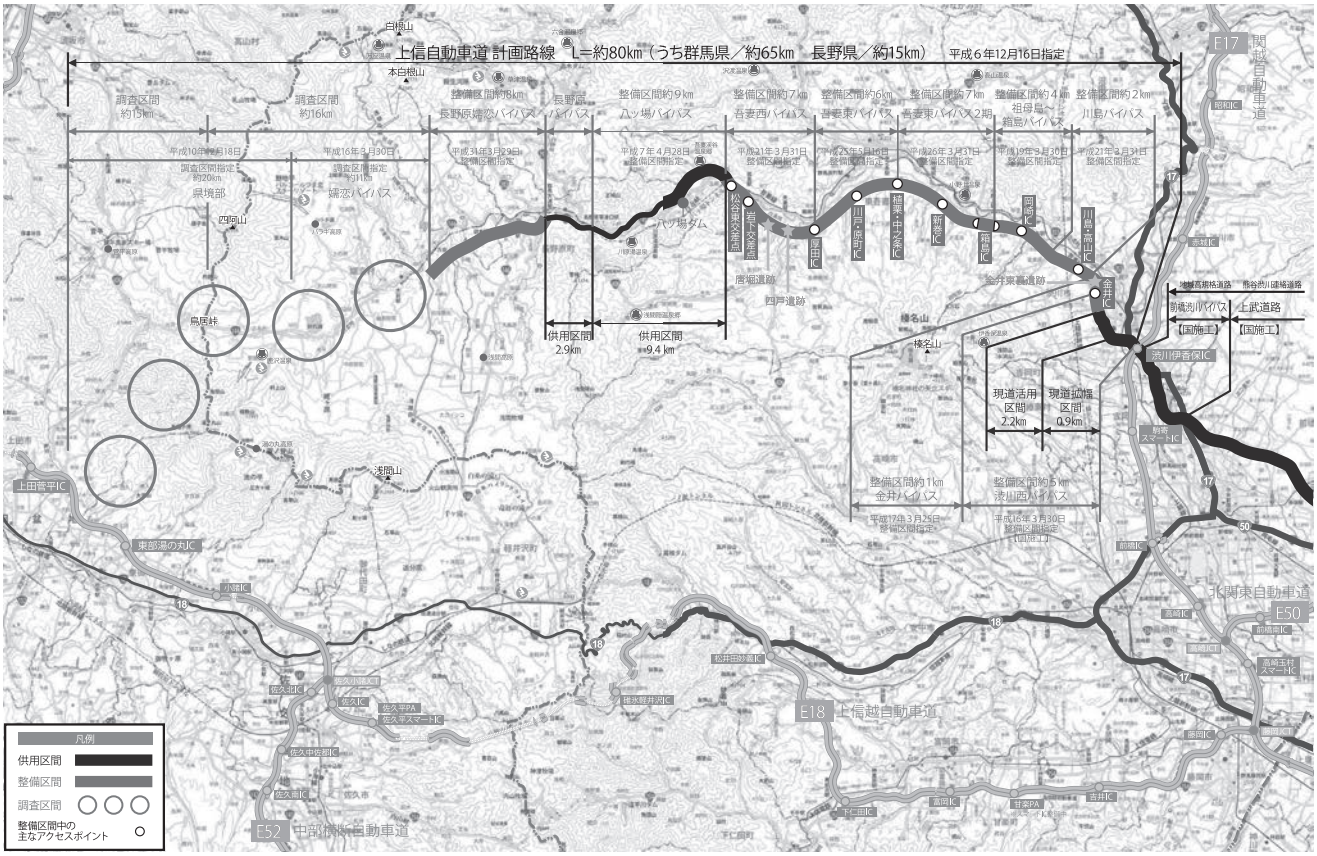
１．調査区と座標の設定

調査区の設定

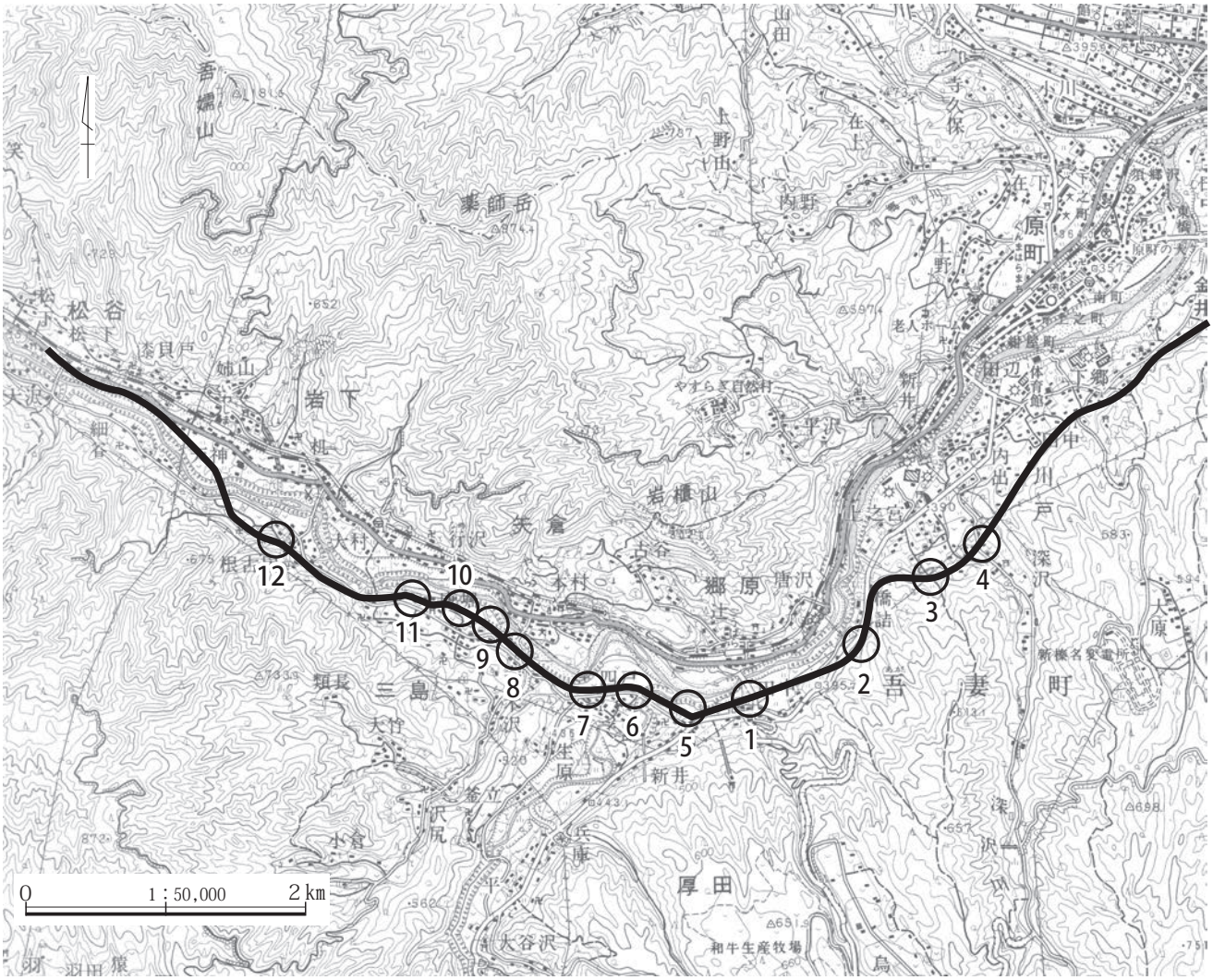
川戸太田遺跡の調査は、東西約100m、南北約35mと東西に細長い路線部分が調査対象とされた。調査範囲は3666.00㎡と狭いため、全調査区を１区として調査した。

座標の設定

発掘調査に用いた座標は世界測地系(日本測地系2000平面直角座標系第Ⅸ系)であり、10m×10mを基本とし設定した。遺構図中の座標については、座標値を「Ｘ軸－Ｙ軸」の順で記し、「Ｘ＝61100、Ｙ＝-91200」のように表記した。本遺跡の、吾妻東バイパス建設事業関連で発掘調査された調査範囲は、世界測地系(日本測地系2000平面直角座標系第Ⅸ系)のＸ=61886～61925、Ｙ=-91022～-91125の範囲に収まる。実際、発掘調査においては、遺構測量における遺構の位置及び遺物出土位置などはすべて世界測地系の座標によって記録した。本報告書でも、遺構の位置情報については、世界測地系の座標によって表記する。



第２図　上信自動車道計画路線図(群馬県HP「上信自動車道」より引用　http://www.pref.gunma.jp/contents/100010158.pdf)



第３図　上信自動車道吾妻東・西バイパスの路線と各遺跡位置図（国土地理院１/50,000地形図「草津」「中之条」を使用）

第１表　上信自動車道吾妻東・西バイパス調査遺跡一覧　　（令和４年12月現在）

		遺跡名	調査年度									
			H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31・R１年度	R２年度	R３年度	R４年度
西バイパス	1	厚田中村遺跡	○	○		○						
	5	新井遺跡		○	○	○		○				
	6	四戸の古墳群						○				
	7	四戸遺跡	○	○	○	○		○				
	8	万木沢Ｂ遺跡					○					
	9	唐堀Ｂ遺跡		○	○							
	10	唐堀遺跡			○	○	○	○				
	11	唐堀Ｃ遺跡				○		○				
	12	根小屋城跡ほか				○		○	○			
東バイパス	1	厚田中村遺跡								○	○	○
	2	厚田橋詰遺跡										○
	3	川戸太田遺跡									○	
	4	深沢遺跡									○	
		小田沢遺跡									○	○
		池ノ沢遺跡										○
		小泉天神西										○
		新巻膝附遺跡										○

第４節　発掘調査の方法

１．発掘調査

先述した通り、令和２年11～12月に県文化財保護課によって調査対象地における試掘・確認調査が実施され、表土層下50～130㎝下からAs-Kkを含む黒褐色土・暗褐色土が確認された。遺構はこのAs-Kk下に確認された。

①安全対策･環境整備　周辺の安全対策･整備としてロープスティックとトラロープを使用して調査区を囲い、看板や旗幕を使って危険箇所の明示をした。重機が通行する道路には保護のため､ブルーシートと鉄板を敷設した。堆積土が厚く調査面までが深いため、単管パイプの階段を設置した。また、水路を渡る部分も鉄板を敷いて対応した。

②表土掘削と遺構調査　遺構確認面に至るまでの表土、As-Kk下面までは、重機を使用して掘削し、廃土はクローラーダンプを使って排出した。

その後、それぞれの遺構検出面を発掘調査作業員(以下、作業員と称する)により、鋤簾によって均質に削っていくことで掘削作業、平面精査を行い、面的な遺構の把握に努めた。遺構の認定は発掘調査担当者(以下、担当者と称する)が行い、人為的な掘り込み箇所を遺構と認定し、調査に着手した。遺構名は、遺構確認面に拠らず遺構種別毎に本遺跡全体における通し番号で標記した。

遺構掘り下げ作業や埋没土の土層観察用ベルト設定位置などの作業指示は、担当者が遺跡掘削技術者(以下、代理人と称する)に指示し、各遺構の調査は、土層確認のためのベルトの設定もしくは半截して土層観察を行う等、それぞれに適した方法を用い、作業員が移植鍬等で掘削した。作業員が人力で掘削した廃土はキャリーダンプで搬出した。

③調査記録　埋没土や遺構・遺物の写真記録作業などは担当者が行った。遺構断面図、遺構平面図、出土遺物図等の図化は測量業者に委託し、遺跡全体の空中写真撮影も業者委託した。

また、調査過程において出土した遺物については、出土した遺構ごとに出土地点を記録し、整理・集約した上で、洗浄および出土遺跡･遺構･出土地点等に関するデータを注記する作業を業者委託し、業者から提出を受けた成果品については､担当者が逐次点検･照合し､受領した。

④調査終了後の埋め戻し　各区の調査終了後に、掘削重機と不整地運搬車を使用して埋め戻しを行った。

２．遺構測量

遺構等の測量は、遺構断面及び平面実測図とも縮尺1/20を基本とし、遺構の状況に応じて、長大な土坑及び溝、広範囲に及ぶ畑などの遺構を実測する際には、適宜･1/40・1/60などの縮尺とした。

遺構平面実測図の作成に当たっては、測量会社にデジタル測量を委託し、デジタルデータおよび打ち出し図面の提出を受けた。遺構断面実測図は、原則として発掘現場における作業員によってアナログ実測で作成された図を元に、測量会社にデジタルデータ化を委託し、遺構平面実測図と同様、デジタルデータおよび打ち出し図面の提出を受けた。

上記、委託先測量会社により作成されたデジタルデータ成果品およびアナログ実測された原図等は、調査記録として保存されている。

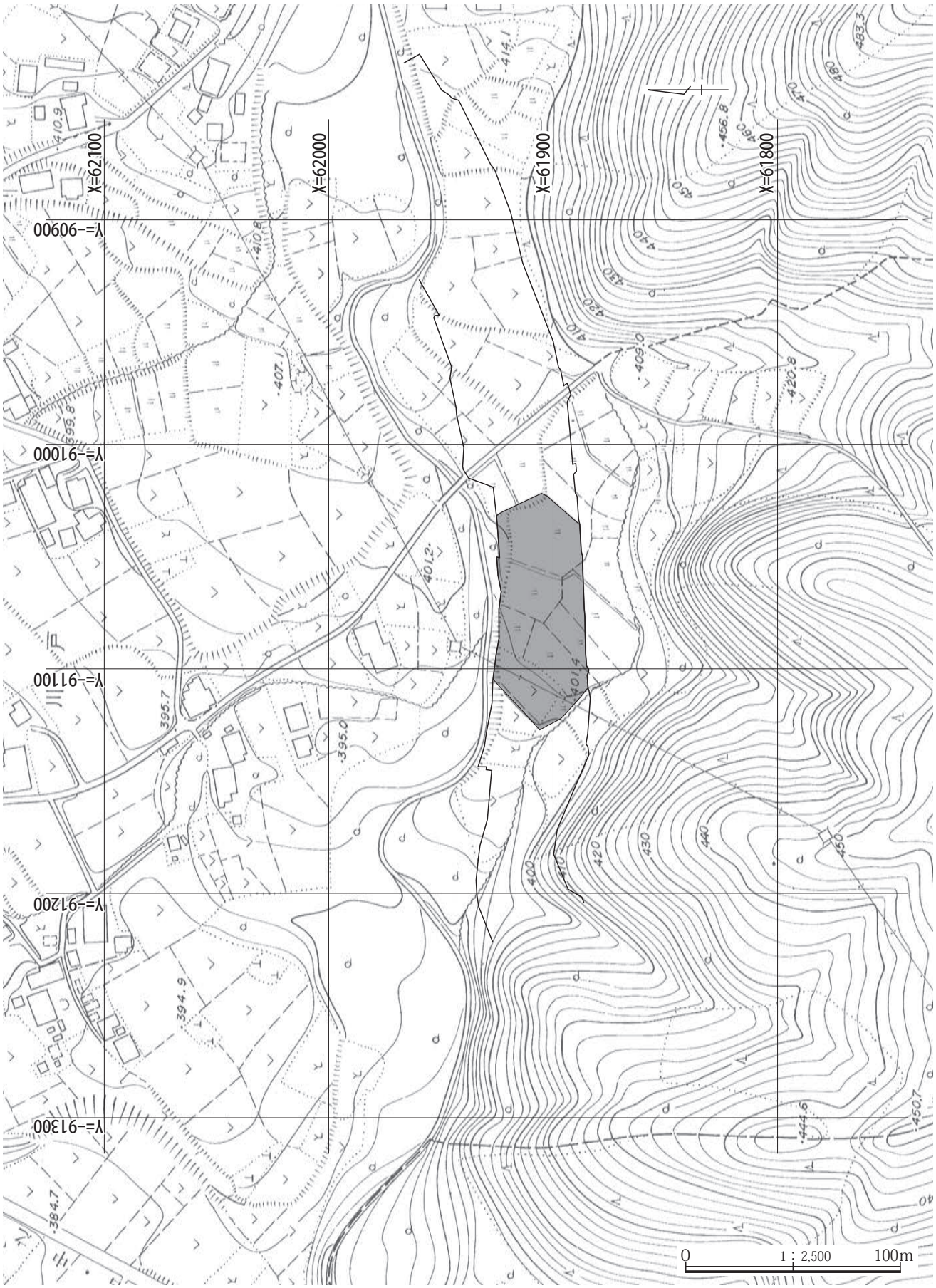
３．遺構写真撮影

発掘調査において、すべての遺構の写真は担当者が分担して撮影した。遺構については必要に応じて中判カメラを用いてiso400モノクロフィルムを６×７㎝判サイズで撮影し、撮影記録はネガフィルムの状態で保存し、焼き付け写真を貼付したフィルムの検索台帳を作成した。

また、発掘調査の過程で、調査の進捗状況の記録、及びすべての遺構について、デジタルカメラで撮影を行った。調査記録としては、遺構ごとに土層断面、遺物出土状態、遺構全景等の撮影を行い、さらに必要に応じて遺構の各部分の検出および調査の状況について、微細な接写を行っている。

調査区の全景写真等は、調査の進展にあわせて行い、併せて空中写真撮影を実施した。記録保存の一環の全景写真撮影にあたっては、上空からの空中写真撮影、および、遺構の記録保存としての遺構図化・測量については委託により実施した。

なお、撮影した写真のデジタルデータは、HDやDVD－ROM等のメディアに保存し、データのファイル名は、調査区・遺構略号・番号・撮影方向・内容を数値化したも



第４図　調査範囲図(1/2500吾妻町都市計画図(東吾妻町提供)を一部加工)

のに置き換えるリネーム作業を行った。

第５節　基本層序

本遺跡は吾妻川右岸にあり、東西に走るＪＲ吾妻線から南側を東流する吾妻川を挟んだ対岸の河岸段丘上に広がる。本遺跡は吾妻東バイパスで、西には吾妻西バイパスの遺跡がある。新井遺跡、四戸の古墳群、四戸遺跡、万木沢Ｂ遺跡、唐堀遺跡等、多くの調査・報告書もすでに刊行を終えている。

これら西バイパスでの調査結果からは、天明３(1783)年の浅間山噴火に伴う泥流が吾妻川を流下した際の痕跡が多く確認されている。また、温川を遡上した記録もあり、新井遺跡では温川沿いの一段低い部分に泥流堆積物が確認されている。さらに、唐堀遺跡においても、一段低い河岸段丘面に泥流堆積物に覆われた棚田状の水田が検出されている。また、調査された各遺跡からは、As-Kkの降下軽石、その直ぐ下層にAs-Bの降下灰が堆積していることが報告され、それら鍵層に絡んだ各種の遺構が検出されている。

東バイパス建設に伴う川戸太田遺跡の調査においても、調査地内の１区の層序を概観すると、最上位のⅠ～Ⅱ層は表土が覆う。表土下には一部鉄分の凝縮土がある。Ⅲ～Ⅴ層はAs-Kk の混土が含有量の違いで分層され、その下層にAs-Kkの一次堆積土は確認できない。さらに下に存在するAs-Bをはじめ軽石､灰層は確認されていない。Ⅵ層～Ⅹ層は黄橙色軽石の含有量の違いで分かれる。

川戸太田遺跡１区は北東から南東に向かい約4.2mの比高差を持ち、南東に向かい傾斜している。

１区　北壁(第５図)

Ⅰ　表土。
Ⅱ　表土下鉄分凝縮層。
Ⅲ　暗褐色土(10YR3/3)　As-Kkの混土。径１㎜の細粒白色軽石を含む。
Ⅳ　黒褐色土(10YR3/1)　As-Kk混土。径１～２㎜の細粒白色軽石を含む。
Ⅴ　黄褐色土(10YR5/8)　As-Kk混土。径１～３㎜の細粒白色軽石を多量、径１㎜の黄橙色粒を少量含む。
Ⅵ　黒褐色土(10YR3/1)　褐色土ブロック少量、径１㎜の細粒白色軽石を含む。
Ⅶ　灰黄褐色土(10YR6/2)　径１～３㎜の黄橙色軽石多量、径１㎜の黄橙色粒を少量含む。
Ⅷ　浅黄橙色土(10YR8/4)　径１～５㎜の黄橙色軽石多量、径１㎜の黄橙色粒・にぶい浅黄橙色ブロックを含む。
Ⅸ　褐灰色土(10YR6/1)　径１～３㎜黄橙色軽石。径１㎜の橙色粒・浅黄橙色ブロックを含む。
Ⅹ　黄色土(2.5Y8/8)　径１～３㎜の黄橙色軽石。径１～２㎜の黄橙色粒・褐灰色ブロックを少量含む。

１区　南壁(第5図)

Ⅰ　表土。
1　褐灰色土(10YR6/1)　黄橙色土軽石を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　径１㎜の細粒白色軽石・径１～２㎜の橙色粒を含む。
3　褐灰色土(10YR4/1)　灰白色ブロック少量、径１㎜の細粒白色軽石を含む。
4　灰白色土(10YR7/1)　径１～２㎜の黄褐粒を含む。
5　黒色土(10YR2/1)　径１～２㎜の黄色粒を少量含む。

旧石器確認調査(第５図)

１～３面の遺構調査が終了した後、北壁と西部に旧石器確認調査を行った。遺構確認のため２つのトレンチを入れた。

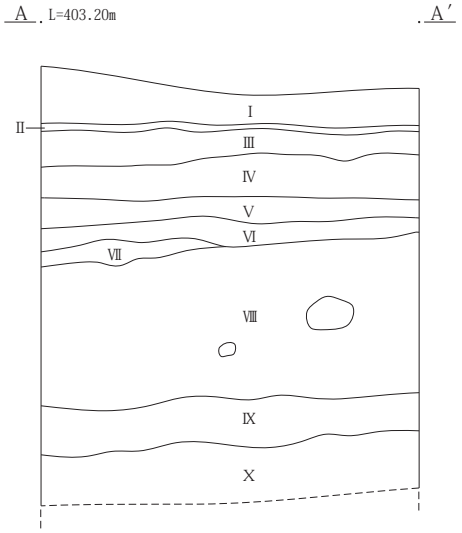
１号旧石器トレンチ(Ｘ=61915～920、Ｙ=-91058～063)

Ⅶ　灰黄褐色土(10YR6/2)　径１～３㎜の黄橙色軽石多量、径１㎜の橙色粒を少量含む。
Ⅷ　浅黄橙色(10YR8/4)　径１～５㎜の黄橙色軽石多量、径１㎜の橙色粒・にぶい浅黄橙色ブロックを含む。
Ⅸ　褐灰色土(10YR6/1)　径１～３㎜の黄橙色軽石。径１㎜の橙色粒・浅黄橙色ブロックを含む。
Ⅹ　黄色土(2.5Y8/8)　径１～３㎜の黄橙色軽石。径１～２㎜の橙色粒・褐灰色ブロックを少量含む。

２号旧石器トレンチ(Ｘ=61908～914、Ｙ=-91113～120)

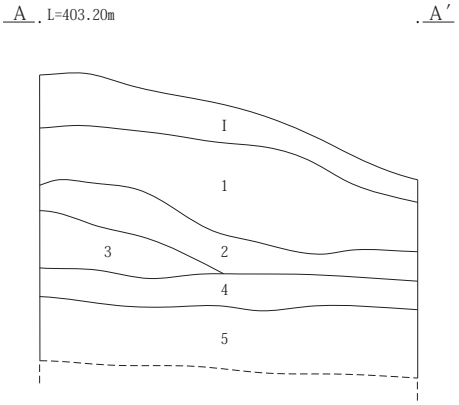
Ⅰ　灰白色土(10YR7/1)　径１～３㎜の黄橙色軽石。白色軽石多量、径１㎜の橙色粒・鉄分凝縮ブロックを含む。
Ⅸ　褐灰色土(10YR6/1)　径１～３㎜黄橙色軽石・白色

北壁基本土層
（台部）



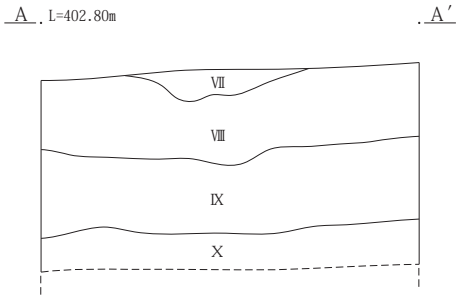
北壁
Ⅰ．表土
Ⅱ．表土下鉄分凝縮層
Ⅲ．暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。径１㎜の細粒白色軽石を含む。
Ⅳ．黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。径１～２㎜の細粒白色軽石を含む。
Ⅴ．黄褐色土(10YR5/8) As-Kk混土。As-Kk・径１～３㎜細粒白色軽石多量、径１㎜の黄橙色粒を少量含む。
Ⅵ．黒褐色土(10YR3/1)褐色土ブロック少量、径１㎜の細粒白色軽石を含む。
Ⅶ．灰黄褐色土(10YR6/2)径１～３㎜の黄橙色軽石多量、径１㎜の黄橙色粒を少量含む。
Ⅷ．浅黄橙色土(10YR8/4)径１～５㎜の黄橙色軽石多量、径１㎜の黄橙色粒・にぶい浅黄橙色ブロックを含む。
Ⅸ．褐灰色土(10YR6/1)径１～３㎜の黄橙色軽石。径１㎜の橙色粒・浅黄橙色ブロックを含む。
Ⅹ．黄色土(2.5Y8/8)Ⅷ層に類似する。径１～３㎜の黄橙色軽石。径１～２㎜の黄橙色粒・褐灰色ブロックを少量含む。

南壁土層
（低地部周縁）



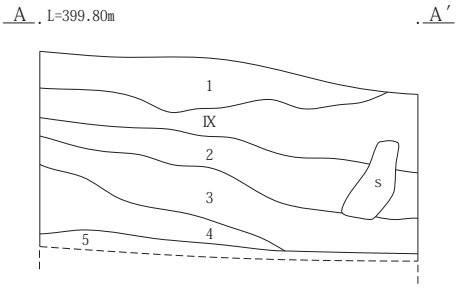
南壁
Ⅰ．表土
１．褐灰色土(10YR6/1)黄橙色軽石を少量含む。粘質土。
２．黒褐色土(10YR3/1)径１㎜の細粒白色軽石・径１～２㎜の橙色粒を含む。
３．褐灰色土(10YR4/1)灰白色ブロック少量、径１㎜の細粒白色軽石を含む。
４．灰白色土(10YR7/1)径１～２㎜の黄色粒を含む。
５．黒色土(10YR2/1)径１～２㎜の黄色粒を少量含む。

１号旧石器トレンチ



１号旧石器トレンチ
Ⅶ．灰黄褐色土(10YR6/2)径１～３㎜の黄橙色軽石多量、径１㎜の橙色粒を少量含む。
Ⅷ．浅黄橙色土(10YR8/4)径１～５㎜の黄橙色軽石多量、径１㎜の橙色粒・にぶい浅黄橙色ブロックを含む。
Ⅸ．褐灰色土(10YR6/1)径１～３㎜の黄橙色軽石。径１㎜の橙色粒・浅黄橙色ブロックを含む。
Ⅹ．黄色土(2.5Y8/8)Ⅷ層に類似する。径１～３㎜の黄橙色軽石。径１～２㎜の橙色粒・褐灰色ブロックを少量含む。

２号旧石器トレンチ



２号旧石器トレンチ
１．灰白色土(10YR7/1)径１～３㎜の黄橙色軽石・白色軽石多量、径１㎜の橙色粒・鉄分凝縮ブロックを含む。
Ⅸ．褐灰色土(10YR6/1)径１～３㎜の黄橙色軽石・白色軽石多量、径１㎜の橙色粒を含む。
２．褐灰色土(10YR5/1)径１～３㎜の黄橙色軽石・白色軽石多量、浅黄橙色ブロックを含む。
３．褐灰色土(10YR4/1)径１～３㎜の黄橙色軽石・白色軽石・鉄分凝縮ブロックを多量に含む。
４．褐灰色土(10YR5/1)径１～３㎜の黄橙色軽石・鉄分凝縮ブロック多量、径１㎜の白色軽石を含む。
５．黒褐色土(10YR3/1)浅黄橙色ブロック少量、径１～２の黄橙色軽石・白色軽石を含む。

0　1：40　1m

第５図　基本土層、３面１号・２号旧石器トレンチ土層断面

軽石多量、径１㎜の橙色粒を含む。

２　褐灰色土(10YR5/1)　径１～３㎜黄橙色軽石・白色軽石多量、浅黄橙色ブロックを含む。

３　褐灰色土(10YR4/1)　径１～３㎜の黄橙色軽石・白色軽石・鉄分凝縮ブロック多量に含む。

４　褐灰色土(10YR5/1)　径１～３㎜の黄橙色軽石・鉄分凝縮ブロック多量、径１㎜の白色軽石を含む。

５　黒褐色土(10YR3/1)　浅黄橙色ブロック少量、径１～２㎜の黄橙色軽石・白色軽石を含む。

第６節　調査の経過

吾妻東バイパス建設事業に伴う発掘調査は、先述した通り、令和３年の２ヶ月に亘って合計3666.00㎡を対象として実施した。

調査対象地は東吾妻町川戸地区にあたり吾妻川の支流である深沢川の左岸に立地する。深沢川を挟んだ北東には､縄文時代から古代の遺構を確認した深沢遺跡がある。

１．発掘調査の経過

令和３年度は１区を対象として、10月～ 11月に調査を行った。調査区は１区のみであるが残土置き場が狭いため、西側部分の調査を終了させ、その後東側部分を調査した。調査面は３面確認されている。出土遺物がほとんど確認されないので明確な時期を特定できなかったが、溝等から出土した土師器、須恵器の小破片から時期を想定した。遺構調査後、旧石器の確認トレンチ2ヶ所を設定してその有無を確認したが、遺物は確認されなかった。以下に、主な調査経過を記す。

10月１日　現地調査事務所の設営等、調査の準備を開始する。

10月４日　１区東部重機による表土掘削を開始する。

10月６日　重機による表土掘削を継続、１面の人力による遺構確認を開始する。

10月11日　重機による表土掘削を継続、土坑・溝・畑確認作業継続。

10月15日　遺構確認、土坑・溝・畑・集石遺構確認作業継続。

10月19日　１区遺構確認作業継続。

10月27日　１区西部掘削開始。

10月28日　１区西部掘削継続。

11月１日　１区３面１号溝精査。

11月２日　１区３面１号溝精査継続。

11月５日　１区３面１号溝精査継続。３～５号畑精査開始。

11月８日　１区２号溝精査、４・５号畑精査開始。18号土坑精査。

11月10日　１区３面遺構確認。２号溝、５～７号畑、11～ 19号土坑精査。遺構写真・測量。

11月11日　１区３面２～７号ピット精査。６・７号畑精査。

11月12日　１区３面19・20号土坑精査。

11月15日　１区３面20号土坑精査。

11月18日　１区３面７～９号溝精査。22～25・28号土坑精査。10・11号畑精査。

11月22日　１区３面８・９号溝精査。29･32号土坑精査。

11月24日　１区３面10号溝精査。10～ 12号畑精査。28～32号土坑精査。

11月25日　旧石器確認トレンチ掘削。写真測量。

11月26日　埋め戻し準備、機材片付け、道路清掃。

11月29日　埋め戻し終了、道路清掃、環境整備。

11月30日　調査終了、撤収。

２．整理事業の経過

整理事業は、令和５年11月１日から令和６年３月31日に実地した。遺構は畑・溝・土坑・ピット・集石と遺構面積も少なく竪穴建物は確認されていない。傾斜地のため集落等の生活地ではなかったと考えられる。出土遺物は小破片が多く、畑・溝覆土中出土がほとんどである。時期的には中世から奈良・平安時代のものである。実測した土器は平安時代の須恵器蓋･椀の２個体のみである。遺構は図面修正と遺構の土の堆積土を照合し、時期を検討した。遺物写真を撮り、報告書に掲載する遺構写真を選別した。掲載する遺構図、写真のレイアウトを組み、その作業の中でデジタル編集を進めた。本文執筆を並行し、各遺構の表を合わせ全体のデジタル編集を行った。印刷・製本は業者委託して発掘調査報告書を刊行した。整理した遺物や写真については、管理台帳を作成し、活用に備えて遺物や資料類の収納作業を行い、すべての整理業務を完了した。

第２章　遺跡の地理的・歴史的環境

第１節　地理的環境

川戸太田遺跡は、群馬県北西部、吾妻郡東吾妻町大字川戸に所在する。東流する吾妻川の右岸段丘上に位置し、榛名山麓から北流して吾妻川に注ぐ深沢川左岸にある。榛名山北西麓の末端に立地する。標高は400m前後を測る。川戸太田遺跡は、吾妻東バイパス建設事業に伴う発掘調査（令和３年度）である。現在も吾妻東バイパス建設事業に伴う発掘調査は進行している。

吾妻郡東吾妻町は、平成18（2006）年３月27日に吾妻郡吾妻町と東村が合併して成立した。榛名山の北側に位置し、町域の北・西・南には標高1000m級の嶺が連なり、吾妻川を挟んだ南側に榛名山や浅間隠山、北側には岩櫃山や吾嬬山などが聳え、町域内を吾妻川・温川・深沢川などの河川が流れている。周辺の山地は、急峻な地形を呈している。なお、本遺跡から北側に望む岩櫃山は標高802mの岩山で、奇岩・怪石からなる山容は吾妻八景を代表する景勝地としても知られている。

吾妻川は、長野県との県境である鳥居峠付近を源とし、吾妻郡内を西から東へと流れている。川沿いには河岸段丘が発達しており、上位段丘面群である萇原面・成田原面、中位段丘面である新巻面、下位段丘面である中之条面、最下位段丘面群である伊勢町面群に分類される。これら段丘面のうち、上位段丘面群に下部～上部ローム層が、中位段丘面に中部～上部ローム層が、下位段丘面に上部ローム層が堆積している。最下位段丘面群にはローム層が堆積していない。なお、2020年に刊行された『四戸遺跡』（公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告　第668集）には、地質の詳細が掲載されている。その中で相京建史・山口一俊は、地質調査地域での成田原面の下位にある段丘面は中之条（Ｎｋ）面であり、温川沿いに連続し、吾妻川に沿っては吾妻渓谷の下流側の両岸に連続するが、その分布は下流ほど狭くなるという。このＮｋ面と地形分類した地点は上部ローム層で直接覆われており、本遺跡の西側に位置する新井遺跡も当たるが、東から西側にＮｋ面から伊勢町Ⅰ（Is－Ⅰ）面へと緩傾斜で移行し、温川右岸で段丘崖となる。そして、中之条面の下位にあたる伊勢町面群は３面に分けられ、Is－Ⅰ面は調査地域の上流から下流にかけての連続する幅広い平坦な段丘面を形成し、温川西岸の四戸の古墳群や四戸遺跡、万木沢Ｂ遺跡等が該当する。また、Is－Ⅰ面は露頭の観察やボーリングデータから見る限り、ローム層の堆積はなく、四戸遺跡等でのローム層に類似した褐色砂礫層は吾妻川の段丘礫層で、厚さ８ｍの褐色砂礫層の最上部の堆積物であるともしている。

吾妻川中流域の広い面積を占めるIs－Ⅰ面上には多くの遺跡が占めており、その下位となるIs－Ⅱ・Ⅲ面は共に狭い段丘面で調査された遺跡は少ない。また、Is－Ⅰ面を天明泥流堆積物に覆われる遺跡も知られ、泥流堆積物中に貯留した巨岩の存在も数多く知られている。本遺跡も、そうした天明泥流堆積物に覆われた遺跡である。

本遺跡の西約７㎞に位置する国指定名勝吾妻峡も、吾妻川によって形成された峡谷で、吾妻郡東吾妻町大字松谷の雁ヶ沢川との合流地点付近から、吾妻郡長野原町大字川原湯の八ッ場ダム東側にかけての約４㎞に亘っている。

榛名山は、標高1449mの掃部ヶ岳を最高峰とする複式成層火山であり、山頂部にはカルデラ、カルデラ湖、中央火口丘等が、山体斜面には熔岩ドームや爆裂火口が存在し、古墳時代６世紀の初頭と前半とされる二度の噴火が発生している。榛名山北側山麓の大部分は火山麓扇状地であり、大谷沢川・深沢川・寺沢川・大泉寺川・泉沢川・奥田川などの放射谷が山体を抉っている。泉沢川以西では、火山麓扇状地原面の一部が保存されている。周辺の山地は、急峻な地形を呈している。

第２節　歴史的環境

遺跡のある東吾妻町は、吾妻郡の東南に位置し、名勝地「吾妻渓谷」を有する吾妻川が町内を東へと流下する。古代にあっては「吾妻郡」の一角をなし、戦国武将「真田氏」の岩櫃城（国指定史跡）、近世の大戸関はよく知られているところである。特に、郷原遺跡から出土した縄文

時代後期の「ハート形土偶」（国指定重要文化財）、岩櫃山の山頂付近には弥生時代中期の「岩櫃山鷹の巣遺跡」といった著名な遺跡がある。また、近年の上信自動車道吾妻西バイパスおよび吾妻東バイパス建設に伴う発掘調査が進行し、その調査件数が増大している状況にある。

ここでは、各時代を通じた概要を記すこととする。

１．旧石器時代

吾妻郡内での旧石器時代の遺跡調査事例は極めて少なく、高山村に所在する新田西沢遺跡が知られているのみで、東吾妻町での調査例はない。

２．縄文時代

縄文時代後期のハート形土偶で知られる郷原遺跡(34)や、後・晩期の唐堀遺跡(23)、八ッ場ダム関連調査での上郷岡原遺跡が知られているものの、東吾妻町内での縄文時代遺跡の発掘調査例は少なかった。近年の上信道吾妻西バイパス調査では、新井遺跡(13)、四戸遺跡(15)、万木沢Ｂ遺跡(21)、唐堀遺跡、唐堀Ｃ遺跡(22)、細谷遺跡において縄文時代の遺構・遺物が報告されている。また、現在発掘調査が進められている上信道吾妻東バイパス調査においても、縄文時代の遺構の検出が相次いでいる。それ以外にも、縄文時代の遺物が出土している遺跡は多くある。

早期の遺構が検出された遺跡には、令和２年に発掘調査された上信道吾妻東バイパスの下泉Ａ遺跡があり、撚糸文期の集石が検出されている。

前期の遺構が検出された遺跡として、四戸遺跡では前葉の竪穴建物や土坑、新井遺跡では中葉の竪穴建物と土坑、唐堀Ｃ遺跡と細谷遺跡では後葉の竪穴建物と土坑が検出されている。

中期の遺構が検出された遺跡としては、郷原遺跡において、昭和59年と平成６年に発掘調査が行われ、中期後半の竪穴建物が検出されている。また、上信道吾妻東バイパス調査でも、岩井山根Ｂ遺跡、深沢遺跡（４）、箱島下寄居遺跡で竪穴建物や土坑が検出されている。

後期の遺構が検出された遺跡として、郷原遺跡での昭和59年と平成６年の調査において初頭の敷石建物や配石土坑が検出され、新井遺跡では初頭の敷石建物が検出されている。上郷岡原遺跡でも後期初頭から後期前半にかけての敷石建物や竪穴建物が多く検出されている。また、昭和55年に調査された唐堀遺跡が、後期から晩期の多量の遺物を出土したとして知られている。

晩期の遺構が検出された遺跡としては、唐堀遺跡がある。後期後半から晩期の竪穴建物や土坑、配石遺構、水場遺構等が検出され、遮光器土偶の頭部をはじめとする多量の遺物が出土している。また、万木沢Ｂ遺跡では、晩期終末期から弥生時代前期の遺物が多量に出土している。さらに、近年調査された植栗山根Ａ遺跡(69)では、竪穴建物や土坑が検出されている。

３．弥生時代

前期の遺跡として、万木沢Ｂ遺跡がある。上部に配石を伴う埋設土器を有し、在地土器と共に東海や西日本系、北陸系、南東北・越後系といった他地域の土器を伴出している。

中期の遺跡としては、「岩櫃山式土器」の標式遺跡である岩櫃山鷹の巣遺跡(38)、再葬墓が検出された前畑遺跡(29)が知られている。前畑遺跡は吾妻川の河岸段丘の最下位段丘面群上に立地する一次埋葬地であり、また、岩櫃山鷹の巣遺跡は岩櫃山の岸壁に立地する二次埋葬地と考えられている。他に、新井遺跡では土坑や遺物、四戸遺跡では竪穴建物が検出されている。

後期の遺構が検出された遺跡として、四戸遺跡および四戸の古墳群(14)、新井遺跡、唐堀Ｂ遺跡(24)がある。四戸遺跡４区から四戸の古墳群に跨る地点には、多くの竪穴建物が検出され、同一集落であることが明らかとなっている。また、この四戸遺跡での後期の集落は、吾妻川流域にあって最も西側に位置する大規模な集落でもある。新井遺跡からは、竪穴建物、方形周溝墓、円形周溝墓、大型の方形土坑等が検出されている。さらに、唐堀Ｂ遺跡においても竪穴建物を含む集落が確認されている。

近年の上信道吾妻東バイパス調査でも、岩井山根Ｂ遺跡で竪穴建物が検出されている。

４．古墳時代

当該地域は、本県における古墳所在地の最北西端の地として知られてきた。四戸遺跡のある段丘上の東縁には昭和47(1972)年３月１日に町指定となった四戸古墳群が

ある。この四戸古墳群は、昭和13(1938)年の『上毛古墳総覧』に20基を超える記載があり、その内の四戸Ⅰ号墳(総覧　岩島村19号)、四戸Ⅱ号墳(総覧　岩島村16号)、四戸Ⅲ号墳(総覧　岩島村13号)、四戸Ⅳ号墳は、昭和39・42（1964・1967)年に群馬大学による調査が行われている。また、事業団で６世紀後半から７世紀中頃の横穴式石室を３基調査している。他にも『上毛古墳総覧』に記載された古墳として、上古墳(総覧　岩島村43号)(19)、玉科遺跡(総覧　川戸42 ～ 51号)（３)、下郷古墳群(総覧　川戸62 ～ 69号)（７)、原町下之町古墳群(総覧　川原１～ 16号)（54)、町指定史跡の金井廃寺遺跡(総覧川戸75号)(55)、岩井寺沢古墳(総覧　大田村17号)(56)、岩井西古墳群(総覧　大田村１～ 14号)（58)、白山神社遺跡(総覧　大田村21号)（60)等がある。

当地域における古墳時代の集落については、「姉山の石組カマド」として緩斜面に立地する竪穴建物に構築された山石利用の石組カマドが知られるぐらいで、不明な点が多かった。しかし、上信道吾妻西バイパスに伴う発掘調査によって、古墳時代前期から後期に至る集落も検出され、古墳時代の集落の展開も次第に判明しつつある。まず、本遺跡でも上信道吾妻西バイパス調査として発掘調査された厚田中村遺跡(12)西側部分では、６世紀初頭に降下したと考えられている榛名山二ツ岳火山灰(Hr-FA)によって埋没した古墳時代の極小区画水田が部分的に検出され、当該地域における古墳時代の極小区画水田の初めての検出事例となった。

西側に隣接する新井遺跡からは、中期から後期の集落、方形周溝墓２基、古墳３基も検出されている。一辺約17ｍ程度の6世紀代の方墳が調査されている。唐堀遺跡からは、６世紀後半の円墳１基が検出されている。

西側となる四戸遺跡からは、古墳時代前期から後期までの多くの竪穴建物が検出されており、５世紀後半に急増した竪穴建物は、その後も安定した棟数を保ちながら継続した集落が展開している。この集落展開の状況は、段丘東縁の四戸の古墳群の造営に大きくかかわったであろうことは明らかで、古墳群の時期と集落の規模・変遷が物語っている。特に竪穴建物には、古墳の石室を彷彿とさせる石組カマドを有する例が数多く、併せてカマド方向を変える建て替えを行った竪穴建物も数多い。また、万木沢Ｂ遺跡や唐堀Ｃ遺跡でも竪穴建物が検出されている。

一方、上信道吾妻東バイパス調査では、下泉Ｂ遺跡、岩井山根Ｂ遺跡、箱島下寄居遺跡で、近年の発掘調査では植栗中原遺跡(67)、小渕沢Ｂ遺跡(63)、植栗山根Ａ遺跡で、竪穴建物や土坑、水田といった遺構・遺物が出土している。

５．奈良・平安時代

律令制下における群馬県域はほぼ上野国の領域に当たり、国内には「碓氷・片岡・甘楽・多胡・緑野・那波・群馬・吾妻・利根・勢多・佐位・新田・山田・邑楽」の14郡が置かれた(当初13郡、和銅４(711)年に多胡郡設置で14郡)。吾妻郡には「長田」、「伊参」、「太田」の３郷があったとされ、吾妻郡中之条町大字市城付近は官牧である「市代牧」の所在地に比定されている。また、本遺跡の北東約4.5㎞に位置する白鳳期寺院の金井廃寺は、７世紀後半から９世紀前半にかけての寺院跡として知られ、佐位郡の郡領層が建立した寺院と考えられる伊勢崎市上植木廃寺と同笵の軒丸瓦が採取されている。県内では前橋市の山王廃寺(放光寺跡)、伊勢崎市の上植木廃寺、太田市の寺井廃寺とこの金井廃寺以外に、本格的な白鳳期寺院の遺跡は発見されていない。金井廃寺の存在は、いち早く本格的な寺院を建立できるような強い経済基盤を有する在地首長が存在していた証でもある。

本遺跡周辺における奈良・平安時代の遺跡は、前畑遺跡での集落と白鳳期寺院である金井廃寺の存在が知られるに止まっていたが、上信道吾妻西バイパスに伴う発掘調査による奈良・平安時代の遺跡の検出事例は格段に多くなり、新たな注目をよんでいる。

奈良・平安時代の集落では、本遺跡の西隣に位置する新井遺跡に平安時代(９世紀)の集落が検出されている。その西側の温川と万木沢川に挟まれた四戸遺跡では、前代から続く７世紀後半から10世紀前半までの数多くの竪穴建物と掘立柱建物から成る集落が調査され、前代の竪穴建物と同様な石組みカマドが構築される例も多く存在し、石組カマドが継続的に造られていたことが明らかとなっている。また、墨書・刻書土器には、「寺」、「吾」、「牧」、「丈」、「石」の文字があり、金井廃寺や金井廃寺の近隣に存在したであろう吾妻評・郡家との密接な関連性が示唆されている。さらに、９世紀後半の竪穴建物からは、ほ

ぼ完形の状態での大型奈良三彩短頸壺が出土し、その希少性および特異性も含め、大きく注目されている。また、万木沢川の西側となる万木沢Ｂ遺跡や唐堀Ｃ遺跡、根小屋遺跡でも、平安時代の竪穴建物が検出されている。

さらに、生産遺構として、古代の畑や水田も検出されている。厚田中村遺跡の吾妻西バイパス調査分（厚田中村遺跡は吾妻東西バイパスにまたがっている。）では、天仁元（1108）年降下の浅間山火山灰（As-B）によって埋没した水田が検出されている。四戸遺跡では、畝間溝にAs-Bを多量に混在した状態で埋没した畑が検出され、吾妻地域での初例となった。また、不明瞭ではあるが同火山灰下に小規模な水田も検出している。万木沢Ｂ遺跡においても、As-B直上に小規模な畑、その上位に12世紀前半の降下とされる浅間粕川テフラ（As-Kk）層の直下に畑を検出している。唐堀Ｃ遺跡では、As-Bで埋没した畑が検出されている。こうした古代の畑や水田は、平安時代の集落の検出面の上に検出される例が多く、集落廃絶後に大きな土地利用の変換がなされたことを物語っている。

一方、上信道吾妻東バイパス調査では、小田沢遺跡、下泉Ｂ遺跡、岩井山根Ｂ遺跡、深沢遺跡、川戸太田遺跡（１）で、近年の発掘調査での植栗中原遺跡、小渕沢Ｂ遺跡、植栗山根Ａ遺跡で、竪穴建物や土坑、水田といった多くの遺構・遺物が出土している。

６．中・近世

天仁元（1108）年の浅間山噴火後、上野国内では荘園開発への動きが活発になる。吾妻郡域においては、12世紀末頃に秀郷流藤原氏である吾妻氏（前吾妻氏）が台頭する。『吾妻鏡』には、吾妻八郎、吾妻太郎助亮、吾妻四郎助光の名が見え、承久３（1221）年に勃発した承久の乱において吾妻助光が戦死したことにより前吾妻氏は滅亡したと言われている。その後、嘉禎年間（1235～1238年）に、前吾妻氏と同様、秀郷流藤原氏を称する吾妻（下河辺）行家が鎌倉幕府より吾妻郡を賜った。これを学界では、便宜的に後吾妻氏と称している。貞和５（1349）年に吾妻行盛が里見義侯との争いで戦死し、後吾妻氏は滅亡したとの伝承がある。東吾妻町大字岩井の長福寺五輪塔に刻まれた「藤原行盛」がこの吾妻行盛であるとされるが、戦死の一件については疑問視もされている。

14世紀末のこの地域では、秀郷流藤原氏の齊藤氏が台頭し、永禄４（1561）年の上杉輝虎の関東出兵時の「関東幕注文」には「岩下衆　齊藤越前守　六葉柏」とあり、齊藤氏が岩下城（28）を中心に勢力を張ったことが窺える。

16世紀前半には温川上流の手子丸城（大戸城）（32）に拠った大戸氏が勢力を伸ばし、根小屋城に入っている。この根小屋城跡は、吾妻西バイパス建設に伴い発掘調査され、竪穴状遺構、土坑、ピットなどが検出された。

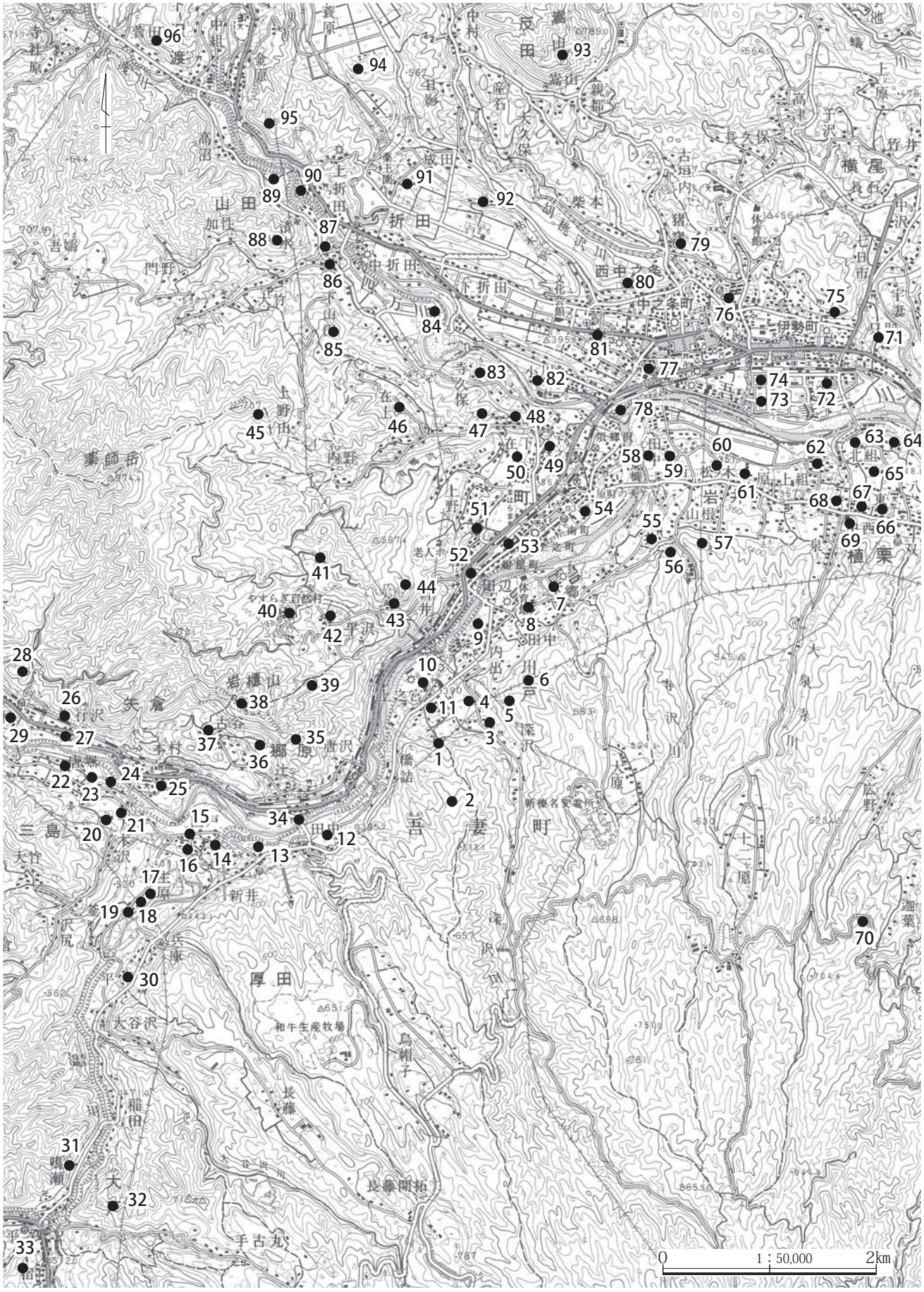
永禄６（1563）年、甲斐・信濃を領した武田信玄の上野国西部への侵攻により、大戸氏は武田氏に従属し、武田氏の部将真田幸隆により岩下城（齊藤氏の居城）が落城。岩櫃城（39）が武田氏の拠点となったことにより、吾妻郡域は武田氏の支配下となる。その後、岩櫃城は天正10（1582）年の武田氏滅亡後に真田氏の支配下となり、元和元（1615）年の「一国一城令」により破却されるまで存続した。この岩櫃城は、令和元年10月16日に国指定史跡となった。

徳川家康の江戸入府後、本遺跡のある厚田村は引き続き真田氏の支配下にあった。

その後の天明３（1783）年には、浅間山が大噴火する。火山灰（As-A）を降下させ、吾妻川流域では噴火に伴う泥流被害が知られている。八ッ場ダム建設に伴って数多くの泥流下の遺跡が確認されており、さらに下流となる本遺跡においても泥流が覆っている。

中・近世の遺構を検出した遺跡には本遺跡を含め、吾妻西バイパス調査での根小屋城跡や根小屋Ｂ遺跡、根小屋遺跡、新井遺跡、四戸遺跡、万木沢Ｂ遺跡、唐堀遺跡、唐堀Ｂ遺跡、唐堀Ｃ遺跡、細谷Ｅ遺跡があり、掘立柱建物、墓壙、土坑、溝、畑等が検出されている。また、天明泥流によって埋没した畑や水田が検出されている遺跡には、本遺跡や新井遺跡、唐堀遺跡がある。

一方、上信道吾妻東バイパス調査では、小田沢遺跡、下泉Ａ遺跡、岩井山根Ｂ遺跡、深沢遺跡、川戸太田遺跡、箱島下寄居遺跡で、近年の発掘調査での植栗中原遺跡、で、中世の掘立柱建物や土坑、畑といった多くの遺構が検出されている。



第６図　周辺遺跡分布図（国土地理院１/50,000地形図「中之条」平成10年８月１日発行を使用）

第２表　周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	時代	種別	調査歴・備考	参考文献
1	川戸太田遺跡	東吾妻町大字川戸			本遺跡	
2	川戸椿原遺跡	東吾妻町川戸1364-2他	縄	その他	陥し穴	17
3	玉科遺跡	東吾妻町川戸1602-1	縄・弥・古	散布地、古墳	古墳総覧　川戸42 ～ 51	45
4	深沢遺跡	東吾妻町川戸深沢	縄・古	集落		46
5	水上遺跡	東吾妻町川戸水上	縄・古	集落		46
6	城峯城跡	東吾妻町川戸	中	城館	中世城館跡789	44
7	下郷古墳群	東吾妻町川戸甲271	縄・弥・古・奈・平	古墳、掘立柱建物、その他	古墳綜覧　川戸村62 ～ 69 平成24・25年調査(埋文事業団)	16・23・42
8	下郷Ａ遺跡	東吾妻町川戸下郷284	縄・古	散布地		46
9	内出城跡	東吾妻町川戸	中	城館	中世城館跡788	40・44
10	川戸神社西古墳	東吾妻町川戸	古	古墳		42・45
11	上ノ宮遺跡	東吾妻町川戸上ノ宮	古	散布地		46
12	厚田中村遺跡	東吾妻町厚田840他	古・奈・平・近	水田、畑	平成25・26・28年、令和２・３年調査(埋文事業団)	20・25・33
13	新井遺跡	東吾妻町厚田新井646他	縄・弥・古・奈・平	集落	平成26 ～ 28・30年調査(埋文事業団)	32
14	四戸の古墳群	東吾妻町三島77他	弥・古・奈・平・中	集落、古墳	平成30年度調査(埋文事業団)	27
15	四戸遺跡	東吾妻町三島	縄・弥・古・奈・平・中	集落	平成25 ～ 28・30年調査(埋文事業団)	26
16	峰遺跡	東吾妻町三島四戸388	古	散布地		46
17	生原遺跡	東吾妻町三島生原620	古	古墳		10
18	石村下古墳	東吾妻町三島生原620	古	古墳		46
19	上古墳	東吾妻町三島生原580-1	古	古墳	古墳綜覧　岩島村43	42・45
20	上反遺跡	東吾妻町三島字3203	縄	散布地		36・39
21	万木沢Ｂ遺跡	東吾妻町三島字3324	縄・弥・古・奈・平・中	集落、生産	平成29年度調査(埋文事業団)	31
22	唐堀Ｃ遺跡	東吾妻町三島字唐堀	縄・古・奈・平・中・近	集落、その他	平成28・30年調査(埋文事業団)	29
23	唐堀遺跡	東吾妻町三島字唐堀	縄・古・奈・平・近	集落、その他	昭和55年調査(吾妻町教育委員会) 平成27 ～ 30年調査(埋文事業団)	２・28・30
24	唐堀Ｂ遺跡	東吾妻町三島字唐堀	縄・弥・古・奈・平・近	集落	平成26・27年調査(埋文事業団)	24
25	岩島４号墳	東吾妻町矢倉本町	古	古墳	円墳径17m　横穴式石室	12
26	行沢古墳	東吾妻町矢倉	古	古墳		42・45
27	胴塚古墳	東吾妻町矢倉寄行沢	古	古墳	古墳綜覧　岩島村６	42・45
28	岩下城跡	東吾妻町岩下	中	城館	中世城館跡779	36・40・41・44
29	前畑遺跡	東吾妻町岩下76	縄・弥・古・奈・平・中	散布地、集落、墓、その他	昭和62年調査(吾妻町教育委員会)	９・14
30	平遺跡	東吾妻町大戸1361-1	古	散布地		46
31	千人窟陣城跡	東吾妻町大戸	中	城館	中世城館跡774	44
32	手子丸城跡	東吾妻町大戸	中	城館	中世城館跡775	44
33	大戸平城跡	東吾妻町大戸	中	城館	中世城館跡773	44
34	郷原遺跡	東吾妻町郷原592-1	縄・平・中	散布地、その他	昭和59年・平成６年調査(吾妻町教育委員会)	３・11・14
35	郷原城跡	東吾妻町郷原	中	城館	中世城館跡	46
36	潜龍院跡(古屋館)	東吾妻町郷原	中	社寺	中世城館跡778	40・41・44
37	古谷遺跡	東吾妻町郷原古谷	弥	散布地		36
38	岩櫃山鷹の巣遺跡	東吾妻町原町岩櫃山	弥	墓、その他	弥生時代の墓址(明治大学)　東吾妻町史跡	38
39	岩櫃城跡	東吾妻町原町在下	縄・中	散布地・城館	中世城館跡781 国指定史跡(令和元年10月16日指定)	５・18・19・36・40・44

No.	遺跡名	所在地	時代	種別	調査歴・備考	参考文献
40	岩櫃城跡北側遺構群	東吾妻町原町	縄・中	集落、城館	平成４年調査(吾妻町教育委員会)	6
41	蝦夷穴遺跡	東吾妻町原町雁陳山	弥	墓、その他		46
42	念仏塚遺跡	東吾妻町原町念仏塚1768	縄・弥	集落	平成３・４年調査(吾妻町教育委員会)	7
43	道心穴遺跡	東吾妻町原町4159	弥	散布地		46
44	柳沢城跡	東吾妻町平沢	中	城跡	中世城館跡783	5・40・44
45	高野平城跡	東吾妻町原町	中	城館	中世城館跡	40・44
46	上須郷遺跡	東吾妻町原町上須郷3295-1	古	集落	平成２年(吾妻町教育委員会)	4
47	稲荷城跡	東吾妻町原町在下	中	城館	中世城館跡787	40・44
48	在下古墳群	東吾妻町原町在下	古	古墳		
49	中学校裏遺跡	東吾妻町原町807-1	弥	散布地		43
50	東上野遺跡	東吾妻町原町上野2662-1他	縄・弥・古・奈・平	散布地、集落		46
51	諏訪前遺跡	東吾妻町原町1018-1	弥・古・奈・平・近	集落、古墳、鍛冶、その他	平成６・７年調査(吾妻町教育委員会)	13
52	善導寺前遺跡	東吾妻町原町1091-1	弥・平・近	散布地、墓、その他	平成７年調査(吾妻町教育委員会)	8
53	原町駅遺跡	東吾妻町原町上之町	平	散布地		46
54	原町下之町古墳群	東吾妻町原町460	古	古墳	古墳綜覧　原町１～16	42・45
55	金井廃寺遺跡	東吾妻町金井472-1	奈・平	寺院	東吾妻町指定史跡(昭和47年３月１日指定) 昭和53年発掘調査(吾妻町教育委員会)	1
56	岩井寺沢古墳	東吾妻町岩井字寺沢庚1693	古	古墳	古墳総覧　大田村17	42
57	先陣峠の砦跡	東吾妻町岩井	中	城館	中世城館跡794	44
58	岩井西古墳群	東吾妻町岩井字西135	古	古墳	古墳綜覧　大田村１～14	40・42・45
59	岩井古墳群	東吾妻町岩井田中	古	古墳		
60	白山神社遺跡	東吾妻町岩井	縄・弥・古	集落、古墳	古墳綜覧　大田村21	37・42
61	岩井松の木遺跡	東吾妻町岩井	縄・弥・古	集落、古墳		
62	植栗舞台遺跡	東吾妻町植栗	弥・古・奈・平	集落		46
63	植栗中原遺跡・小渕沢Ｂ遺跡	東吾妻町大字植栗	縄・弥・古	集落、古墳		34
64	植栗城跡	東吾妻町植栗	中	城館		44
65	植栗古墳群	東吾妻町植栗	古	古墳		
66	銅印出土地	東吾妻町植栗	奈・平	集落		
67	植栗中原遺跡	東吾妻町植栗中原3097他	縄・古・奈・平・近	散布地、集落、古墳		15
68	諏訪塚古墳	東吾妻町岩井	古	古墳	古墳綜覧　大田村22	46
69	植栗山根Ａ遺跡	東吾妻町大字植栗字山根	縄・古・奈・平・中・近	集落、生産跡		35
70	新浜住居跡	東吾妻町泉沢新浜1636-1他	縄	集落		46
71	只則古墳群	中之条町只則	古	古墳	古墳綜覧　中之条町13～15	42
72	伊勢町上原遺跡	中之条町伊勢町642	古・奈・平・中	集落		22
73	伊勢町川端遺跡	中之条町伊勢町３	弥・古・奈・平	集落、居館	昭和63・平成３～６年調査(中之条町教育委員会)	46
74	伊勢町天神遺跡	中之条町伊勢町天神748	弥・古・奈・平	集落、生産	平成２～５年調査(中之条町教育委員会)	
75	天代瓦窯遺跡	中之条町伊勢町1351-6	奈・平	生産遺跡		21
76	方満寺土師遺跡	中之条町中之条	古	散布地、集落	遺跡台帳3079	43
77	中条城址	中之条町中之条	中	城館	中世城館跡755	40・44
78	石之塔古墳	中之条町石の塔400-1	古	古墳	中之条町指定史跡	43
79	法満寺遺跡	中之条町中之条法満寺2268	弥	散布地	遺跡台帳3076	43
80	城峯城址	中之条町西中之条	中	城館	中世城館跡756 中之条町指定史跡(昭和63年３月26日指定)	40・44
81	永田原遺跡	中之条町西中之条永田原119	古	古墳、散布地	遺跡台帳3078 古墳綜覧　中之条町38	42・43

№.	遺 跡 名	所 在 地	時　代	種　別	調査歴・備考	参考文献
82	小川古墳群	中之条町小川362	古	古墳	古墳綜覧　中之条町25 ～ 28・31 ～ 34 町指定史跡(昭和63年３月26日指定)	42
83	寺久保古墳群	中之条町寺久保	古	古墳		
84	山田勝負瀬古墳群	中之条町山田119-3	古	古墳	古墳綜覧　澤田村１～４　　中之条町指定 史跡(笛吹塚　昭和63年３月26日指定)	42
85	山田城址(古城)	中之条町山田696	中	城館	中世城館跡750山田古城 中之条町指定史跡(平成６年12月１日指定)	44
86	吉城址	中之条町山田	中	城館	中世城館跡749	44
87	清水敷石住居跡	中之条町山田清水2289-3	縄	集落	遺跡台帳3065	43
88	桑田城址(寺山)	中之条町山田2181-1	中	城館	中世城館跡748 中之条町指定史跡(平成６年12月１日指定)	44
89	清水遺跡	中之条町山田				
90	折田屋敷跡	中之条町折田	中	城館	中世城館跡754	44
91	成田遺跡	中之条町折田成田原2344	弥	集落	遺跡台帳3062	43
92	成田原千貫遺跡	中之条町折田千貫2859	縄・弥	散布地	遺跡台帳3066	43
93	嵩山城址	中之条町五反田	中	城館	中世城館跡760 中之条町指定史跡(昭和63年３月26日指定)	44
94	蓑原遺跡	中之条町五反田4373-1	縄・奈・平	散布地、その他	平成17年立会調査(中之条町教育委員会)	
95	内山城址	中之条町折田2070-1	中	城館	中世城館跡753仙蔵城 中之条町指定史跡(平成６年12月１日指定)	44
96	天狗山城址	中之条町下沢渡	中	城館	中世城館跡746	44

参考文献

1　吾妻町教育委員会1979『金井廃寺遺跡』
2　吾妻町教育委員会1983『唐堀遺跡』
3　吾妻町教育委員会1985『郷原遺跡』
4　吾妻町教育委員会1992『上須郷遺跡』
5　吾妻町教育委員会1992『吾妻町指定史跡　岩櫃城跡－保存整備計画策定報告書－』
6　吾妻町教育委員会1994『岩櫃城北側遺構群遺跡』
7　吾妻町教育委員会1994『念仏塚遺跡』
8　吾妻町教育委員会1996『善道寺前遺跡』
9　吾妻町教育委員会1998『前畑遺跡』
10　吾妻町教育委員会1998『生原遺跡』
11　吾妻町教育委員会1999『郷原遺跡』
12　吾妻町教育委員会2002『岩島４号墳』
13　吾妻町教育委員会2004『諏訪前遺跡Ⅰ』
14　吾妻町教育委員会2006『町内遺跡Ⅲ　各種開発事業に伴う試掘確認調査報告書』
15　東吾妻町教育委員会2007『植栗中原遺跡』
16　東吾妻町教育委員会2011『東吾妻町　下郷古墳群遺跡』
17　東吾妻町教育委員会2011『川戸椿原遺跡』
18　東吾妻町教育委員会2016『東吾妻町指定史跡　岩櫃城跡－平成25年度第１次発掘調査報告書－』
19　東吾妻町教育委員会2018『東吾妻町指定史跡　岩櫃城跡総合調査報告書』
20　東吾妻町教育委員会2020『厚田中村２遺跡』
21　中之条町教育委員会1982『天代瓦窯遺跡』
22　中之条町教育委員会1999『伊勢町地区遺跡群・上原遺跡』
23　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『下郷古墳群』
24　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2017『唐堀Ｂ遺跡』
25　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2018『厚田中村遺跡』
26　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2020『四戸遺跡』
27　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2020『四戸の古墳群』
28　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『唐堀遺跡(１)』
29　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2021『唐堀Ｃ遺跡』
30　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2022『唐堀遺跡(２)』
31　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2022『万木沢Ｂ遺跡』
32　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2022『新井遺跡』
33　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2023『厚田中村遺跡(２)』
34　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2023『植栗中原遺跡・小渕沢Ｂ遺跡』
35　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2023『植栗山根Ａ遺跡』
36　吾妻教育會1929『群馬懸吾妻郡誌』
37　太田村誌編纂委員会1965『あがつま太田村誌』
38　杉原壮介1968「群馬県岩櫃山における弥生時代の墓址」『考古学集刊』第３巻４号　東京考古学会
39　岩島村誌編集委員会1971『岩島村誌』
40　山崎　一1972『群馬県古城塁址の研究　下巻』群馬県文化事業振興会
41　山崎　一・山崎武雄1972『吾妻郡城壘史』西毛新聞社
42　群馬県1938『上毛古墳綜覧』
43　群馬県教育委員会1972『群馬県遺跡台帳　西毛編Ⅱ』
44　群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城館跡』
45　群馬県教育委員会2017『群馬県古墳総覧』
46　群馬県総合型地理情報システム(ＧＩＳ)マッピングぐんま「遺跡」

第３章　検出された遺構と遺物

第１節　調査の概要

川戸太田遺跡は榛名山山麓部裾野に所在しする。このため調査区内の南東端部から北西端部の比高差が約4.2ｍを測る。調査区内ではAs-Kkが確認されるが、地形の関係で浅い部分では40㎝、深い部分では130㎝を測るところもある。さらにAs-Kkが確認できないところも存在する。このため比高差により、調査区全体が軽石に覆われているわけではなく、地形の高低差によってAs-Kkが高低差に合わせて混土で堆積している。このような調査区内の4.2ｍの傾斜の中に部分的に混土層を確認できる。このため遺跡の調査は傾斜に従い傾斜が強い部分には遺構は確認できていない。掘削は平坦に近い部分を削り、確認をした段階で遺構の検出精査を行った。このため１～３面としたが、高い部分では３面を掘り、谷地では１面の表土が厚い部分の調査を行ったため谷部に当たるところは溝等の確認から調査を行った。このため１～３面は同時に掘り進んだ部分もあり、面ごとに時期が確定できているわけではない。出土遺物はほとんどが磨滅した土師器・須恵器の小片であり、掲載遺物は１号溝、30号土坑出土の須恵器杯蓋と須恵器椀の口縁片である。１号溝出土の須恵器杯蓋の時期は８世紀代である。北西部で集石が２基検出され、１号集石のAs-Kk混土中から縄文時代の磨石が、遺構外から縄文早期と思われる石鏃が出土しているなど遺跡内は新旧混じりあっている。従って本遺跡の時期は古代から中近世という時期にある。おそらく低地谷地沿いに流路が形成され、低地に向かい水が流れたと考えられる。流路内から出土する石は角礫が多く流水が運んできた山麓の崩落したものと考えられ、狭い平坦な部分に畑や土坑が作られた可能性が高い。このため遺物がないので時期認定はできなかったが、畑のサク、土坑、溝(流路)の新旧関係は明確に確認できた。

第２節　畑

１号畑(第10図、PL．１・２)

１号畑は１区１面北西部北壁付近に位置し、X=61913～917、Y=-91103～107の範囲にある。サクは北東から南西に向かって、等高線にほぼ並行して平坦面に作られている。規模は、長軸4.34m、短軸2.38m、サク数10、サク幅９～20㎝、深さ１～17㎝、を測る。方位はＮ-46°-Ｅを指す。覆土は本遺跡の基本層序のⅢ～Ⅴ層にあたるAs-Kkの混土にあたる。他の遺構との重複はない。

２号畑(第10図、PL．２)

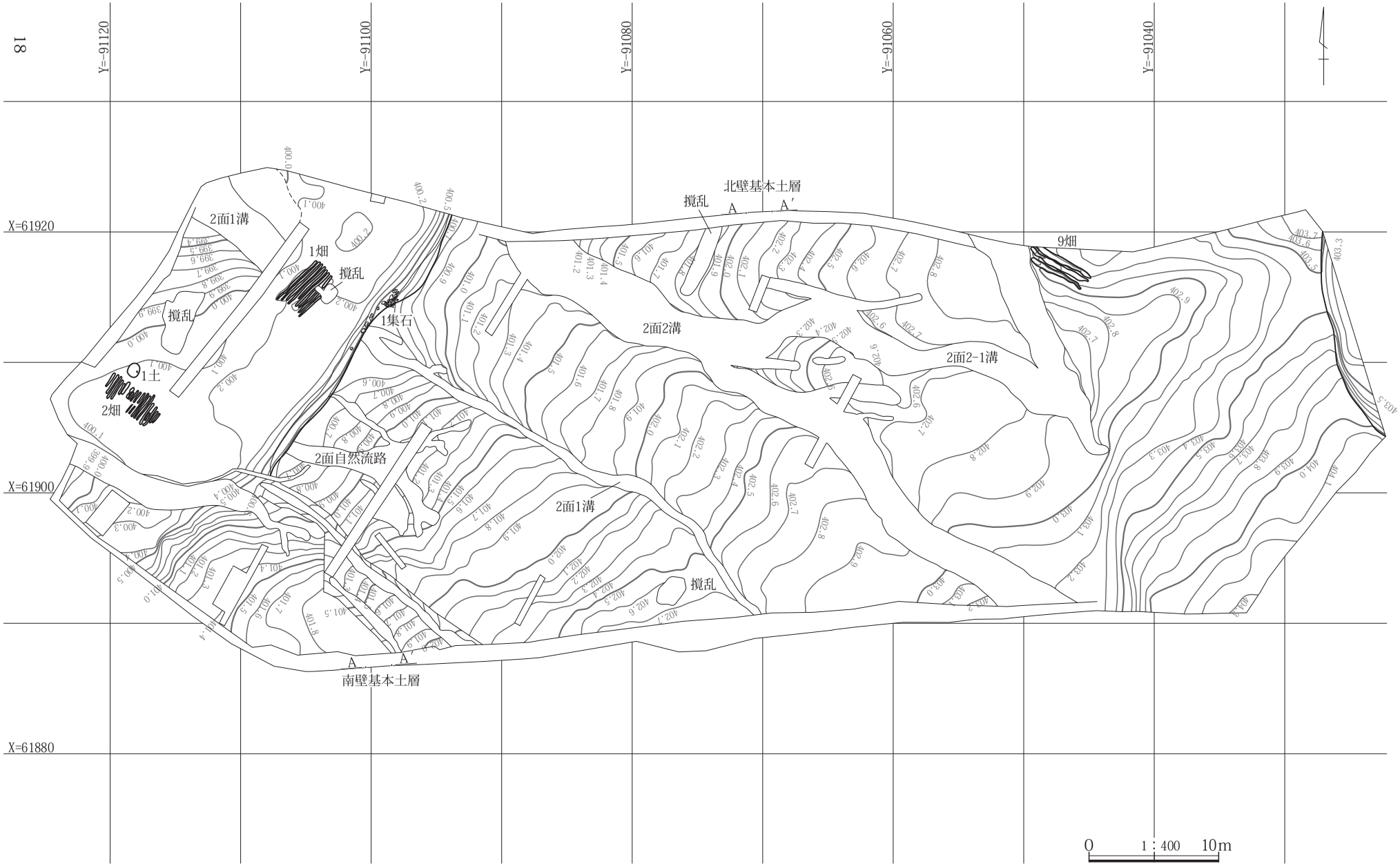
２号畑は１区１面南西部に位置し、X=61905～909、Y=-91116～120の範囲にある。サクは北東から南西に向かって、ほぼ平坦面に作られている。規模は、長軸4.74m、短軸2.26m、サク数22、サク幅４～25㎝、深さ１～７㎝を測る。方位はＮ-35°-Ｅを指す。覆土は本遺跡の基本層序のⅢ～Ⅴ層にあたる。他の遺構との重複はない。

３号畑(第11図、PL．３・４)

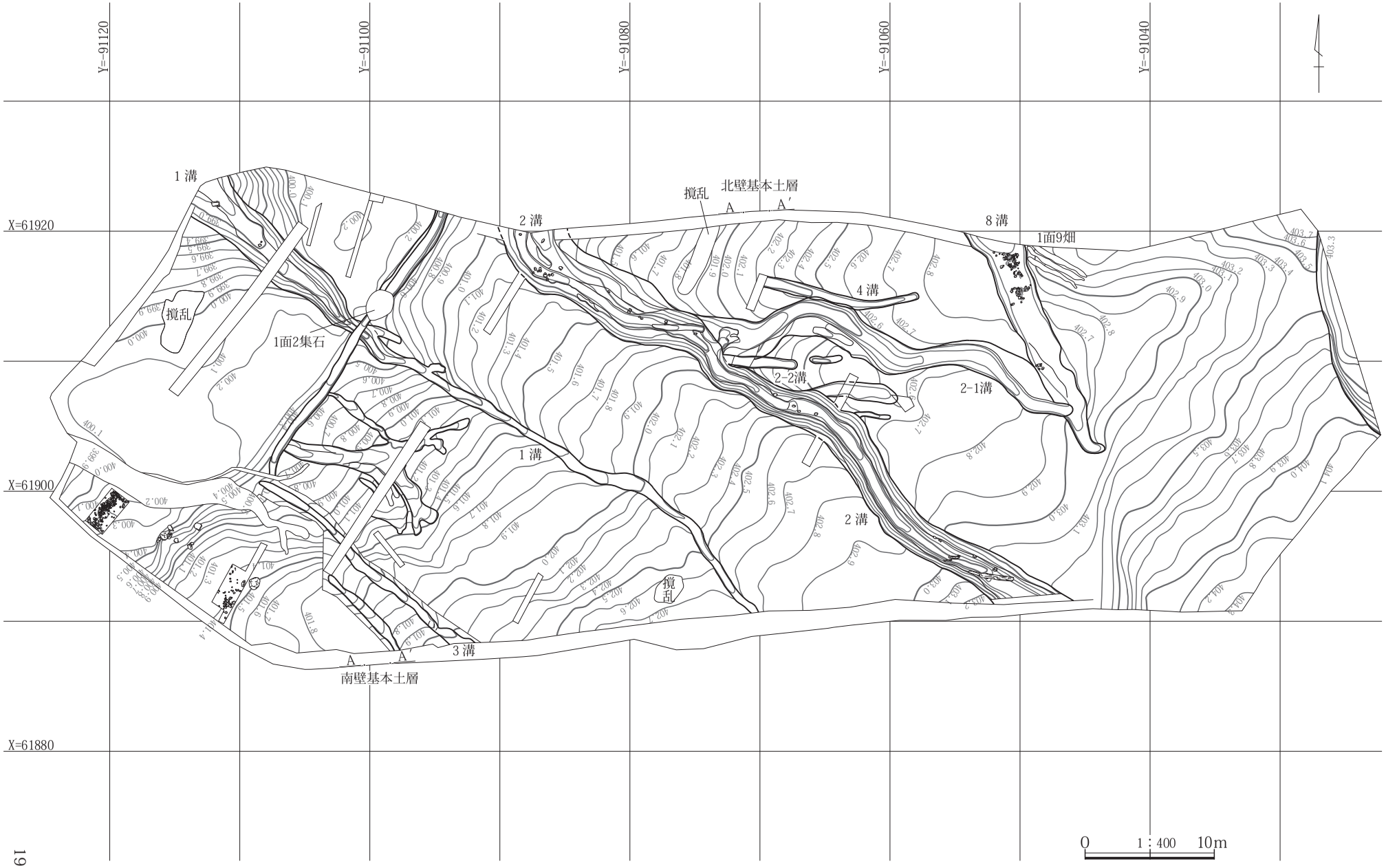
３号畑は１区３面北西部に位置し、X=61914～921、Y=-91086～096の範囲にある。サクは北東から南西に向かって作られている。規模は、長軸8.37m、短軸8.03m、サク数17、サク幅15～43㎝、深さ1～13㎝を測る。方位はＮ-63°-Ｅを指す。他の遺構との関係は２号溝と重複している。新旧関係は２号溝が新しい。

４号畑(第12図、PL．３・５～７)

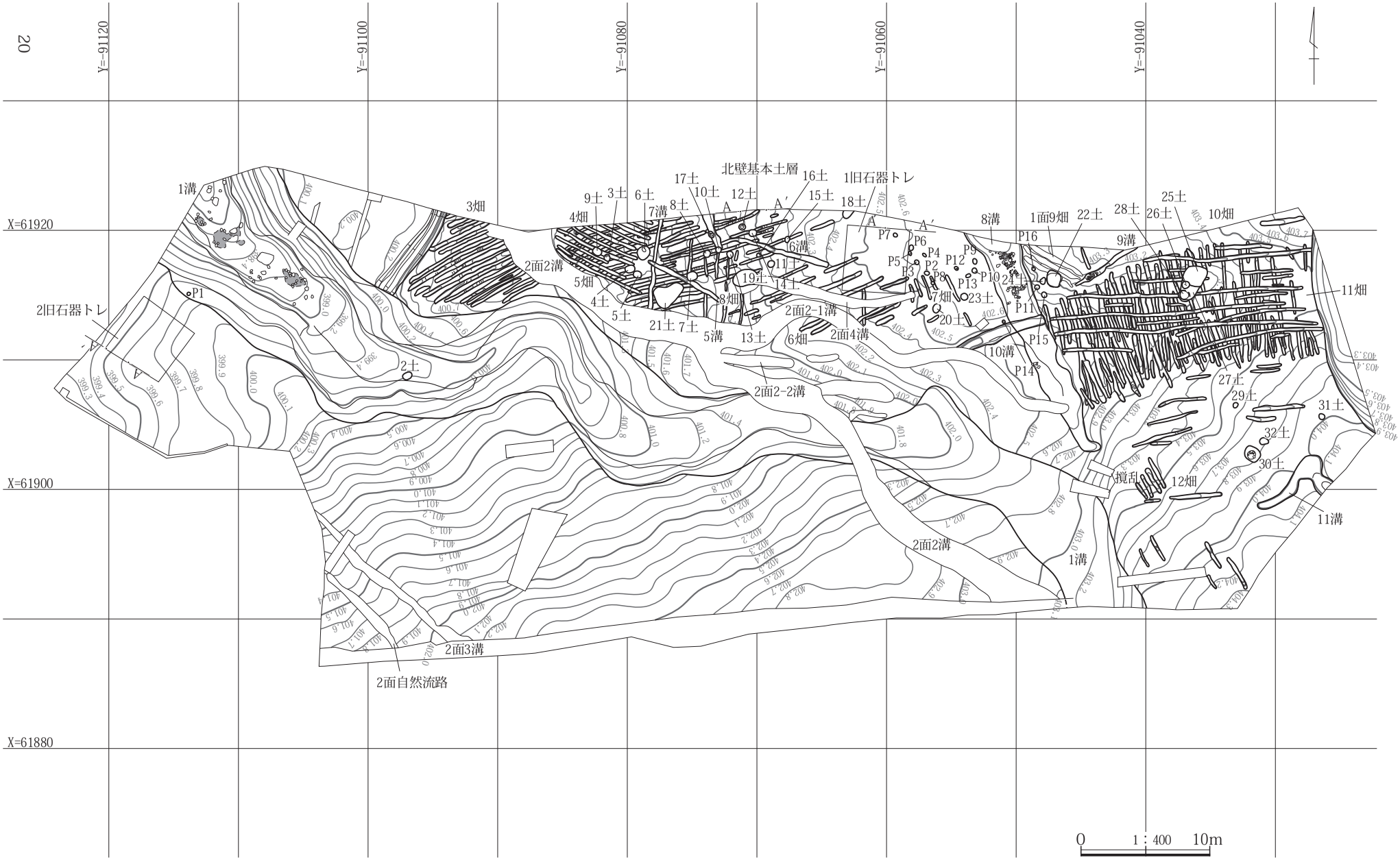
４号畑は１区３面北西部に位置し、X=61915～920、Y=-91078～085の範囲にある。サクは北西から南東に向かって作られている。規模は、長軸7.97m、短軸5.53m、サク数11、サク幅33～67㎝、深さ１～10㎝を測る。方位はＮ-65°-Wを指す。他の遺構との関係は５号畑、３・４・９号土坑と重複する。新旧関係は５号畑より新しく、



第７図　川戸太田遺跡１面全体図



第８図　川戸太田遺跡２面全体図



第９図　川戸太田遺跡３面全体図

３・４・９号土坑より旧い。

５号畑（第13図、PL．３・５～７）

５号畑は１区３面北西部に位置し、X=61916～920、Y=-91074～085の範囲にある。サクは北東から南西に向かって作られている。１区北西部の平坦面に検出された。規模は、長軸10.38m、短軸5.56m、サク数10、サク幅28～68㎝、深さ１～11㎝を測る。方位はN-68°-Eを指す。他の遺構との関係は４号畑、７号溝、３～６・９号土坑と重複する。新旧関係は５号畑が旧い。

６号畑（第14図、PL．３・５・７・８）

６号畑は１区３面北部中央に位置し、X=61911～921、Y=-91055～080の範囲にある。サクは北東から南西に向かって作られている。１区北西部の平坦面に検出された。規模は、長軸12.05m、短軸5.08m、サク数41、サク幅12～38㎝、深さ１～15㎝を測る。方位はN-76°-Eを指す。他の遺構との関係は４・８号畑、５～７号溝、７・８・10・13～17・19・21号土坑と重複する。新旧関係は６号畑が旧い。

７号畑（第15図、PL．３・５・７・８）

７号畑は１区３面北部に位置し、X=61914～916、Y=-91056～058の範囲にある。サクは北西から南東に向かって作られている。１区北西部の平坦面に検出された。規模は、長軸2.24m、短軸1.94m、サク数４、サク幅15～26㎝、深さ２～８㎝を測る。方位はN-21°-Wを指す。他の遺構との関係は８号ピット、２面４号溝と重複する。新旧関係は７号畑が旧い。

８号畑（第16図、PL．３・５・９・10）

８号畑は１区３面北部に位置し、X=61912～919、Y=-91071～075の範囲にある。サクは南北方向に向かって作られている。規模は、長軸6.63m、短軸4.32m、サク数９、サク幅13～28㎝、深さ１～８㎝を測る。方位はN-２°-Eを指す。他の遺構との関係は６号畑、５号溝、７・10・13号土坑と重複する。新旧関係は６号畑より新しく、５号溝、７・10・13号土坑より旧い。

９号畑（第15図、PL.10）

９号畑は１区１面北東部に位置し、X=61915～919、Y=-91045～049の範囲にある。サクは北西から南東に向かって作られている。規模は、長軸5.07m、短軸1.55m、サク数３、サク幅14～51㎝、深さ４～21㎝を測る。方位はN-63°-Wを指す。他の遺構との重複はない。

10号畑（第17図、PL.10～13）

10号畑は１区３面北東部に位置し、X=61903～921、Y=-91027～047の範囲にある。サクはほぼ東西方向に向かって作られている。規模は、長軸10.30m、短軸7.91m、サク数31、サク幅12～42㎝、深さ１～15㎝を測る。方位はN-85°-Eを指す。他の遺構との関係は11号畑、25～28号土坑と重複する。新旧関係は11号畑より新しく、25～28号土坑より旧い。

11号畑（第18図、PL.10～12・14）

11号土坑は１区３面北東部に位置し、X=61906～919、Y=-91027～047の範囲にある。サクはほぼ南北方向に向かって作られている。規模は、長軸10.55m、短軸6.27m、サク数76、サク幅11～50㎝、深さ1～17㎝を測る。方位はN-11°-Wを指す。他の遺構との関係は10号畑、25～28号土坑と重複する。新旧関係は11号畑が旧い。

12号畑（第15図、PL.10・11・15）

12号畑は１区３面南東部に位置し、X=61899～902、Y=-91038～040の範囲にある。サクは北西から南西に向かって作られている。規模は、長軸2.85m、短軸2.06m、サク数４、サク幅23～40㎝、深さ２～17㎝を測る。方位はN-30°-Wを指す。他の遺構との重複はない。

第３節　溝

１号溝（第19図、PL.15）

１号溝は１区２・３面西部に位置し、２面１号溝はX=61890～924、Y=-91070～113の範囲にある。溝は南東から北西に向かっている。規模は、長さ(54.75)m、最大幅4.21m、最小幅0.45m、深さ0.05～0.90mを測る。方位はN-42～54°-Wを指す。他の遺構との重複はな

いが、２面と３面に同一の流路が重なって記録されている。これは時期的な問題であると思うが、検討はまとめに載せたい。ここでは面の上下により２時期のものとして掲載する。

１号溝（３面）（第20図、PL.15・22）

３面の１号溝は１区３面南東部から北西部に位置し、X=61890～924、Y=-91039～116の範囲にある。溝は南東から北西に向かってやや蛇行している。規模は、長さ(85.04)m、最大幅11.64m、最小幅2.86m、深さ0.10～2.00mを測る。方位はN-２～46°-Wを指す。さらに１～３層の覆土をもつ溝とその下面４層以下の覆土の溝との２度の流水が想定できる。おそらく1号溝の前に３面の１号溝があったものと考えられる。他の遺構との関係は２号土坑、１号ピット、２面２号溝と重複する。新旧関係は１号溝が旧い。須恵器杯蓋（１）の破片が出土している。

２号溝（第21図、PL.16）

２号溝は１区２面中央部に位置し、X=61891～920、Y=-91046～090の範囲にある。溝は南東から北西に向かっている。規模は、長さ(48.08)m、最大幅4.95m、最小幅1.84m、深さ0.56～1.18mを測る。方位はN-32～66°-Wを指す。他の遺構との関係は２-１・２-２号溝と重複する。新旧関係は２号溝が新しい。

２-１号溝（第21図、PL.16）

２-１号溝は１区２面中央部に位置し、X=61905～914、Y=-91045～076の範囲にある。溝は東から西に向かっている。規模は、長さ(31.08)m、最大幅3.25m、最小幅1.48m、深さ0.14～0.63mを測る。方位はN-56°-W・N-83°-Eを指す。他の遺構との関係は２・２-２・４・８号溝と重複する。新旧関係は２・２-２号溝より旧く、４・８号溝より新しい。

２-２号溝（第21図、PL.16・17）

２-２号溝は１区２面中央に位置し、X=61909・910、Y=-91067～072の範囲にある。溝は東から西に向かっている。規模は、長さ(5.75)m、最大幅0.91m、最小幅0.68m、深さ0.13～0.35mを測る。方位はN-86°-Wを指す。他の遺構との関係は２・２-１号溝と重複する。新旧関係は２号溝より旧く、２-１号溝より新しい。

３号溝（第22図、PL.17）

３号溝は１区２面南西部に位置し、X=61888～900、Y=-91091～108の範囲にある。溝は南東から北西に向かっている。規模は、長さ(19.88)m、最大幅1.01m、最小幅0.41m、深さ0.01～0.24mを測る。方位はN-47°-Wを指す。他の遺構との重複はない。

４号溝（第22図、PL.17）

４号溝は１区２面北部に位置し、X=61913～916、Y=-91057～070の範囲にある。溝は東から西に向かっている。規模は、長さ(12.08)m、最大幅1.03m、最小幅0.55m、深さ0.25～0.35mを測る。方位はN-74°-W・N-81°-Eを指す。他の遺構との関係は２-１号溝と重複する。新旧関係は４号溝が旧い。

５号溝（第23図、PL.17）

５号溝は１区３面北部に位置し、X=61914～917、Y=-91072～078の範囲にある。溝は南東から北西へ向かっている。規模は、長さ6.62m、最大幅0.43m、最小幅0.22m、深さ0.07～0.20mを測る。方位はN-62°-Wを指す。他の遺構との関係は６・８号畑、7号溝、７号土坑と重複する。新旧関係は６・８号畑、７号溝より新しく、７号土坑より旧い。

６号溝（第24図、PL.17）

６号溝は１区３面北部に位置し、X=61917～919、Y=-91064～072の範囲にある。溝は東から西に向かっている。規模は、長さ(8.60)m、最大幅0.52m、最小幅0.23m、深さ0.04～0.08mを測る。方位はN-74°-W・N-70°-Eを指す。他の遺構との関係は６号畑と重複する。新旧関係は６号溝が新しい。

７号溝（第23図、PL.17）

７号溝は１区３面北部に位置し、X=61913～920、Y=-91077・078の範囲にある。溝は北から南に向かっている。規模は、長さ(6.97)m、最大幅0.37m、最小幅0.21m、深さ0.03～0.13mを測る。方位はN-８°-E

を指す。他の遺構との関係は５・６号畑、５号溝と重複する。新旧関係は５・６号畑より新しく、５号溝より旧い。

８号溝（第24図、PL.18）

８号溝は１区２面北東部に位置し、X=61902 ～ 919、Y=-91043 ～ 054の範囲にある。溝は南東から北西に向かっている。規模は、長さ(18.60)ｍ、最大幅4.00ｍ、最小幅0.79ｍ、深さ0.05 ～ 0.45ｍを測る。方位はN-23°-Wを指す。他の遺構との関係は２-１号溝と重複する。新旧関係は２-１号溝より旧い。

９号溝（第25図、PL.18）

９号溝は１区３面北東部に位置し、X=61915 ～ 918、Y=-91040 ～ 045の範囲にある。溝は北東から南西に向かっている。規模は、長さ(5.65)ｍ、最大幅0.55ｍ、最小幅0.21ｍ、深さ0.01 ～ 0.21ｍを測る。方位はN-55°-Eを指す。他の遺構との重複はない。

10号溝（第25図、PL.18）

10号溝は１区３面北東部に位置し、X=61910 ～ 913、Y=-91047 ～ 054の範囲にある。溝は東から西に向かっている。規模は、長さ(6.45)ｍ、最大幅1.13ｍ、最小幅0.74ｍ、深さ0.21 ～ 0.55ｍを測る。方位はN-67°-Eを指す。他の遺構との関係は８号溝と重複する。新旧関係は10号溝が新しい。

11号溝（第26図、PL.18）

11号溝は１区３面東部に位置し、X=61898 ～ 902、Y=-91025 ～ 031の範囲にある。溝は南東から北西、北西から南西へ向かっている。規模は、長さ(7.69)ｍ、最大幅1.88ｍ、最小幅0.58ｍ、深さ0.01 ～ 0.33ｍを測る。方位はN-41°-W・N-48°-Eを指す。他の遺構との重複はない。

第４節　土坑

１号土坑（第27図、PL.19）

１号土坑は１区１面西部２号畑の北側に位置し、X=61908・909、Y=-91117・118の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸117㎝、短軸89㎝、深さ31㎝を測る。長軸方位はN-29°-Eを指す。覆土はAs-Kk混土である。他の遺構との重複はない。

２号土坑（第27図、PL.19）

２号土坑は１区３面西部に位置し、X=61908・909、Y=-91096・097の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸74㎝、短軸52㎝、深さ24㎝を測る。長軸方位はN-60°-Eを指す。他の遺構との関係は１号溝と重複する。新旧関係は２号土坑が新しい。

３号土坑（第27図、PL.19）

３号土坑は１区３面北西部に位置し、X=61917・918、Y=-91081の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸56㎝、短軸45㎝、深さ10㎝を測る。長軸方位はN-20°-Wを指す。他の遺構との関係は４・５号畑と重複する。新旧関係は３号土坑が新しい。

４号土坑（第27図、PL.19）

４号土坑は１区３面北西部に位置し、X=61916・917、Y=-91079・080の範囲にある。平面形状は長円形を呈する。規模は、長軸76㎝、短軸58㎝、深さ11㎝を測る。長軸方位はN-71°-Eを指す。他の遺構との関係は４・５号畑と重複する。新旧関係は４号土坑が新しい。

５号土坑（第27図、PL.19）

５号土坑は１区３面北西部に位置し、X=61916、Y=-91078・079の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸65㎝、短軸55㎝、深さ12㎝を測る。長軸方位はN-54°-Wを指す。他の遺構との関係は５号畑と重複する。新旧関係は５号土坑が新しい。

６号土坑（第27図、PL.19）

６号土坑は１区３面北西部に位置しX=61917・918、Y=-91078・079の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸112㎝、短軸97㎝、深さ17㎝を測る。長軸方位はN-20°-Eを指す。他の遺構との関係は５号畑と重複する。新旧関係は６号土坑が新しい。

７号土坑（第27図、PL.19）

７号土坑は１区３面北部に位置しX=61916、Y=-

91074・075の範囲にある。平面形状は長円形を呈する。規模は、長軸78㎝、短軸67㎝、深さ11㎝を測る。長軸方位はＮ-72°－Ｅを指す。。他の遺構との関係は６・８号畑、５号溝と重複する。新旧関係は７号土坑が新しい。

８号土坑（第27図、PL.19）

８号土坑は１区３面北部に位置し、X=61917・918、Y=-91073･074の範囲にある。平面形状は円形を呈する。規模は、長軸54㎝、短軸54㎝、深さ10㎝を測る。他の遺構との関係は６号畑と重複する。新旧関係は８号土坑が新しい。

９号土坑（第27図、PL.19）

９号土坑は１区３面北西部に位置し、X=61918、Y=-91081・082の範囲にある。平面形状は長円形を呈する。規模は、長軸71㎝、短軸56㎝、深さ15㎝を測る。長軸方位はＮ-54°-Wを指す。他の遺構との関係は４・５号畑と重複する。新旧関係は９号土坑が新しい。

10号土坑（第27図、PL.19）

10号土坑は１区３面北部に位置し、X=61918、Y=-91072・073の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸45㎝、短軸42㎝、深さ10㎝を測る。長軸方位はＮ-16°-Wを指す。他の遺構との関係は６・８号畑と重複する。新旧関係は10号土坑が新しい。

11号土坑（第27図、PL.19）

11号土坑は１区３面北部に位置し、X=61917、Y=-91068・069の範囲にある。平面形状は円形を呈する。規模は、長軸53㎝、短軸50㎝、深さ18㎝を測る。長軸方位はＮ-16°－Ｅを指す。他の遺構との重複はない。

12号土坑（第28図、PL.19）

12号土坑は１区３面北部に位置し、X=61920、Y=-91070・071の範囲にある。平面形状は円形を呈する。規模は、長軸50㎝、短軸48㎝、深さ25㎝を測る。長軸方位はＮ-74°-Wを指す。他の遺構との重複はない。

13号土坑（第28図、PL.19）

13号土坑は１区３面北部に位置し、X=61917・918、Y=-91071・072の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸55㎝、短軸46㎝、深さ33㎝を測る。長軸方位はＮ-23°-Wを指す。他の遺構との関係は６・８号畑と重複する。新旧関係は13号土坑が新しい。

14号土坑（第28図、PL.19）

14号土坑は１区３面北部に位置し、X=61919・920、Y=-91070の範囲にある。平面形状は隅丸方形を呈する。規模は、長軸58㎝、短軸52㎝、深さ29㎝を測る。長軸方位はＮ-84°－Ｅを指す。他の遺構との関係は６号畑と重複する。新旧関係は14号土坑が新しい。

15号土坑（第28図、PL.19）

15号土坑は１区３面北部に位置し、X=61919、Y=-91067の範囲にある。平面形状は長円形を呈する。規模は、長軸49㎝、短軸36㎝、深さ12㎝を測る。長軸方位はＮ-13°－Ｅを指す。他の遺構との関係は６号畑と重複する。新旧関係は15号土坑が新しい。

16号土坑（第28図、PL.20）

16号土坑は１区３面北部に位置し、X=61917・918、Y=-91069・070の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸32㎝、短軸29㎝、深さ11㎝を測る。長軸方位はＮ-81°-Wを指す。他の遺構との関係は６号畑と重複する。新旧関係は16号土坑が新しい。

17号土坑（第28図、PL.20）

17号土坑は１区３面北部に位置し、X=61919、Y=-91073の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸53㎝、短軸39㎝、深さ16㎝を測る。長軸方位はＮ-22°-Wを指す。他の遺構との関係は６号畑と重複する。新旧関係は17号土坑が新しい。

18号土坑（第28図、PL.20）

18号土坑は１区３面北部に位置し、X=61920・921、Y=-91062・063の範囲にある。平面形状は長円形を呈する。規模は、長軸（89）㎝、短軸63㎝、深さ11㎝を測る。長軸方位はＮ-40°－Ｅを指す。他の遺構との重複はない。

19号土坑（第28図、PL.20）

19号土坑は１区３面北部に位置し、X=61915・916、Y=-91069 ～ 071の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸197cm、短軸122cm、深さ34cmを測る。長軸方位はN-74°-Eを指す。他の遺構との関係は６号畑と重複する。新旧関係は19号土坑が新しい。

20号土坑（第28図、PL.20）

20号土坑は１区３面北部に位置し、X=61913・914、Y=-91055・056の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸72cm、短軸56cm、深さ31cmを測る。長軸方位はN-19°-Eを指す。他の遺構との重複はない。

21号土坑（第29図、PL.20）

21号土坑は１区３面北部に位置し、X=61913 ～ 915、Y=-91075 ～ 077の範囲にある。平面形状は不整形を呈する。規模は、長軸232cm、短軸172cm、深さ118cmを測る。長軸方位はN-47°-Eを指す。他の遺構との関係は６号畑と重複する。新旧関係は21号土坑が新しい。

22号土坑（第29図、PL.20）

22号土坑は１区３面北東部に位置し、X=61915・916、Y=-91046・047の範囲にある。平面形状は隅丸方形を呈する。規模は、長軸139cm、短軸112cm、深さ126cmを測る。長軸方位はN-26°-Wを指す。他の遺構との重複はない。

23号土坑（第29図、PL.20）

23号土坑は１区３面北東部に位置し、X=61914・915、Y=-91053･054の範囲にある。平面形状は円形を呈する。規模は、長軸55cm、短軸52cm、深さ20cmを測る。長軸方位はN-55°-Wを指す。他の遺構との重複はない。

24号土坑（第29図、PL.20）

24号土坑は１区３面北東部に位置し、X=61915・916、Y=-91047・048の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸53cm、短軸42cm、深さ34cmを測る。長軸方位はN-24°-Eを指す。他の遺構との重複はない。

25号土坑（第29図、PL.20）

25号土坑は１区３面北東部に位置し、X=61915 ～ 917、Y=-91035 ～ 037の範囲にある。平面形状は隅丸長方形を呈する。規模は、長軸200cm、短軸170cm、深さ85cmを測る。長軸方位はN-69°-Eを指す。他の遺構との関係は10・11号畑、26・27号土坑と重複する。新旧関係は10･11号畑、27号土坑より新しく、26号土坑より旧い。

26号土坑（第30図、PL.20）

26号土坑は１区３面北東部に位置し、X=61915・916、Y=-91036・037の範囲にある。平面形状は円形を呈する。規模は、長軸59cm、短軸56cm、深さ53cmを測る。長軸方位はN-35°-Eを指す。他の遺構との関係は11号畑、25・27土坑と重複する。新旧関係は26号土坑が新しい。

27号土坑（第30図、PL.20）

27号土坑は１区３面北東部に位置し、X=61914～916、Y=-91035 ～ 037の範囲にある。平面形状は長円形を呈する。規模は、長軸（148）cm、短軸149cm、深さ46cmを測る。長軸方位はN-25°-Eを指す。他の遺構との関係は10・11号畑、25・26・28号土坑と重複する。新旧関係は25・26号土坑より旧く、10・11号畑、28号土坑より新しい。

28号土坑（第30図、PL.20）

28号土坑は１区３面北東部に位置し、X=61914・915、Y=-91036・037の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸95cm、短軸（83）cm、深さ65cmを測る。長軸方位はN-45°-Wを指す。他の遺構との関係は10・11号畑、27号土坑と重複する。新旧関係は27号土坑より旧く、10・11号畑より新しい。

29号土坑（第30図、PL.20）

29号土坑は１区３面東部に位置し、X=61906、Y=-91032・033の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸44cm、短軸36cm、深さ23cmを測る。長軸方位はN-33°-Eを指す。他の遺構との重複はない。

30号土坑（第30図、PL.21・22）

30号土坑は１区３面東部に位置し、X=61902・903、Y=-91031・032の範囲にある。平面形状は長円形を呈する。規模は、長軸126cm、短軸106cm、深さ60cmを測る。

長軸方位はＮ-52°-Ｗを指す。他の遺構との重複はない。覆土中より流水によると考えられる須恵器椀（１）の破片と崩壊土に混じる角礫が出土している。

31号土坑（第30図、PL.21）

31号土坑は１区３面東部に位置し、Ｘ=61905、Ｙ=-91026の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸47㎝、短軸42㎝、深さ26㎝を測る。長軸方位はＮ-59°-Ｗを指す。他の遺構との重複はない。

32号土坑（第30図、PL.21）

32号土坑は１区３面東部に位置し、Ｘ=61903、Ｙ=-91030・031の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸69㎝、短軸55㎝、深さ29㎝を測る。長軸方位はＮ-84°-Ｗを指す。他の遺構との重複はない。

第５節　ピット

１号ピット（第31図、PL.21）

１号ピットは１区３面北西部に位置し、Ｘ=61914・915、Ｙ=-91113の範囲にある。平面形状は円形を呈する。規模は、長軸28㎝、短軸25㎝、深さ62㎝を測る。長軸方位はＮ-66°-Ｅを指す。他の遺構との関係は、１号溝と重複する。新旧関係は１号溝より新しい。

２号ピット（第31図、PL.21）

２号ピットは１区３面北部に位置し、Ｘ=61916、Ｙ=-91056・057の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸39㎝、短軸31㎝、深さ14㎝を測る。長軸方位はＮ-70°-Ｗを指す。他の遺構との重複はない。

３号ピット（第31図、PL.21）

３号ピットは１区３面北部に位置し、Ｘ=61917、Ｙ=-91057の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸38㎝、短軸31㎝、深さ18㎝を測る。長軸方位はＮ-50°-Ｗを指す。他の遺構との重複はない。

４号ピット（第31図、PL.21）

４号ピットは１区３面北部に位置し、Ｘ=61917・918、Ｙ=-91056・057の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸34㎝、短軸20㎝、深さ９㎝を測る。長軸方位はＮ-48°-Ｗを指す。他の遺構との重複はない。

５号ピット（第31図、PL.21）

５号ピットは１区３面北部に位置し、Ｘ=61918、Ｙ=-91058の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸31㎝、短軸25㎝、深さ20㎝を測る。長軸方位はＮ-34°-Ｗを指す。他の遺構との重複はない。

６号ピット（第31図、PL.21）

６号ピットは１区３面北部に位置し、Ｘ=61918、Ｙ=-91057・058の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸44㎝、短軸33㎝、深さ20㎝を測る。長軸方位はＮ-８°-Ｅを指す。他の遺構との重複はない。

７号ピット（第31図、PL.21）

７号ピットは１区３面北部に位置し、Ｘ=61919、Ｙ=-91059の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸34㎝、短軸30㎝、深さ22㎝を測る。長軸方位はＮ-43°-Ｗを指す。他の遺構との重複はない。

８号ピット（第31図、PL.21）

８号ピットは１区３面北部に位置し、Ｘ=61915・916、Ｙ=-91056・057の範囲にある。平面形状は円形を呈する。規模は、長軸26㎝、短軸24㎝、深さ12㎝を測る。長軸方位はＮ-76°-Ｗを指す。他の遺構との関係は７号畑と重複する。新旧関係は８号ピットが新しい。

９号ピット（第31図、PL.21）

９号ピットは１区３面北東部に位置し、Ｘ=61917、Ｙ=-91053の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸44㎝、短軸32㎝、深さ26㎝を測る。長軸方位はＮ-16°-Ｗを指す。他の遺構との重複はない。

10号ピット（第31図、PL.21）

10号ピットは１区３面北東部に位置し、Ｘ=61916・917、Ｙ=-91053の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸42㎝、短軸38㎝、深さ15㎝を測る。長軸方位はＮ-47°-Ｗを指す。他の遺構との重複はない。

11号ピット（第31図、PL.21）

11号ピットは１区３面北東部に位置し、X=61915、Y=-91048の範囲にある。平面形状は円形を呈する。規模は、長軸37㎝、短軸36㎝、深さ16㎝を測る。長軸方位はN-34°-Eを指す。他の遺構との重複はない。

12号ピット（第31図、PL.21）

12号ピットは１区３面北部に位置し、X=61916・917、Y=-91054の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸33㎝、短軸25㎝、深さ15㎝を測る。長軸方位はN-60°-Wを指す。他の遺構との重複はない。

13号ピット（第31図、PL.22）

13号ピットは１区３面北東部に位置し、X=61916、Y=-91053の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸39㎝、短軸26㎝、深さ23㎝を測る。長軸方位はN-65°-Eを指す。他の遺構との重複はない。

14号ピット（第31図、PL.22）

14号ピットは１区３面北東部に位置し、X=61912・913、Y=-91050・051の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸28㎝、短軸21㎝、深さ13㎝を測る。長軸方位はN-26°-Wを指す。他の遺構との重複はない。

15号ピット（第31図、PL.22）

15号ピットは１区３面北東部に位置し、X=61914・915、Y=-91047・048の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸44㎝、短軸38㎝、深さ19㎝を測る。長軸方位はN-27°-Wを指す。他の遺構との重複はない。

16号ピット（第31図、PL.22）

16号ピットは１区３面北東部に位置し、X=61916・917、Y=-91048の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸27㎝、短軸26㎝、深さ20㎝を測る。長軸方位はN-22°-Eを指す。他の遺構との重複はない。

第６節　集石

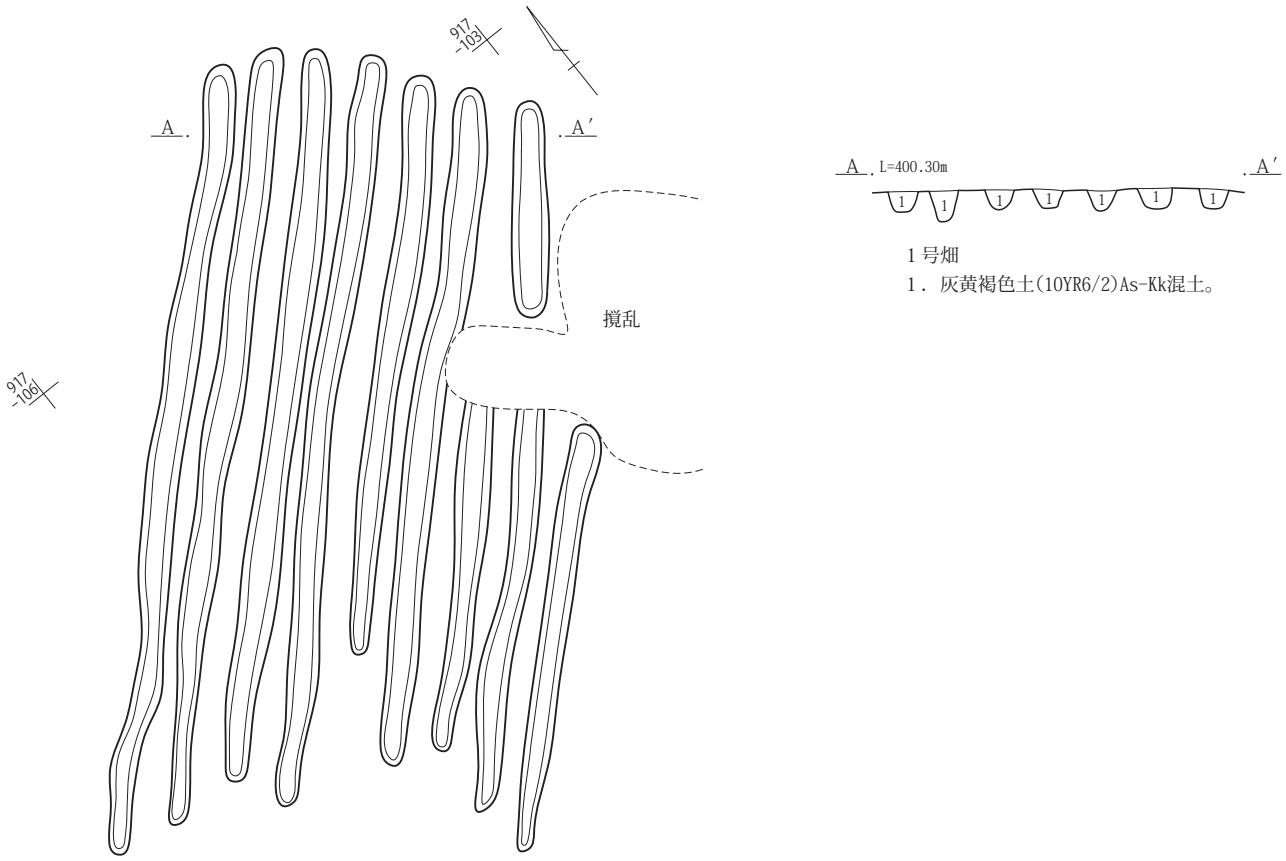
１号集石（第32図、PL.22）

１号集石は１区１面北西部に位置し、X=61913～915、Y=-91097～099の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸212㎝、短軸（82）㎝、深さ19㎝を測る。長軸方位はN-43°-Eを指す。他の遺構との関係は２号集石と重複する。新旧関係は１号集石が新しい。

２号集石（第32図、PL.22）

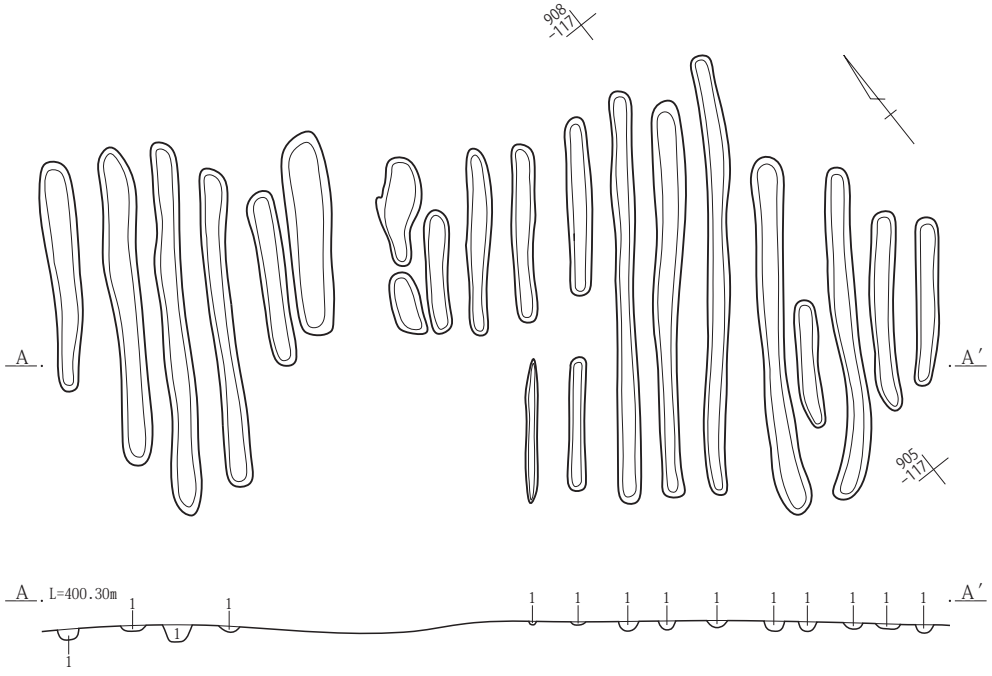
２号集石は１区１面北西部に位置し、X=61913～915、Y=-91098～100の範囲にある。平面形状は楕円形を呈する。規模は、長軸257㎝、短軸199㎝、深さ45㎝を測る。長軸方位はN-34°-Eを指す。他の遺構との関係は1号集石と重複する。新旧関係は２号集石が旧い。

１号畑



１号畑
１．灰黄褐色土(10YR6/2)As-Kk混土。

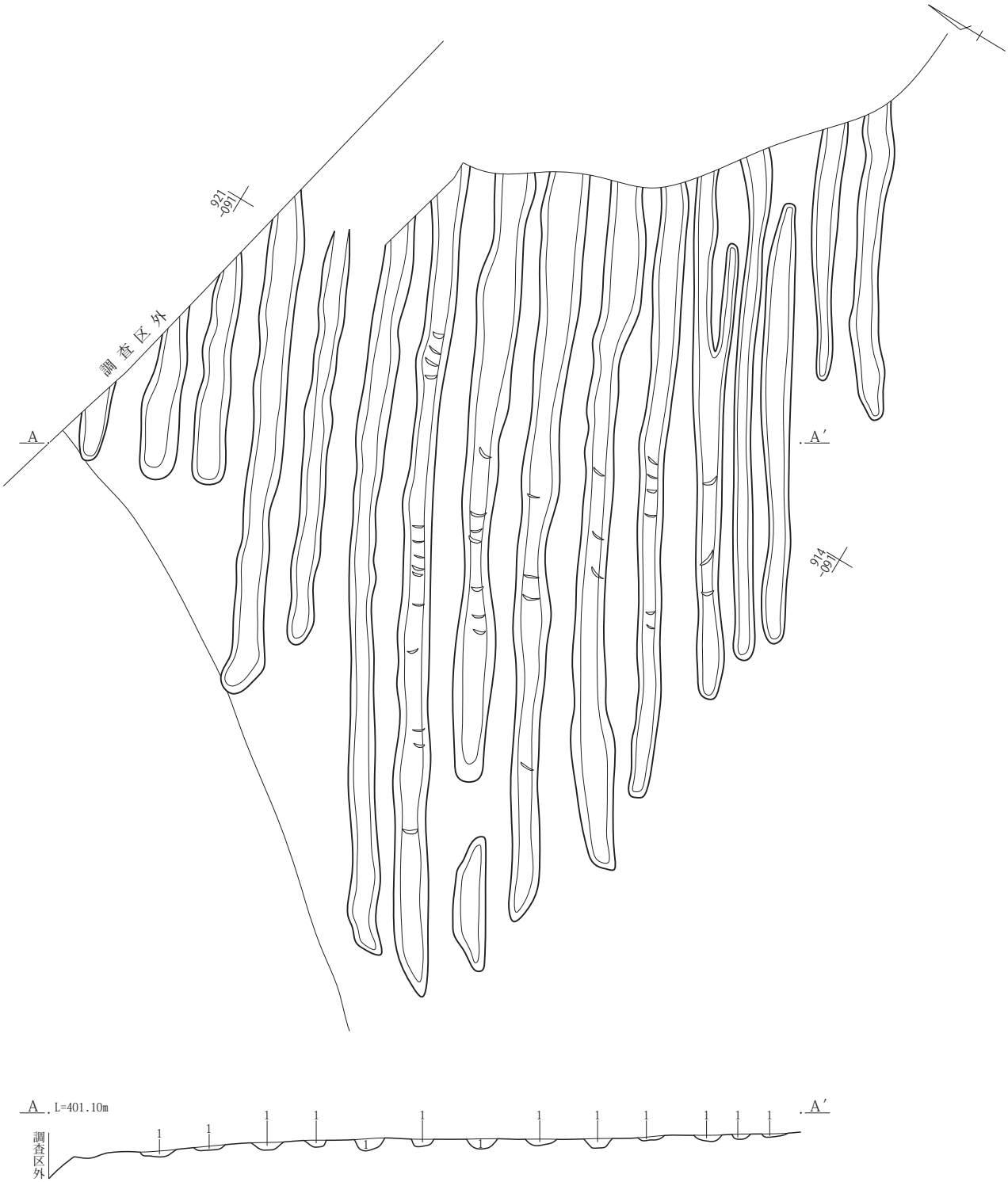
２号畑



２号畑
１．灰黄褐色土(10YR6/2)As-Kk混土。

0　1：40　1m

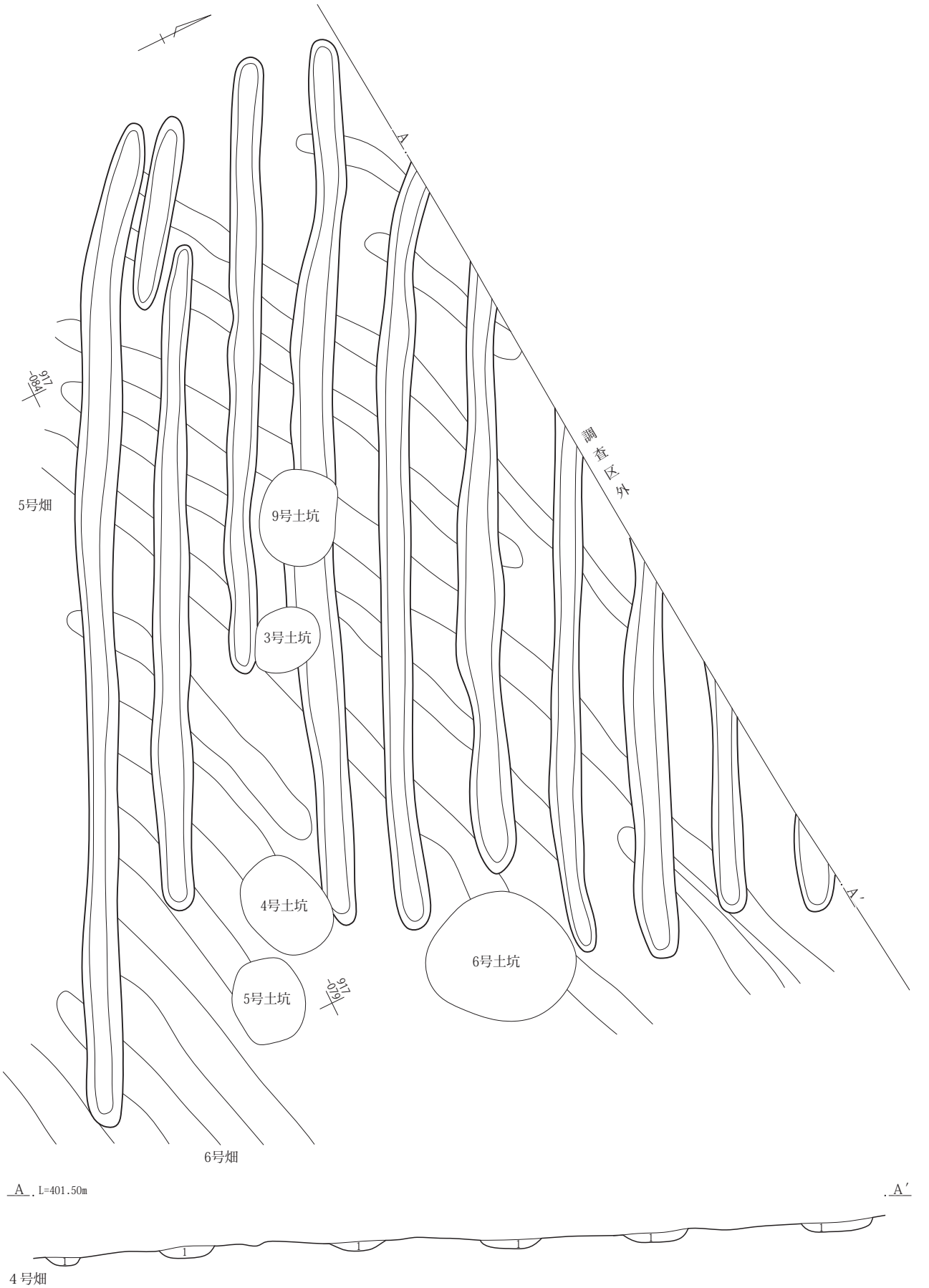
第10図　１面１号・２号畑



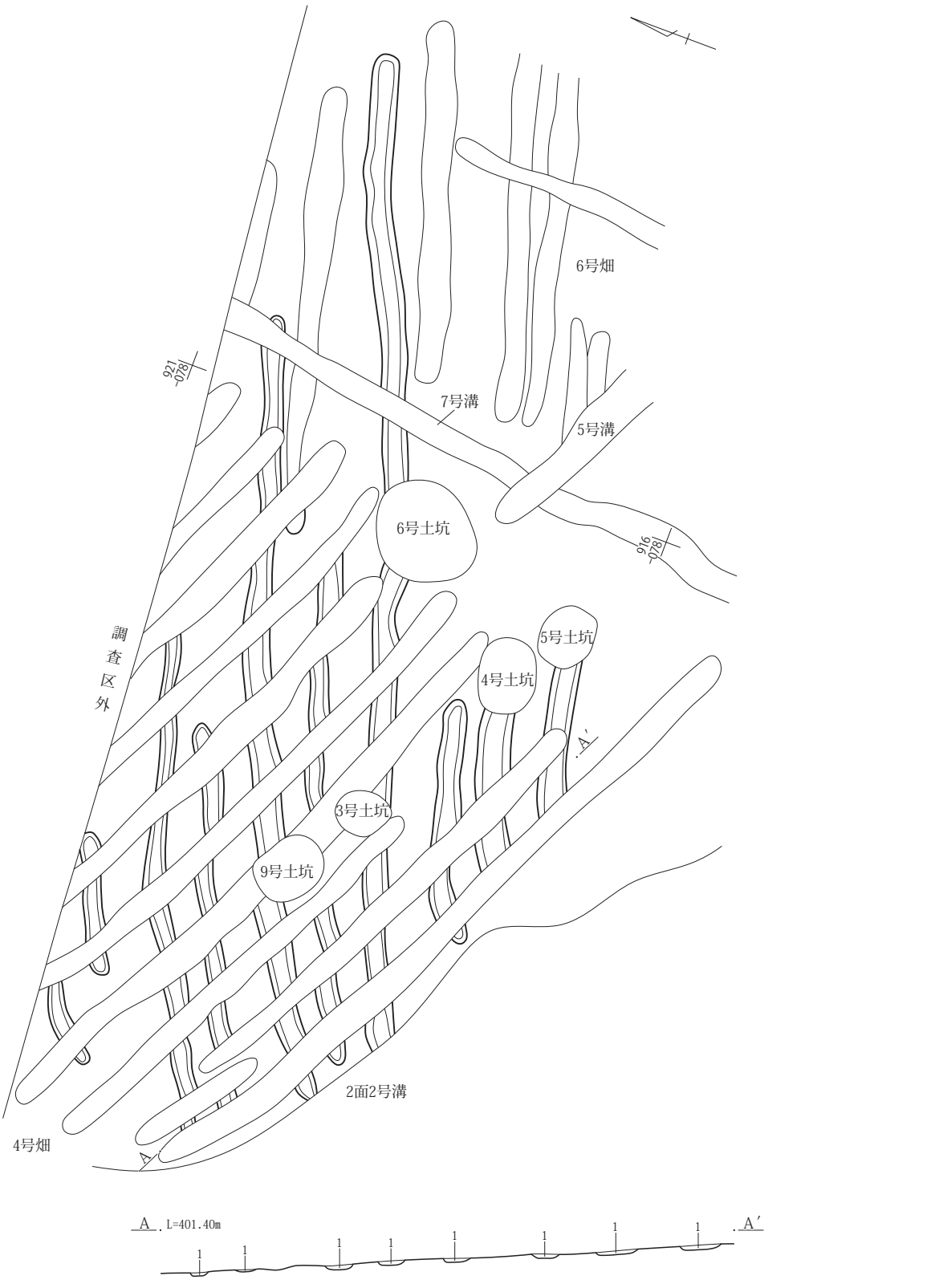
3号畑

1．灰黄褐色土(10YR6/2)黄橙色軽石多量、細粒橙色粒を少量含む。

第11図　3面3号畑


A
A′
調査区外
917
-084
917
-079
5号畑
9号土坑
3号土坑
4号土坑
5号土坑
6号土坑
6号畑
A L=401.50m
A′
1
4号畑
1．黒褐色土(10YR3/1)黄橙色軽石・細粒橙色粒を含む。
0
1：40
1m

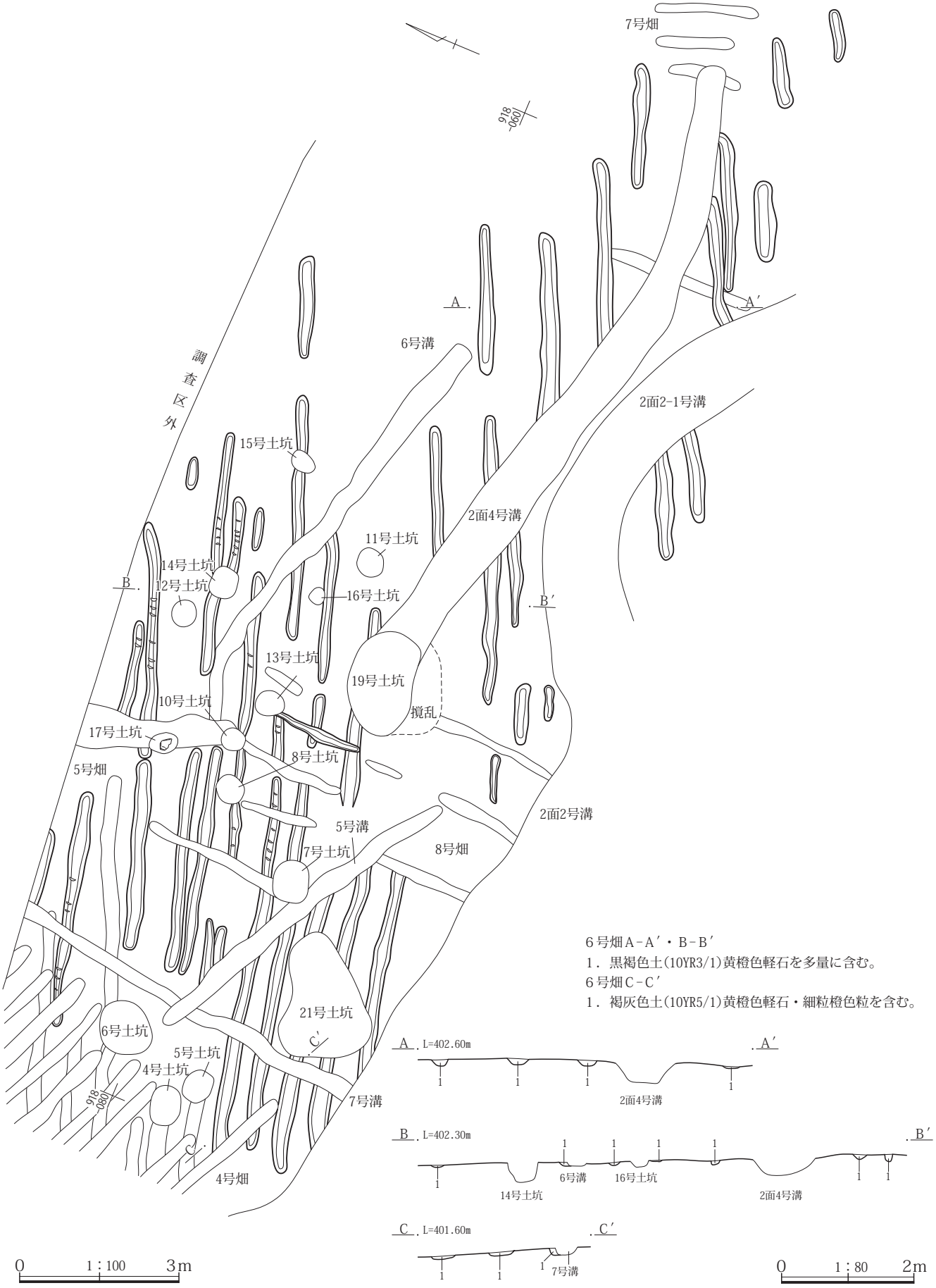
第12図　３面４号畑



５号畑
１．褐灰色土(10YR5/1)黄橙色軽石・細粒橙色粒を含む。

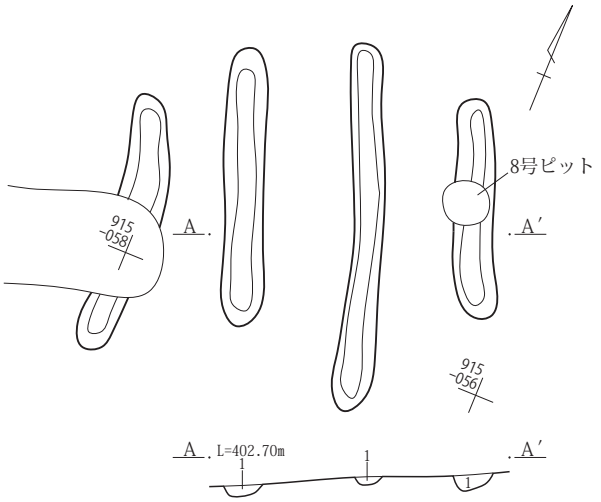
0　1：60　2m

第13図　３面５号畑


7号畑
調査区外
6号溝
2面2-1号溝
15号土坑
2面4号溝
11号土坑
14号土坑
12号土坑
16号土坑
13号土坑
19号土坑
攪乱
10号土坑
17号土坑
8号土坑
5号畑
2面2号溝
5号溝
7号土坑
8号畑
21号土坑
6号土坑
5号土坑
4号土坑
7号溝
4号畑
A
A′
B
B′
C
C′
6号畑A-A′・B-B′
1．黒褐色土(10YR3/1)黄橙色軽石を多量に含む。
6号畑C-C′
1．褐灰色土(10YR5/1)黄橙色軽石・細粒橙色粒を含む。
L=402.60m
2面4号溝
L=402.30m
6号溝
16号土坑
14号土坑
2面4号溝
L=401.60m
7号溝
0　1：100　3m
0　1：80　2m

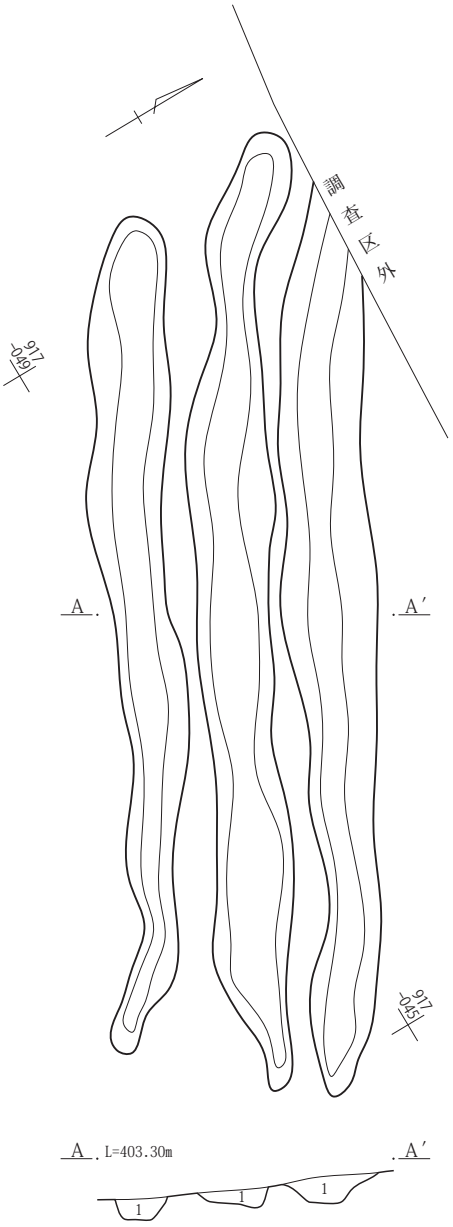
第14図　３面６号畑

7号畑



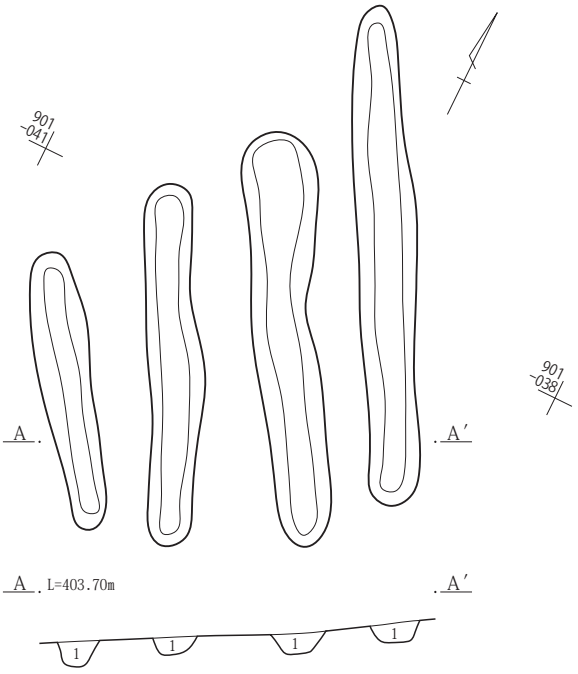
7号畑
1．灰黄褐色土(10YR6/2)細粒黄橙色軽石を少量含む。

9号畑



9号畑
1．灰黄褐色土(10YR6/2)細粒黄橙色軽石・細粒橙色粒を少量含む。

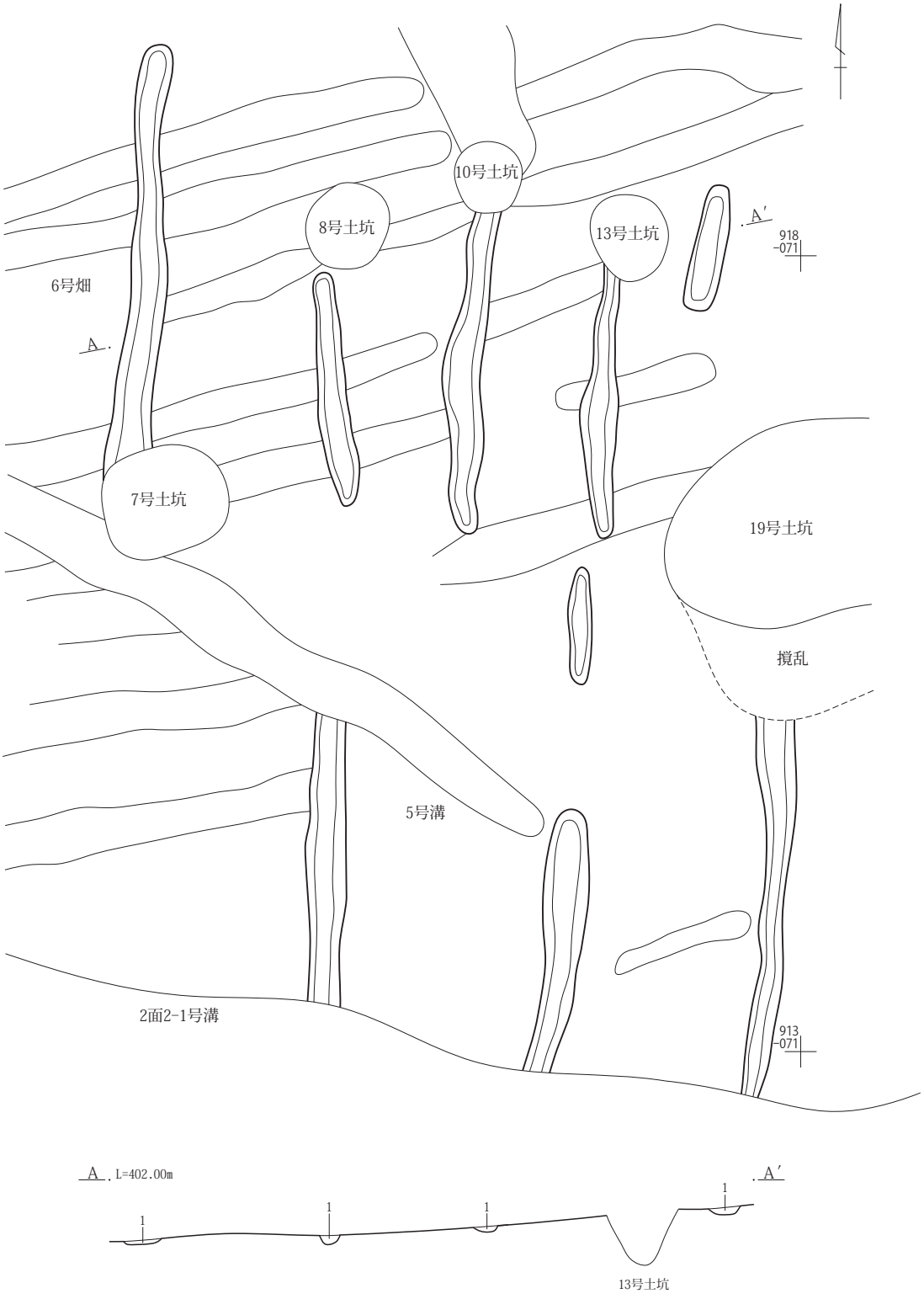
12号畑



12号畑
1．灰黄褐色土(10YR6/2)黄橙色軽石多量、細粒橙色粒を少量含む。

0　1：40　1m

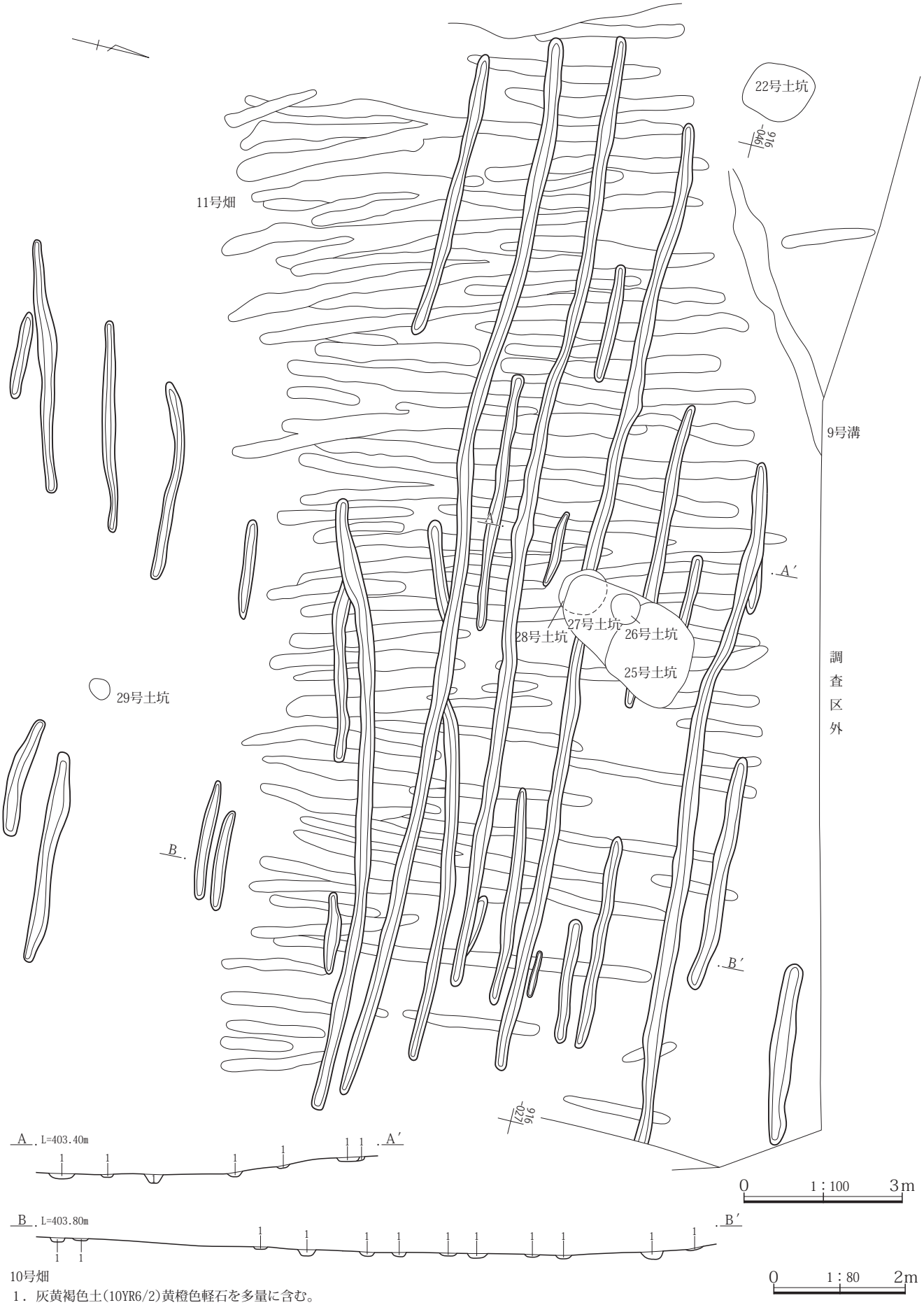
第15図　3面7号・1面9号・3面12号畑



８号畑
１．黒褐色土(10YR3/1)黄橙色軽石を多量に含む。

0　1：40　1m

第16図　３面８号畑



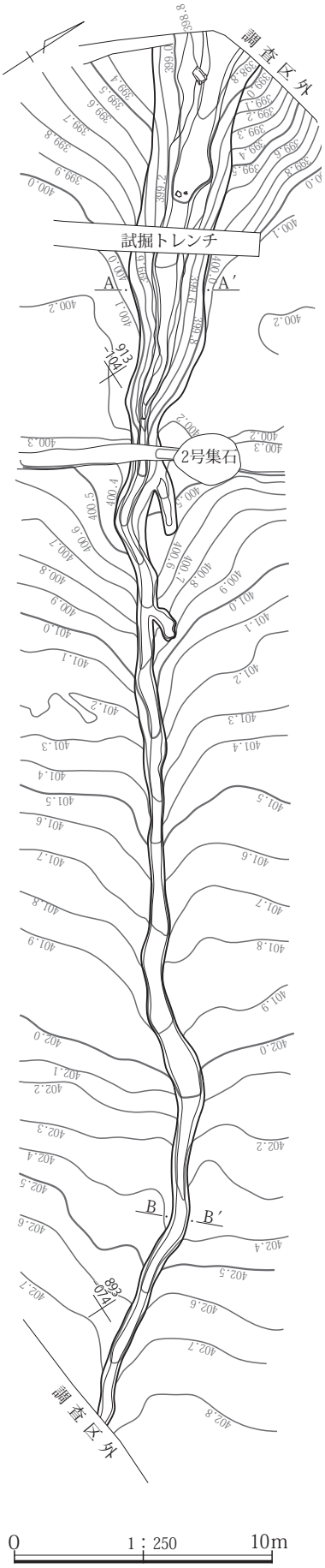
10号畑

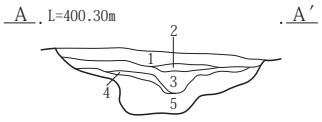
1．灰黄褐色土(10YR6/2)黄橙色軽石を多量に含む。

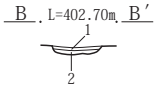
第17図　３面10号畑

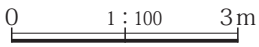
11号畑
1．灰黄褐色土(10YR6/2)黄橙色軽石多量、細粒橙色粒を少量含む。

第18図　３面11号畑









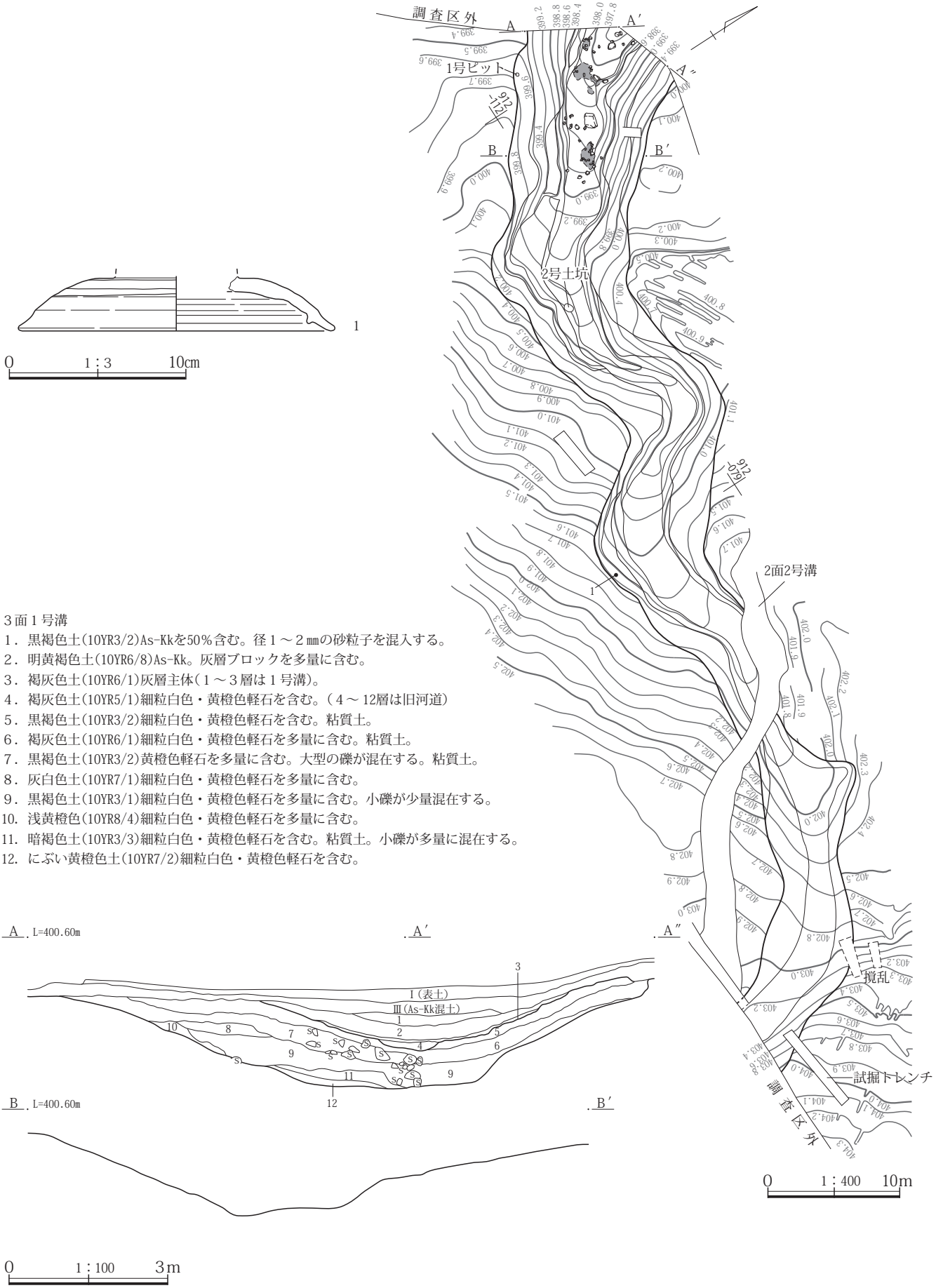
2面1号溝A－A′

1．黒褐色土(10YR3/2)As-Kk混土。As-Kkを50％含む。径1～2㎜の砂粒子を混入する。
2．褐灰色土(10YR6/1)As-Kk混土。As-Kkを80％含む。
3．褐灰色土(10YR5/1)As-Kk一次堆積層。灰ブロック少量、黒褐色土ブロックを含む。
4．明黄褐色土(10YR6/8)As-Kk一次堆積層。灰層ブロックを多量に含む。
5．橙色土(7.5YR6/8)As-Kk一次堆積層。灰層ブロックを含む。

2面1号溝B－B′

1．褐灰色土(10YR5/1)As-Kk一次堆積層。
2．黒褐色土(10YR3/2)As-Kkを少量含む。粘質土。

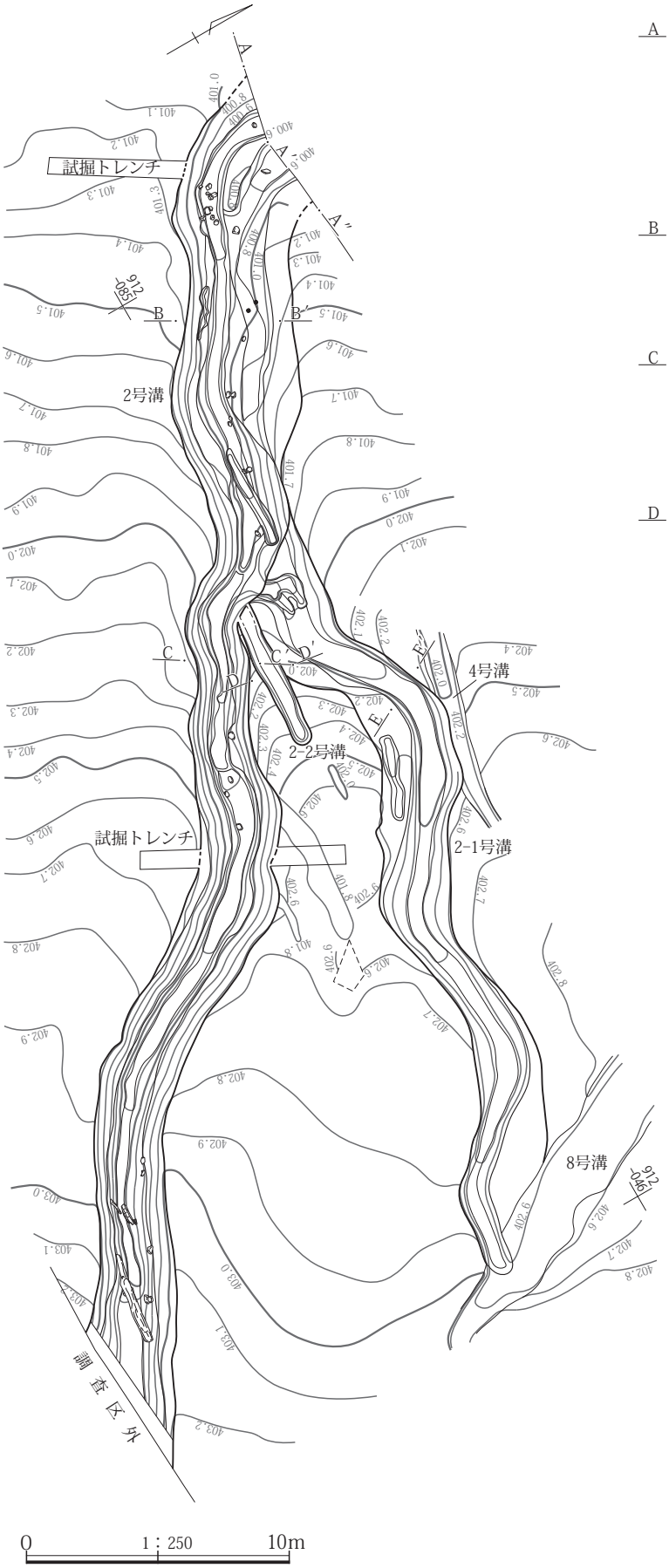
第19図　2面1号溝

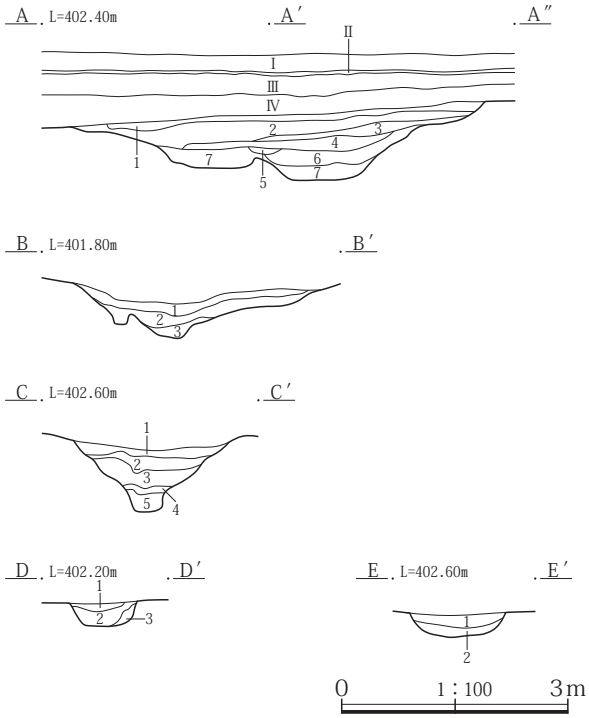


3面1号溝

1．黒褐色土(10YR3/2)As-Kkを50％含む。径１～２㎜の砂粒子を混入する。
2．明黄褐色土(10YR6/8)As-Kk。灰層ブロックを多量に含む。
3．褐灰色土(10YR6/1)灰層主体(１～３層は１号溝)。
4．褐灰色土(10YR5/1)細粒白色・黄橙色軽石を含む。(４～12層は旧河道)
5．黒褐色土(10YR3/2)細粒白色・黄橙色軽石を含む。粘質土。
6．褐灰色土(10YR6/1)細粒白色・黄橙色軽石を多量に含む。粘質土。
7．黒褐色土(10YR3/2)黄橙色軽石を多量に含む。大型の礫が混在する。粘質土。
8．灰白色土(10YR7/1)細粒白色・黄橙色軽石を多量に含む。
9．黒褐色土(10YR3/1)細粒白色・黄橙色軽石を多量に含む。小礫が少量混在する。
10．浅黄橙色(10YR8/4)細粒白色・黄橙色軽石を多量に含む。
11．暗褐色土(10YR3/3)細粒白色・黄橙色軽石を含む。粘質土。小礫が多量に混在する。
12．にぶい黄橙色土(10YR7/2)細粒白色・黄橙色軽石を含む。

第20図　３面１号溝





2号溝A－A′
Ⅰ．表土
Ⅱ．表土下鉄分凝縮層
Ⅲ．暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土。細粒白色軽石を多量に含む。
Ⅳ．黒褐色土(10YR3/1)As-Kk混土。細粒白色軽石を含む。
1．暗褐色土(10YR3/3)As-Kkを含む。
2．黒褐色土(10YR3/1)As-Kkを多量に含む。
3．黒褐色土(10YR3/2)As-Kkを多量に含む。
4．黒褐色土(10YR3/1)As-Kk、黄橙色粒を含む。
5．明黄褐色土(10YR6/8)As-Kk一次堆積層主体。
6．褐灰色土(10YR5/1)褐灰色粘質土主体。As-Kkを含む。
7．明黄褐色土(10YR6/8)As-Kk一次堆積層主体。灰層ブロックを少量含む。

2号溝B－B′
1．褐灰色土(10YR6/1)As-Kk一次堆積層。灰層ブロックを多量に含む。
2．明黄褐色土(10YR6/8)As-Kk一次堆積層。灰層ブロックを含む。
3．灰白色土(10YR7/1)灰層ブロック主体。小礫を少量含む。

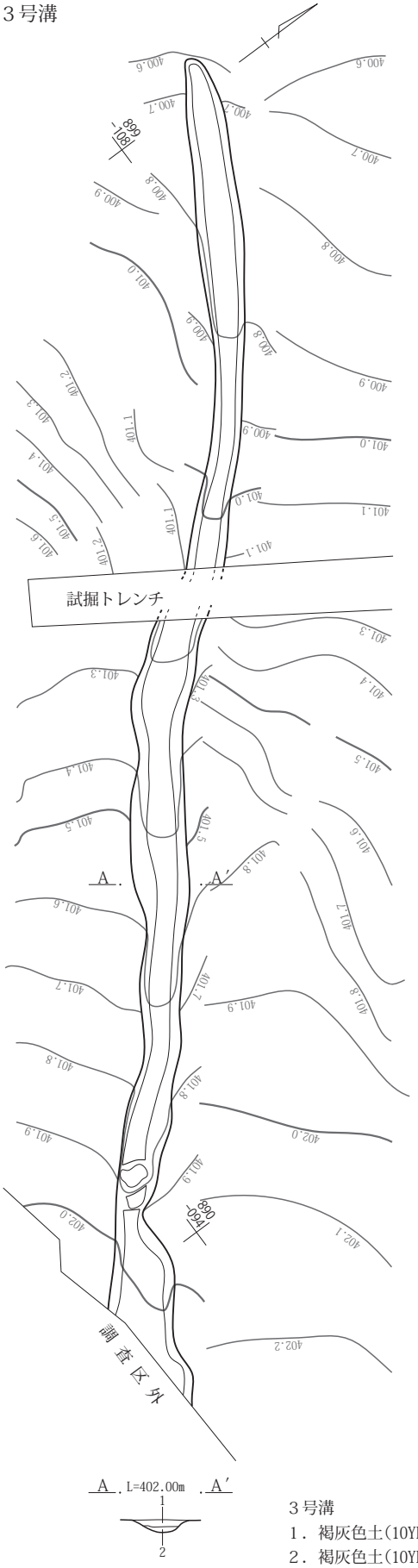
2号溝C－C′
1．明黄褐色土(10YR6/8)As-Kk一次堆積層。褐灰色粘質土ブロックを含む。
2．褐灰色土(10YR6/1)As-Kk一次堆積層。褐灰色粘質土ブロック多量、灰層ブロックを少量含む。
3．明黄褐色土(10YR6/8)２層に類似するが、As-Kkを多く含む。灰層ブロック少量、褐灰色粘質土ブロックを含む。
4．明黄褐色土(10YR6/8)As-Kk一次堆積層主体。褐灰色粘質土ブロックを少量含む。
5．褐灰色土(10YR5/1)褐灰色粘質土主体。As-Kkを少量含む。

2－2号溝D－D′
1．黄褐色土(10YR5/8)細粒黄橙色軽石を含む。
2．黒褐色土(10YR3/2)黄橙色軽石を含む。粘質土。
3．灰黄褐色土(10YR6/2)黄橙色軽石・鉄分凝縮ブロックを含む。

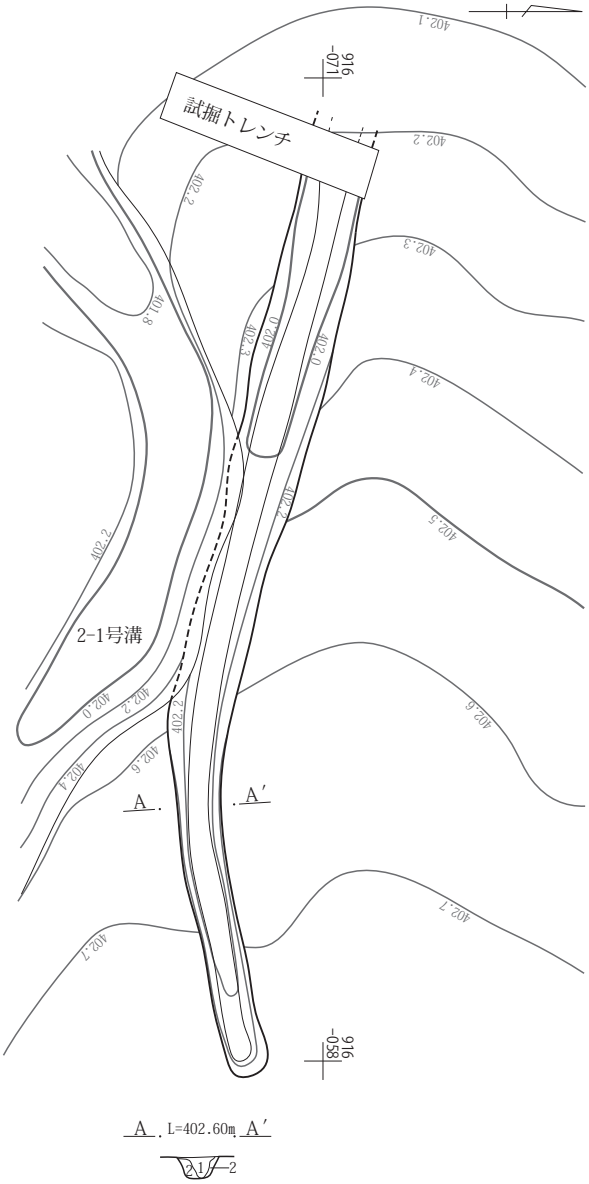
2－1号溝E－E′
1．黒褐色土(10YR3/1)黄橙色軽石を含む。
2．黄褐色土(10YR5/8)淡黄色土ブロックを少量、黄橙色軽石を含む。

第21図　２面２号・２－１号・２－２号溝

３号溝



４号溝

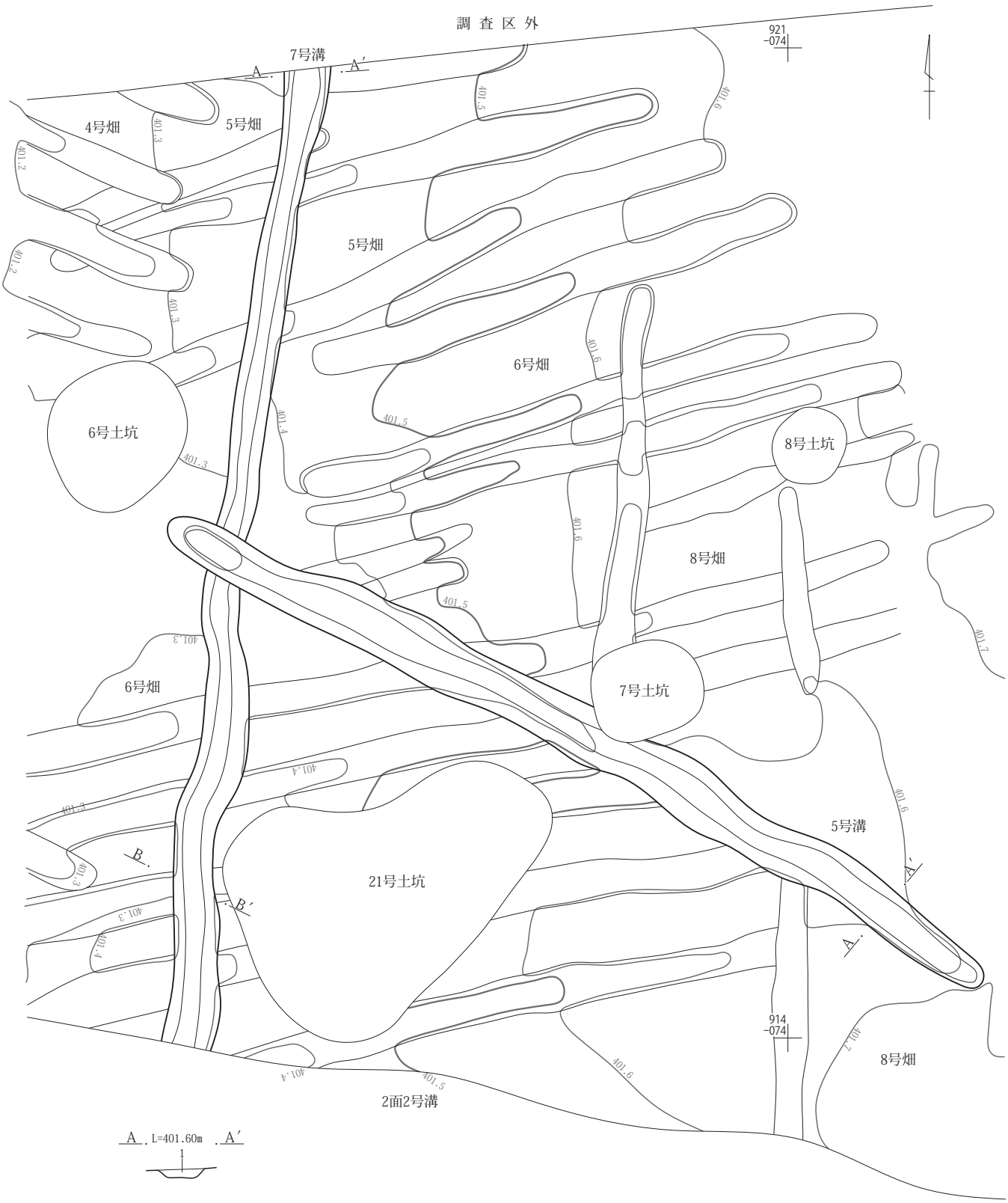


４号溝
１．黒褐色土(10YR3/2)黄橙色軽石を多量に含む。粘質土。
２．黄褐色土(10YR5/8)淡黄色土ブロック少量、黄橙色軽石を含む。

３号溝
１．褐灰色土(10YR5/1)黒褐色粘質土ブロック少量、砂粒を含む。
２．褐灰色土(10YR6/1)砂粒・小礫を含む。

0　1：100　3m

第22図　２面３号・４号溝



A L=401.60m A′

1

B L=401.50m B′

1

6号畑

A L=401.70m A′

1

7号溝A－A′

1．黒褐色土(10YR3/2)黄橙色軽石多量、橙色粒を少量含む。

7号溝B－B′

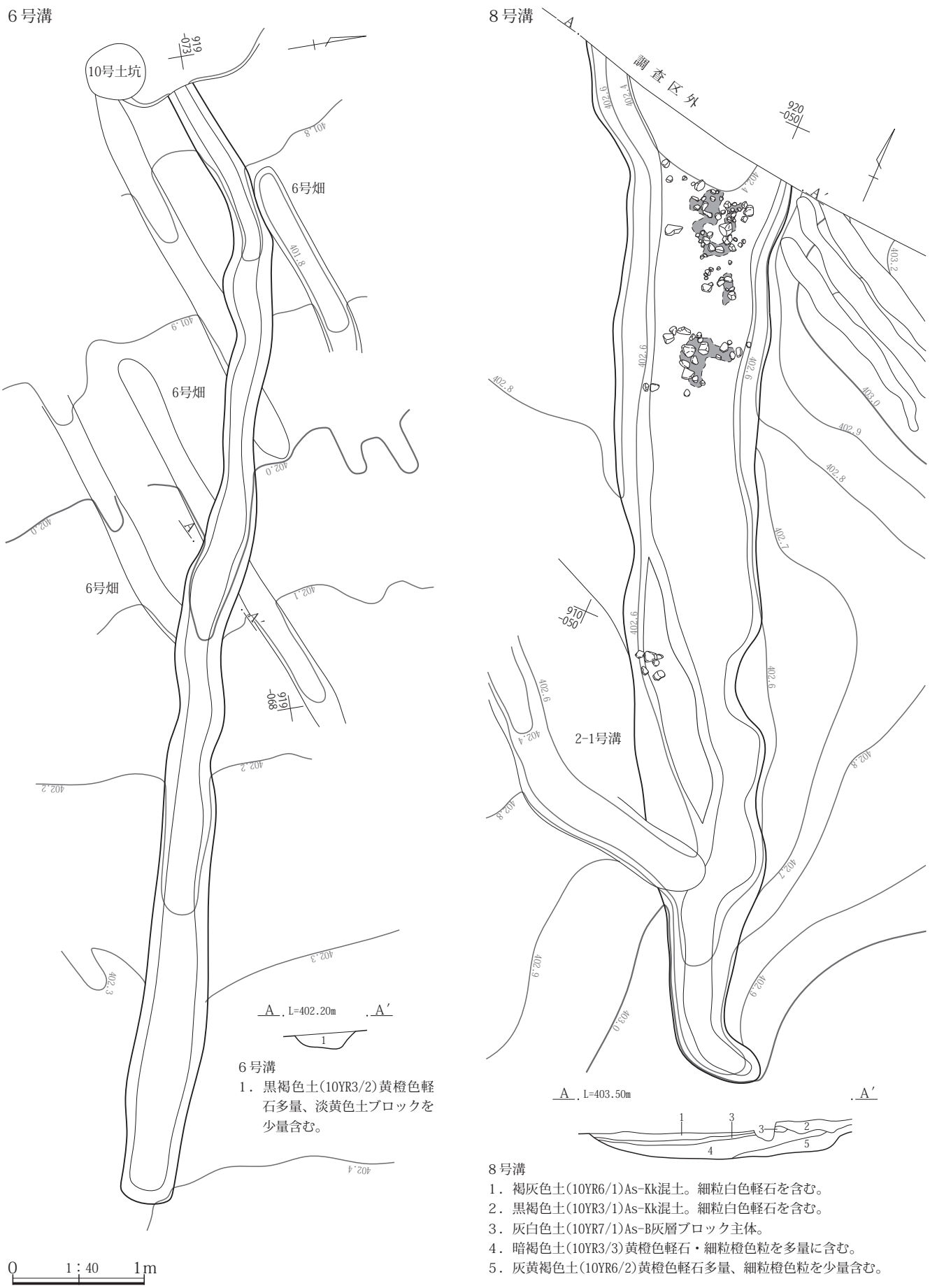
1．褐灰色土(10YR5/1)黄橙色軽石・細粒橙色粒を含む。

5号溝

1．黒褐色土(10YR3/2)黄橙色軽石を多量に含む。

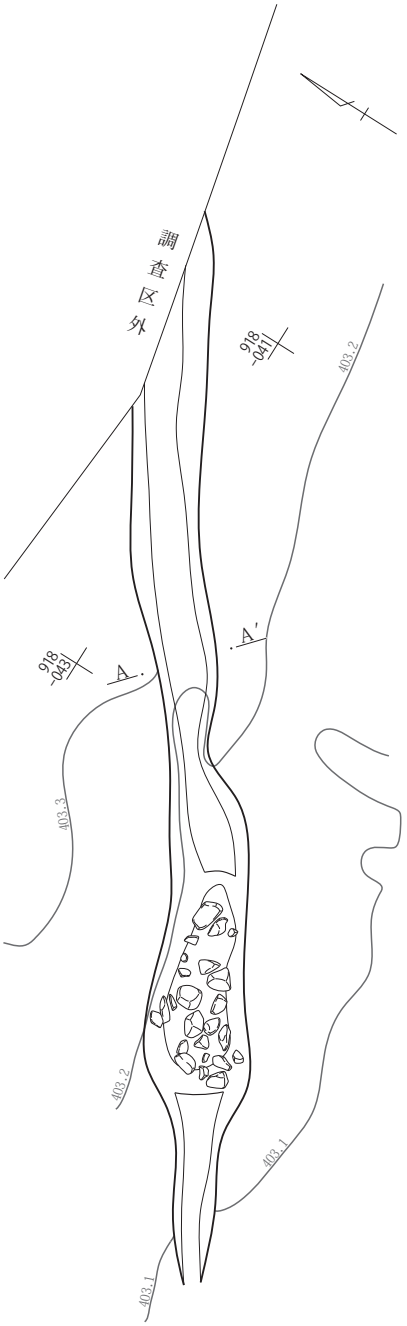
0 1：40 1m

第23図　3面5号・7号溝



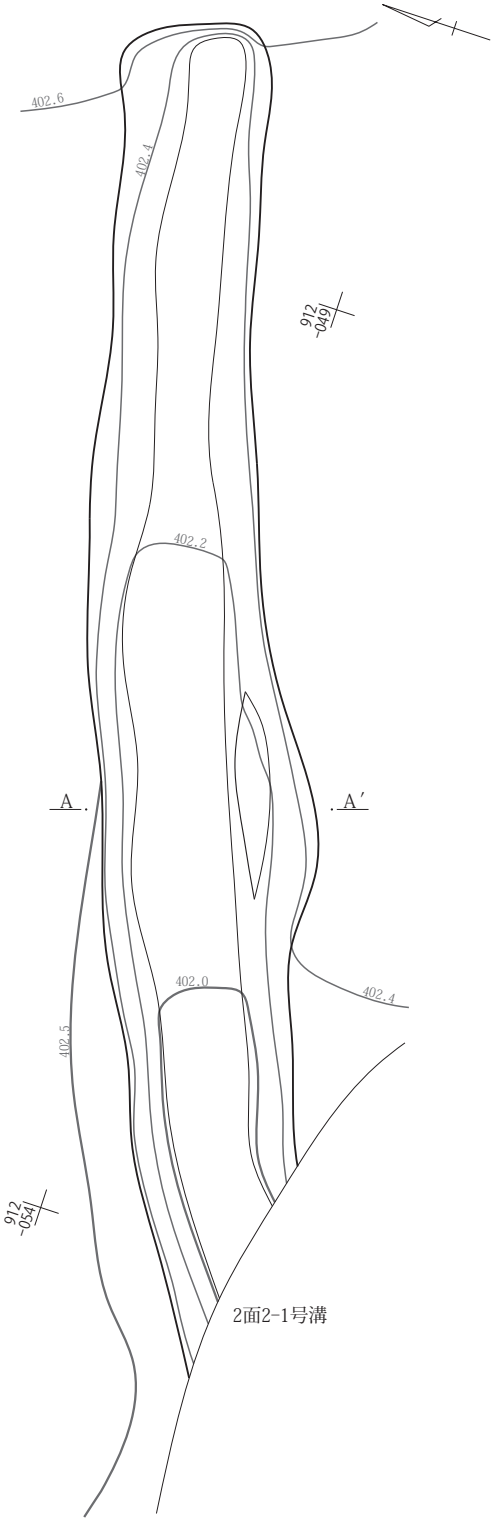
第24図　３面６号・２面８号溝

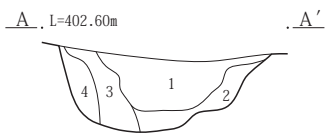
９号溝



９号溝
１．黒褐色土(10YR3/2)小礫を含む。

10号溝

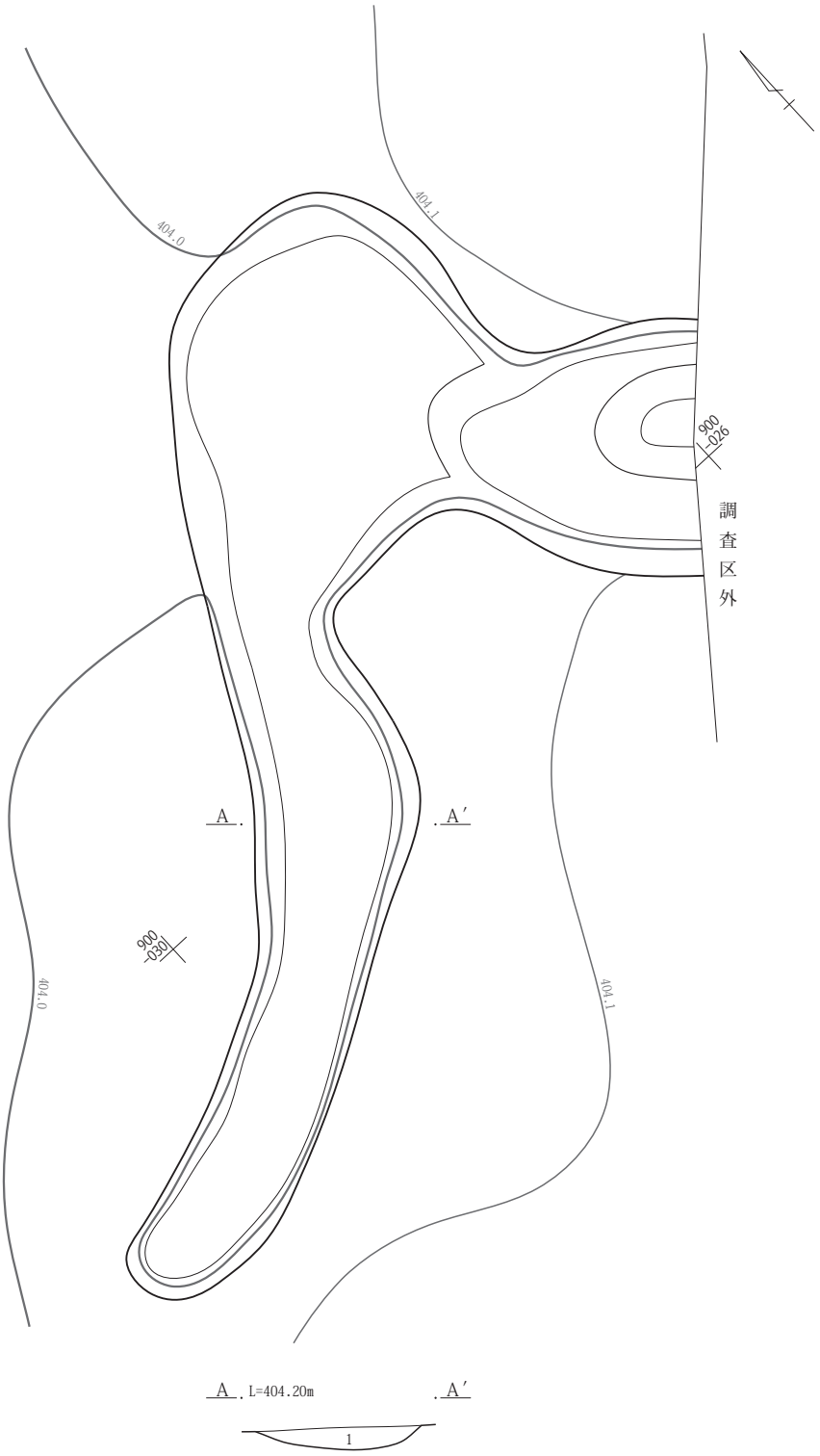




10号溝
１．黒褐色土(10YR3/2)黄橙色軽石多量、細粒橙色粒を少量含む。
２．黒褐色土(10YR3/1)黄橙色軽石・細粒橙色粒を少量含む。
３．灰黄褐色土(10YR6/2)黄橙色軽石多量、細粒橙色粒を少量含む。
４．暗褐色土(10YR3/3)淡黄色土ブロック少量、細粒黄橙色軽石を含む。

0　1：40　1m

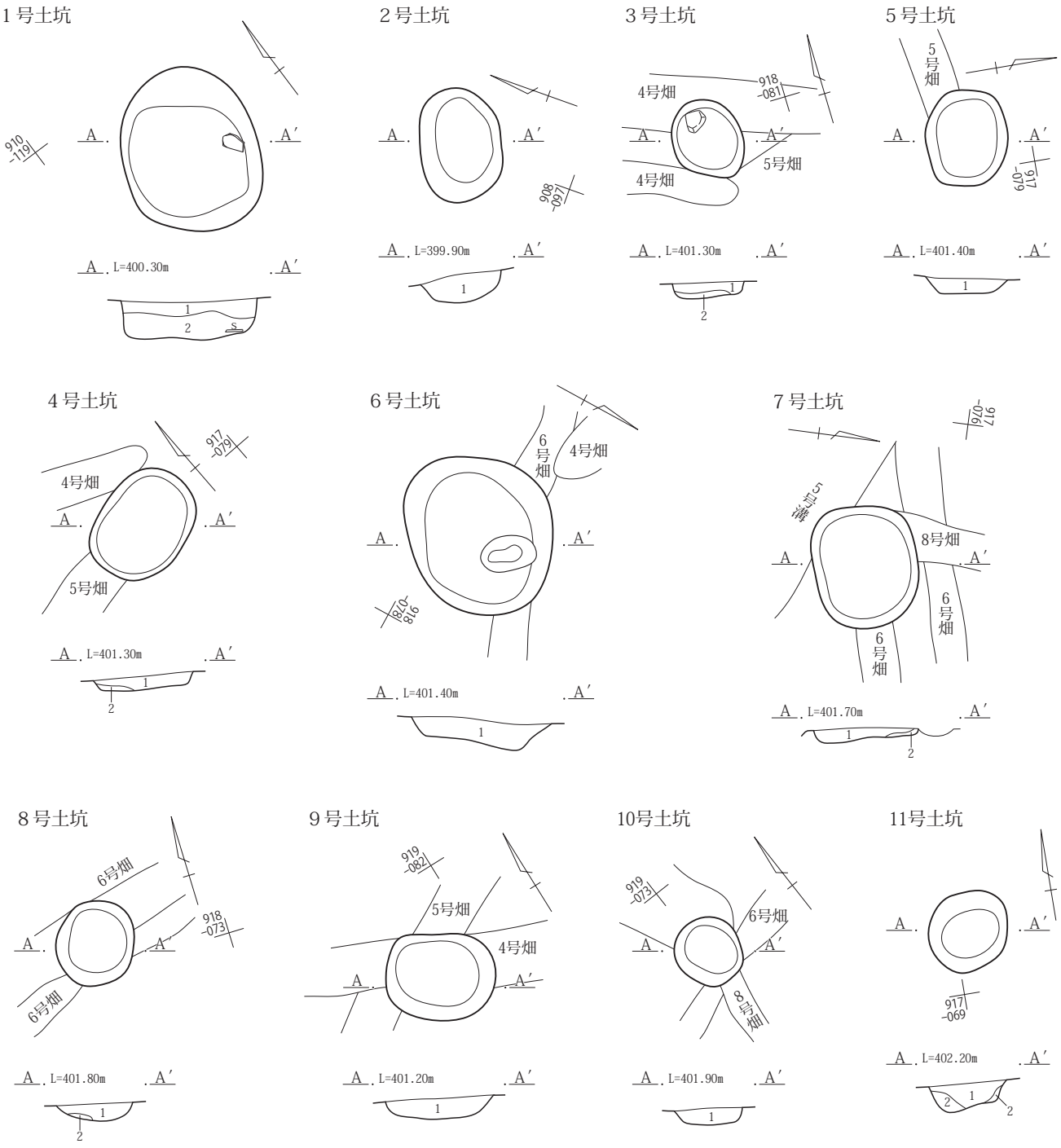
第25図　３面９号・10号溝



11号溝
１．黒褐色土(10YR3/2)黄橙色軽石多量、細粒橙色粒を少量含む。

0　1：40　1m

第26図　３面11号溝



1号土坑
1．灰黄褐色土(10YR4/2)As-Kk混土主体。
2．暗褐色土(10YR3/3)As-Kk混土主体。細粒黄橙色粒を含む。

2号土坑
1．黒色土(10YR2/1)細粒黄橙色粒を含む。粘質土。

3号・4号土坑
1．黒褐色土(10YR3/2)径1～2㎜の黄橙色軽石を多量に含む。
2．明黄褐色土(10YR7/6)径1～2㎜の黄橙色軽石を含む。

5号土坑
1． 黒褐色土(10YR3/2)径1～3㎜の黄橙色軽石を多量に含む。

6号土坑
1．黒褐色土(10YR3/2)径1～2㎜の黄橙色軽石を多量に含む。

7号土坑
1．黒褐色土(10YR3/2)径1～5㎜の黄橙色軽石多量、褐色土ブロックを含む。
2．明黄褐色土(10YR7/6)径1～2㎜の黄橙色軽石を含む。

8号土坑
1．黒褐色土(10YR3/2)径1～3㎜の黄橙色軽石多量、黄褐色土ブロックを含む。
2．明黄褐色土(10YR7/6)径1～2㎜の黄橙色軽石を含む。

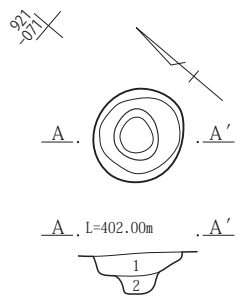
9号・10号土坑
1．黒褐色土(10YR3/2)径1～2㎜の黄橙色軽石を多量に含む。

11号土坑
1．黒褐色土(10YR3/2)径1～2㎜の黄橙色軽石を多量に含む。
2．黄褐色土(10YR5/8)径1～2㎜の黄橙色軽石を少量含む。

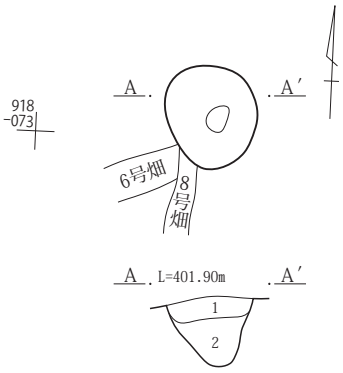
0　1：40　1m

第27図　1面1号・3面2号～11号土坑

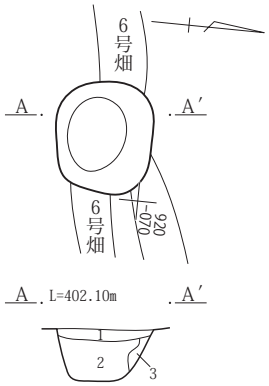
12号土坑



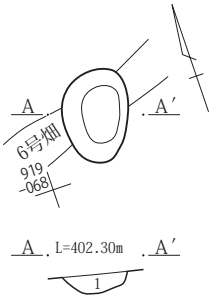
13号土坑



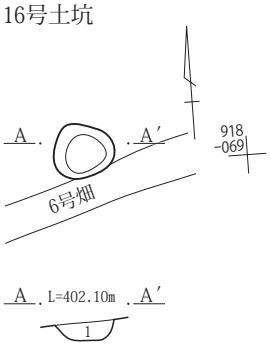
14号土坑



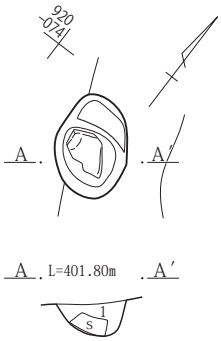
15号土坑



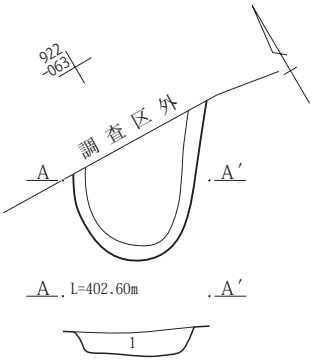
16号土坑



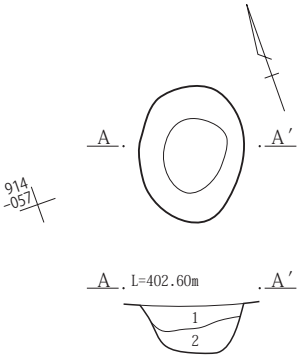
17号土坑



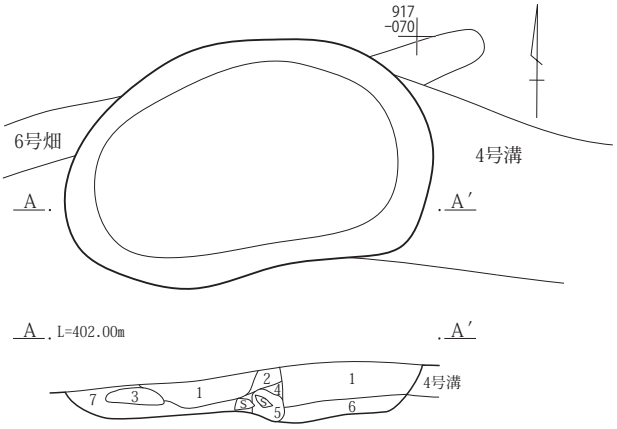
18号土坑



20号土坑



19号土坑



12号土坑
1．黒褐色土(10YR3/2)径１～３㎜の黄橙色軽石多量、黄褐色土ブロックを含む。
2．黒褐色土(10YR3/1)径１～２㎜の黄橙色軽石・黒色土ブロックを含む。

13号土坑
1．黒褐色土(10YR3/2)径１～２㎜の黄橙色軽石を多量に含む。
2．黄褐色土(10YR5/8)径１～２㎜の黄橙色軽石・褐色土ブロックを含む。

14号土坑
1．黒褐色土(10YR3/2)径１～２㎜の黄橙色軽石を多量に含む。
2．黒褐色土(10YR3/1)橙色粒少量、径１～２㎜の黄橙色軽石を含む。
3．明黄褐色土(10YR7/6)橙色粒少量、径１～３㎜の黄橙色軽石を含む。

15号土坑
1．黒褐色土(10YR3/2)径１～２㎜の黄橙色軽石を含む。

16号土坑
1．黒色土(10YR2/1)細粒黄橙色粒を含む。粘質土。

17号土坑
1．黒褐色土(10YR3/2)径１～２㎜の黄橙色軽石を多量に含む。

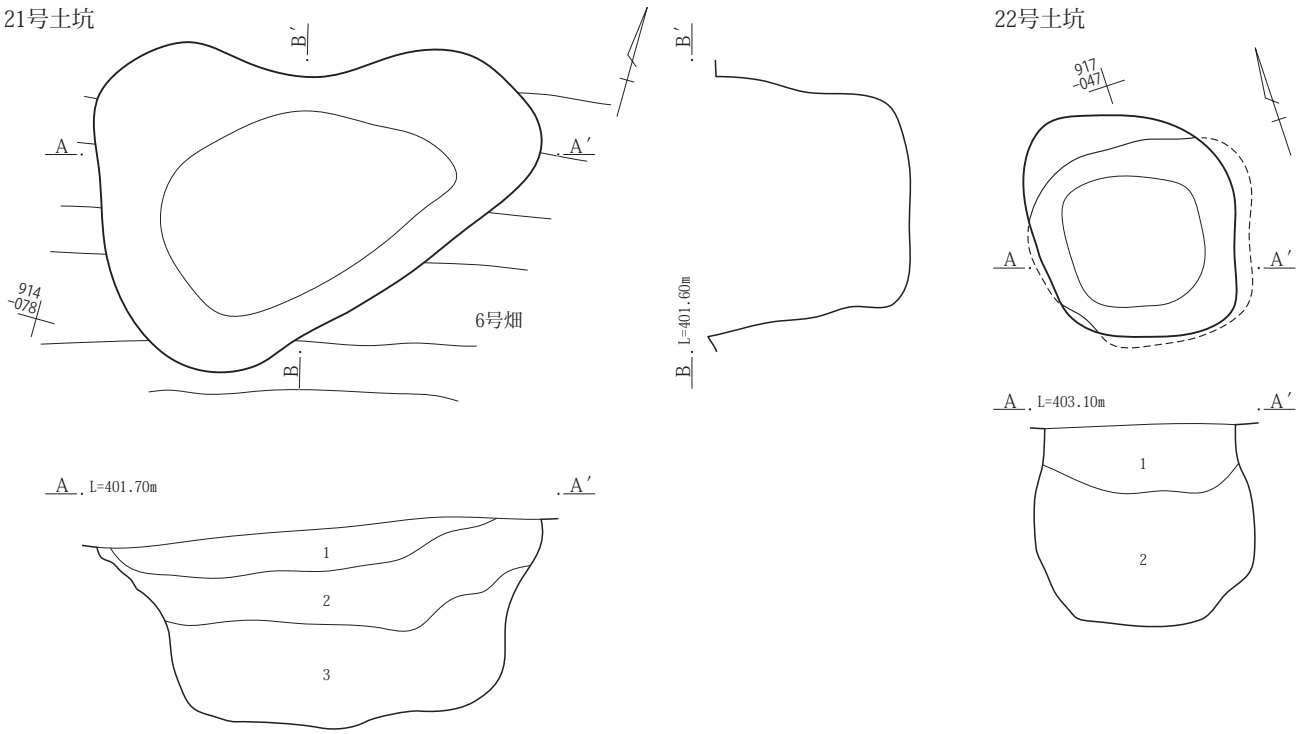
18号土坑
1．黄褐色土(10YR5/8)径１～２㎜の黄橙色軽石・褐色土ブロックを含む。

19号土坑
1．黒褐色土(10YR3/2)径１～２㎜の黄橙色軽石を多量に含む。
2．淡黄色土(2.5Y8/3)径１～２㎜の黄橙色軽石・褐色土ブロックを含む。
3．灰白色土(５Y8/1)白色シルト土ブロック。
4．暗褐色土(10YR3/4)黒色土ブロック少量、径１～２㎜の黄橙色軽石を含む。
5．黒色土(10YR2/1)黒褐色土ブロック・黄橙色軽石を含む。
6．黒褐色土(10YR2/3)橙色粒少量、径１～２㎜の黄橙色軽石を含む。
7．黄褐色土(10YR5/8)径１～２㎜の黄橙色軽石・褐色土ブロックを含む。

20号土坑
1．黒褐色土(10YR3/1)径１～２㎜の黄橙色軽石を含む。
2．明黄褐色土(10YR7/6)径１～２㎜の黄橙色軽石少量、僅かに橙色粒を含む。

0　1：40　1m

第28図　３面12号～20号土坑



21号土坑
1．灰白色土(10YR7/1)径１～２㎜の黄橙色軽石を多量に含む。
2．褐灰色土(10YR6/1)径１～２㎜の黄橙色軽石多量、橙色粒を含む。
3．褐灰色土(10YR4/1)径１～２㎜の黄橙色軽石・橙色粒を少量含む。

22号土坑
1．褐灰色土(10YR6/1)径１㎜程の黄橙色軽石を含む。
2．褐灰色土(10YR4/1)径１～２㎜の黄橙色軽石・橙色粒を少量含む。

23号土坑
1．褐灰色土(10YR6/1)径１㎜程の黄橙色軽石を少量含む。粘質土。

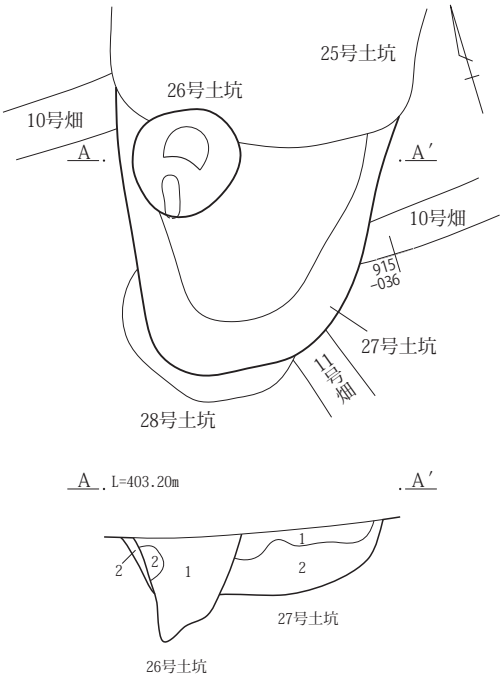
24号土坑
1． 黒色土(10YR2/1)細粒黄橙色粒を含む。粘質土。

25号土坑
1．褐灰色土(10YR6/1)径１～２㎜の黄橙色軽石を多量に含む。
2．黒褐色土(10YR3/1)径１～２㎜の黄橙色軽石・橙色粒を含む。
3．褐灰色土(10YR4/1)径１～２㎜の黄橙色軽石・橙色粒を少量含む。
4．にぶい黄橙色土(10YR7/2)径１～２㎜の黄橙色軽石・橙色粒を多量に含む。
5．黒褐色土(10YR3/2)径１～２㎜の黄橙色軽石を少量含む。

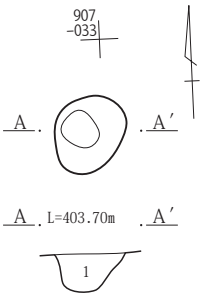
0　1：40　1m

第29図　３面21号～25号土坑

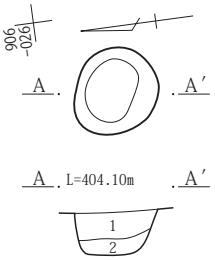
26号・27号土坑



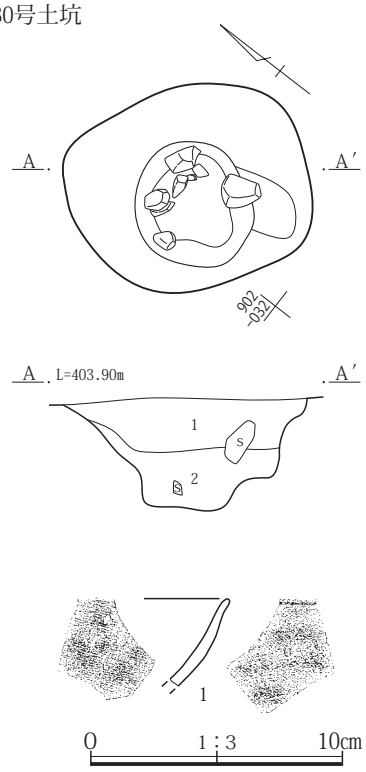
29号土坑



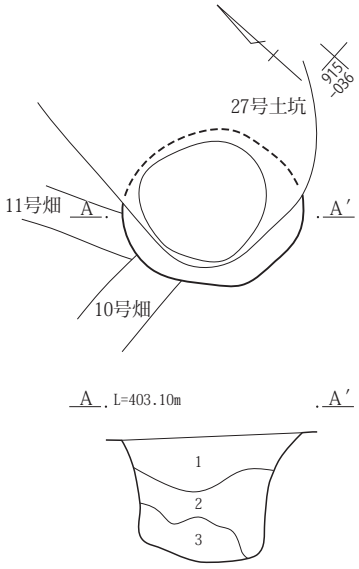
31号土坑



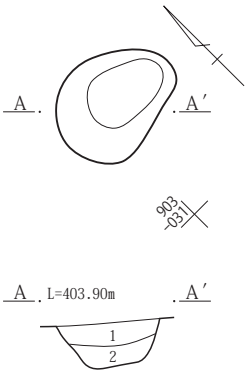
30号土坑



28号土坑



32号土坑



26号土坑
1．褐灰色土(10YR4/1)径１～２㎜の黄橙色軽石・橙色粒を含む。
2．黄褐色土(10YR5/8)径１～２㎜の黄橙色軽石を含む。

27号土坑
1．黒褐色土(10YR3/1)径１～２㎜の黄橙色軽石・橙色粒を含む。
2．暗褐色土(10YR3/4)径１～２㎜の黄橙色軽石・橙色粒を多量に含む。

28号土坑
1．灰黄褐色土(10YR6/2)径１～２㎜の黄橙色軽石を少量含む。
2．褐色土(10YR4/6)橙色粒少量、径１～２㎜の黄橙色軽石を含む。
3．にぶい黄橙色土(10YR7/2)径１～２㎜の黄橙色軽石・橙色粒を多量に含む。

29号土坑
1．黒色土(10YR2/1)橙色粒僅かに、細粒黄橙色粒を含む。粘質土。

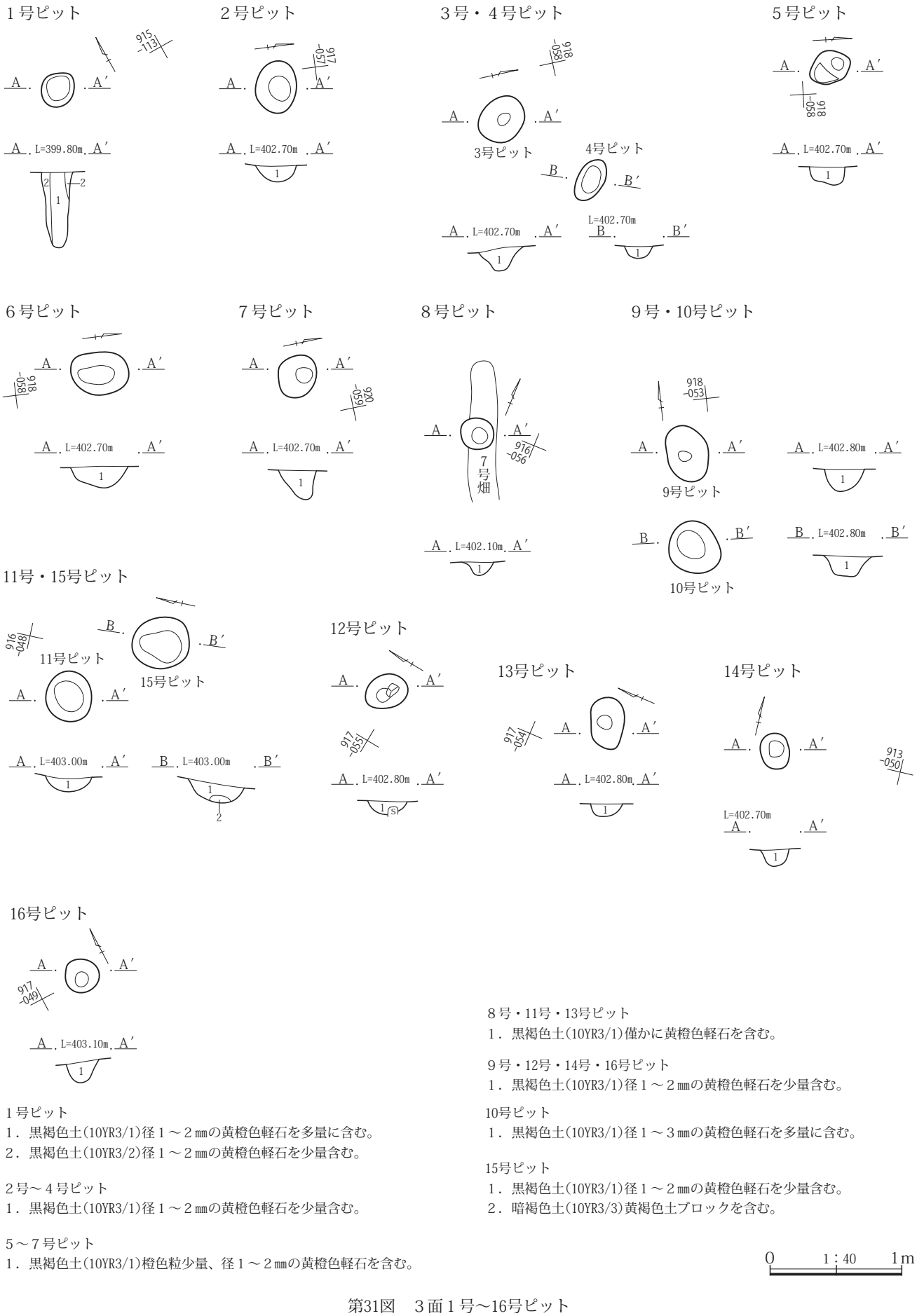
30号土坑
1．黒褐色土(10YR3/2)径１～２㎜の黄橙色軽石多量、橙色粒を含む。
2．褐色土(10YR4/6)径１～２㎜の黄橙色軽石多量、橙色粒を含む。

31号土坑
1．暗褐色土(10YR3/4)径１～２㎜の黄橙色軽石・橙色粒を多量に含む。
2．灰黄褐色土(10YR4/2)径１～２㎜の黄橙色軽石・橙色粒多量、褐色土ブロックを含む。

32号土坑
1．灰黄褐色土(10YR4/2)径１～２㎜の黄橙色軽石・橙色粒多量、黒褐色土ブロックを含む。
2．暗褐色土(10YR3/4)径１～２㎜の黄橙色軽石を少量含む。粘質土。

0　1：40　1m

第30図　３面26号～32号土坑、30号土坑出土遺物



1号ピット
1．黒褐色土(10YR3/1)径１～２㎜の黄橙色軽石を多量に含む。
2．黒褐色土(10YR3/2)径１～２㎜の黄橙色軽石を少量含む。

2号～４号ピット
1．黒褐色土(10YR3/1)径１～２㎜の黄橙色軽石を少量含む。

5～７号ピット
1．黒褐色土(10YR3/1)橙色粒少量、径１～２㎜の黄橙色軽石を含む。

8号・11号・13号ピット
1．黒褐色土(10YR3/1)僅かに黄橙色軽石を含む。

9号・12号・14号・16号ピット
1．黒褐色土(10YR3/1)径１～２㎜の黄橙色軽石を少量含む。

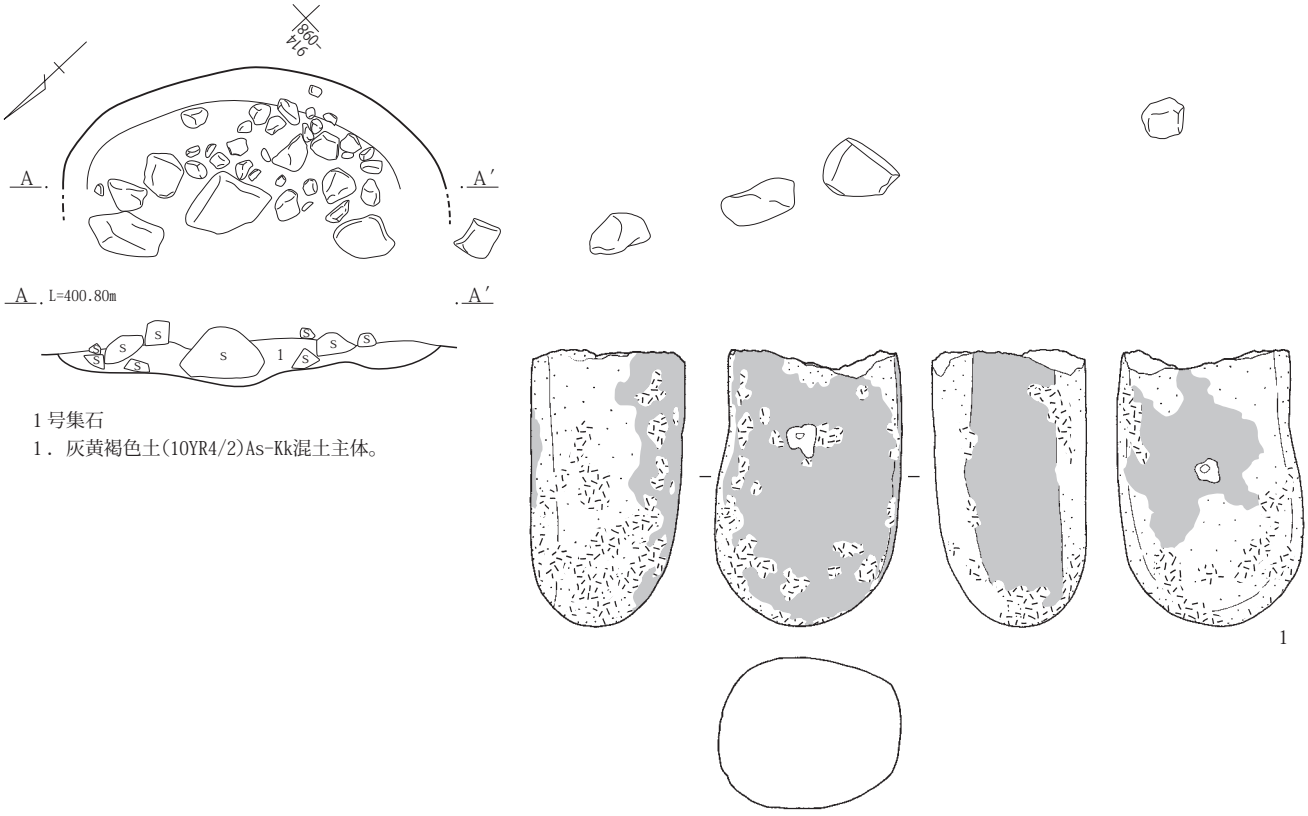
10号ピット
1．黒褐色土(10YR3/1)径１～３㎜の黄橙色軽石を多量に含む。

15号ピット
1．黒褐色土(10YR3/1)径１～２㎜の黄橙色軽石を少量含む。
2．暗褐色土(10YR3/3)黄褐色土ブロックを含む。

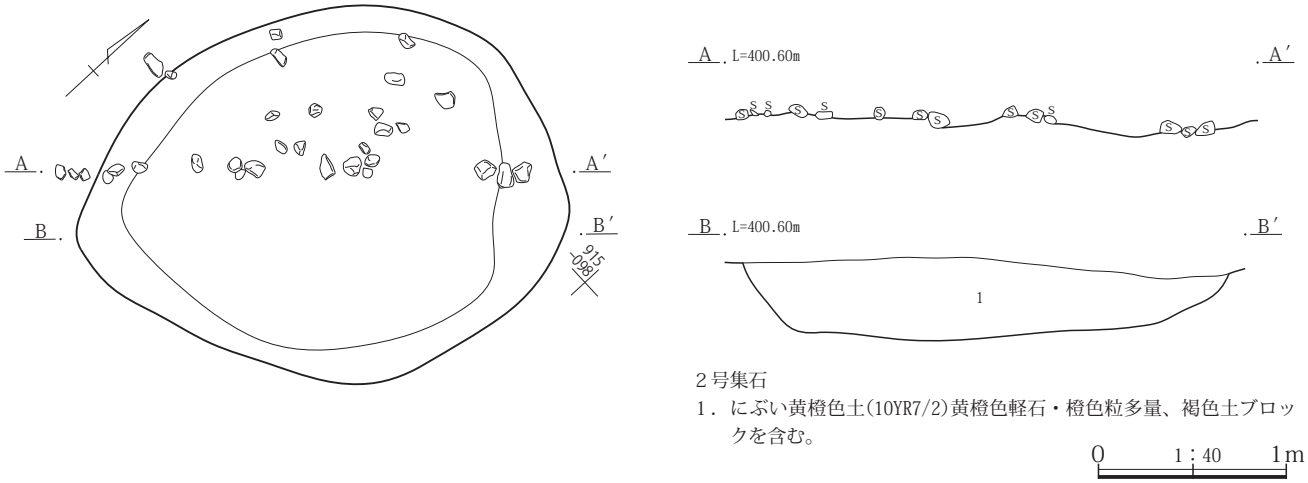
0　1：40　1m

第31図　３面１号～16号ピット

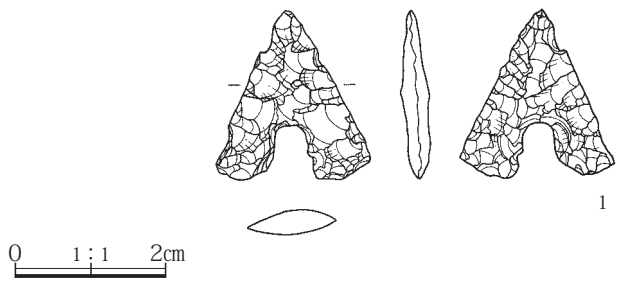
１号集石



２号集石



第32図　１面１号・２号集石、１号集石出土遺物



第33図　遺構外出土遺物

第４章　まとめ

川戸太田遺跡は上信自動車道吾妻東バイパス建設の川戸地区に所在し、吾妻川の南にある。さらにその南に榛名山があり、榛名山の北麓に立地する。そのため遺跡地内は南東から北西に傾斜し、遺跡地内の比高差は南西から北西に向かって4.2m、標高は400m前後を測る。

調査面は３面を数えているが、傾斜地であることと幾度かの大雨等の結果と思われる溝等が谷地形を形成していると考えられる。

検出された遺構は畑・溝・土坑・ピット・集石である。居住域としては利用されていない。時期は古代から中近世である。遺跡内では出土遺物はほとんど検出されていない。出土遺物は小破片が大部分で、掲載した須恵器杯蓋と椀が形と器種がわかる破片で、時期は８世紀が想定できる。また、畑の耕作土中から磨石、表採で石鏃が出土した。畑はほぼ古代から中近世と考えられるが、出土遺物が少なく時期認定は難しいが、１・２号畑覆土中にAs-Kkが確認されている。他の遺構では８号溝覆土中よりAs-Kkが確認されたが、すぐ下の層よりAs-Bが確認されている。従って陶磁器片、土師器片、須恵器蓋片等から８世紀から中近世の間にある遺跡と推定される。

畑は平安時代から中近世の範囲にある時期が想定される。畑のサクは平坦な面を選択、やや傾斜地には斜めに切ってある。畑は北部や北西・北東部の緩斜面に３時期が考えられる。畑のサクは４方向に切られ、東西方向のサクが一番新しいと考えられ、北東から南西に向かうものが一番旧い。畑のサク底面に鍬先跡が認められるが溝内には工具痕や杭などの人為的なものは認められない。また土坑・ピットは畑のサクを切っており、さらに新しい段階に想定できる。

１・２号溝は低地を蛇行し、二股に分かれて畑を壊している。大雨時の洪水のように低きに流れた洪水状のものもある。

1・2号溝の覆土中にAs-Kkが確認され、重複はないが、比定できる。

１号溝はA-A′の断面で確認するとほとんど重なることがわかる２度の大水で削られた様子がうかがえる。つまり３面の１号溝が最初の洪水で４～12層の堆積が終わり、次に１号溝の低地を１～３層の覆土を持つ溝が削り取った同じ低地に流れ落ちるものである。ほとんどの溝は一部を除いて人工的水路とは考えられない。流路の可能性は覆土、底部の石が角礫であり、山体の崩落土が大水とともに流れ落ちたものが多い。人工的な流路と思われるものは少ない。

土坑は32基が確認されている。ほとんどが畑の耕作土を掘りこんでおり、時期的には中近世と考えられる。

１号土坑の覆土にはAs-Kk混土が確認されている。

土坑の中で特筆されるのは21・22・25・26・27・28・30号の７基の土坑がある。形状は楕円形あるいは方形に近く、掘り込みが他の土坑よりやや深く、21号土坑は118㎝、22号土坑は112㎝を測り、一番浅い27号土坑でも46㎝を測る。ほとんどが畑のサクを切っていることから、畑・溝よりもかなり新しい時期が想定できる。７基の土坑は出土遺物もなく、30号土坑は須恵器椀の破片が出土しているが、同時に洪水時と思われる崩壊土中の角礫も混じっている。これらの７基は貯蔵穴、あるいは墓の可能性が指摘できる。

集石は１・２号共に３号溝のよどみ内の礫であるが、ほとんどが角礫と考えられ、大水時の溜まりと考えられる。

遺構計測表

第３表　畑計測表

面	番号	位　置	重　複	長軸（m）	短軸（m）	サク数	サク幅（cm）	サク深さ（cm）	方　位
1	1	X＝ 61913 ～ 917 Y＝-91103 ～ 107		4.34	2.38	10	９～20	１～17	N-46°－E
1	2	X＝ 61905 ～ 909 Y＝-91116 ～ 120		4.74	2.26	22	４～25	１～７	N-35°－E
3	3	X＝ 61914 ～ 921 Y＝-91086 ～ 096	２面２号溝より旧	8.37	8.03	17	15～43	１～13	N-63°－E
3	4	X＝ 61915 ～ 920 Y＝-91078 ～ 085	５号畑より新、３・４・９号土坑より旧	7.97	5.53	11	33～67	１～10	N-65°-W
3	5	X＝ 61916 ～ 920 Y＝-91074 ～ 085	４号畑、７号溝、３～６・９号土坑より旧	10.38	5.56	10	28～68	１～11	N-68°－E
3	6	X＝ 61911 ～ 921 Y＝-91055 ～ 080	４・８号畑、５～７号溝、７・８・10・13 ～ 17・19・21号土坑より旧	12.05	5.08	41	12～38	１～15	N-76°－E
3	7	X＝ 61914 ～ 916 Y＝-91056 ～ 058	８号ピット・２面４号溝より旧	2.24	1.94	4	15～26	２～８	N-21°-W
3	8	X＝ 61912 ～ 919 Y＝-91071 ～ 075	６号畑より新、５号溝、７・10・13号土坑より旧	6.63	4.32	9	13～28	１～８	N-２°－E
1	9	X＝ 61915 ～ 919 Y＝-91045 ～ 049		5.07	1.55	3	14～51	４～21	N-63°-W
3	10	X＝ 61903 ～ 921 Y＝-91027 ～ 047	11号畑より新、25 ～ 28号土坑より旧	10.30	7.91	31	12～42	１～15	N-85°－E
3	11	X＝ 61906 ～ 919 Y＝-91027 ～ 047	10号畑、25 ～ 28号土坑より旧	10.55	6.27	76	11～50	１～17	N-11°-W
3	12	X＝ 61899 ～ 902 Y＝-91038 ～ 040		2.85	2.06	4	23～40	２～17	N-30°-W

第４表　溝計測表

面	番号	位　置	重　複	走　行	長さ（m）	最大幅（m）	最小幅（m）	深さ（m）	方　位
2	1	X＝ 61890 ～ 924 Y＝-91070 ～ 113		南東～北西	(54.75)	4.21	0.45	0.05～0.90	N-42°-W N-54°-W
3	1	X＝ 61890 ～ 924 Y＝-91039 ～ 116	２号土坑・１号ピット・２面２号溝より旧	南東～北西	(85.04)	11.64	2.86	0.10～2.00	N-２°-W N-46°-W
2	2	X＝ 61891 ～ 920 Y＝-91046 ～ 090	2－１・2－２号溝より新	南東～北西	(48.08)	4.95	1.84	0.56～1.18	N-32°-W N-66°-W
2	2－1	X＝ 61905 ～ 914 Y＝-91045 ～ 076	４・８号溝より新、２・2－２号溝より旧	東～西	(31.08)	3.25	1.48	0.14～0.63	N-56°-W N-83°－E
2	2－2	X＝ 61909 ・ 910 Y＝-91067 ～ 072	2－１号溝より新、２号溝より旧	東～西	(5.75)	0.91	0.68	0.13～0.35	N-86°-W
2	3	X＝ 61888 ～ 900 Y＝-91091 ～ 108		南東～北西	(19.88)	1.01	0.41	0.01～0.24	N-47°-W
2	4	X＝ 61913 ～ 916 Y＝-91057 ～ 070	2－１号溝より旧	東～西	(12.08)	1.03	0.55	0.25～0.35	N-74°-W N-81°－E
3	5	X＝ 61914 ～ 917 Y＝-91072 ～ 078	６・８号畑、７号溝より新、７号土坑より旧	南東～北西	6.62	0.43	0.22	0.07～0.20	N-62°-W
3	6	X＝ 61917 ～ 919 Y＝-91064 ～ 072	６号畑より新	東～西	(8.60)	0.52	0.23	0.04～0.08	N-74°-W N-70°－E
3	7	X＝ 61913 ～ 920 Y＝-91077 ・ 078	５・６号畑より新、５号溝より旧	北～南	(6.97)	0.37	0.21	0.03～0.13	N-８°－E
2	8	X＝ 61902 ～ 919 Y＝-91043 ～ 054	2－１号溝より旧	南東～北西	(18.60)	4.00	0.79	0.05～0.45	N-23°-W
3	9	X＝ 61915 ～ 918 Y＝-91040 ～ 045		北東～南西	(5.65)	0.55	0.21	0.01～0.21	N-55°－E
3	10	X＝ 61910 ～ 913 Y＝-91047 ～ 054	８号溝より新	東～西	(6.45)	1.13	0.74	0.21～0.55	N-67°－E
3	11	X＝ 61898 ～ 902 Y＝-91025 ～ 031		南東～北西 ～南西	(7.69)	1.88	0.58	0.01～0.33	N-41°-W N-48°－E

第５表　土坑計測表

面	番号	位　置		重　複	平面形状	規模(cm)			長軸方位
						長軸	短軸	深さ	
1	1	X＝61908・909	Y＝-91117・118		楕円形	117	89	31	N-29°-E
3	2	X＝61908・909	Y＝-91096・097	１号溝より新	楕円形	74	52	24	N-60°-E
3	3	X＝61917・918	Y＝-91081	４・５号畑より新	楕円形	56	45	10	N-20°-W
3	4	X＝61916・917	Y＝-91079・080	４・５号畑より新	長円形	76	58	11	N-71°-E
3	5	X＝61916	Y＝-91078・079	５号畑より新	楕円形	65	55	12	N-54°-W
3	6	X＝61917・918	Y＝-91078・079	５号畑より新	楕円形	112	97	17	N-20°-E
3	7	X＝61916	Y＝-91074・075	６・８号畑、５号溝より新	長円形	78	67	11	N-72°-E
3	8	X＝61917・918	Y＝-91073・074	６号畑より新	円形	54	54	10	—
3	9	X＝61918	Y＝-91081・082	４・５号畑より新	長円形	71	56	15	N-54°-W
3	10	X＝61918	Y＝-91072・073	６・８号畑より新	楕円形	45	42	10	N-16°-W
3	11	X＝61917	Y＝-91068・069		円形	53	50	18	N-16°-E
3	12	X＝61920	Y＝-91070・071		円形	50	48	25	N-74°-W
3	13	X＝61917・918	Y＝-91071・072	６・８号畑より新	楕円形	55	46	33	N-23°-W
3	14	X＝61919・920	Y＝-91070	６号畑より新	隅丸方形	58	52	29	N-84°-E
3	15	X＝61919	Y＝-91067	６号畑より新	長円形	49	36	12	N-13°-E
3	16	X＝61917・918	Y＝-91069・070	６号畑より新	楕円形	32	29	11	N-81°-W
3	17	X＝61919	Y＝-91073	６号畑より新	楕円形	53	39	16	N-22°-W
3	18	X＝61920・921	Y＝-91062・063		長円形	(89)	63	11	N-40°-E
3	19	X＝61915・916	Y＝-91069～071	６号畑より新	楕円形	197	122	34	N-74°-E
3	20	X＝61913・914	Y＝-91055・056		楕円形	72	56	31	N-19°-E
3	21	X＝61913～915	Y＝-91075～077	６号畑より新	不整形	232	172	118	N-47°-E
3	22	X＝61915・916	Y＝-91046・047		隅丸方形	139	112	126	N-26°-W
3	23	X＝61914・915	Y＝-91053・054		円形	55	52	20	N-55°-W
3	24	X＝61915・916	Y＝-91047・048		楕円形	53	42	34	N-24°-E
3	25	X＝61915～917	Y＝-91035～037	10・11号畑、27号土坑より新、26号土坑より旧	隅丸長方形	200	170	85	N-69°-E
3	26	X＝61915・916	Y＝-91036・037	11号畑、25・27号土坑より新	円形	59	56	53	N-35°-E
3	27	X＝61914～916	Y＝-91035～037	10・11号畑、28号土坑より新、25・26号土坑より旧	長円形	(148)	149	46	N-25°-E
3	28	X＝61914・915	Y＝-91036・037	10・11号畑より新、27号土坑より旧	楕円形	95	(83)	65	N-45°-W
3	29	X＝61906	Y＝-91032・033		楕円形	44	36	23	N-33°-E
3	30	X＝61902・903	Y＝-91031・032		長円形	126	106	60	N-52°-W
3	31	X＝61905	Y＝-91026		楕円形	47	42	26	N-59°-W
3	32	X＝61903	Y＝-91030・031		楕円形	69	55	29	N-84°-W

第６表　ピット計測表

面	番号	位　置		重　複	平面形状	規模(cm)			長軸方位
						長軸	短軸	深さ	
3	1	X＝61914・915	Y＝-91113	１号溝より新	円形	28	25	62	N-66°-E
3	2	X＝61916	Y＝-91056・057		楕円形	39	31	14	N-70°-W
3	3	X＝61917	Y＝-91057		楕円形	38	31	18	N-50°-W
3	4	X＝61917・918	Y＝-91056・057		楕円形	34	20	9	N-48°-W
3	5	X＝61918	Y＝-91058		楕円形	31	25	20	N-34°-W
3	6	X＝61918	Y＝-91057・058		楕円形	44	33	20	N-８°-E
3	7	X＝61919	Y＝-91059		楕円形	34	30	22	N-43°-W
3	8	X＝61915・916	Y＝-91056・057	７号畑より新	円形	26	24	12	N-76°-W
3	9	X＝61917	Y＝-91053		楕円形	44	32	26	N-16°-W
3	10	X＝61916・917	Y＝-91053		楕円形	42	38	15	N-47°-W
3	11	X＝61915	Y＝-91048		円形	37	36	16	N-34°-E
3	12	X＝61916・917	Y＝-91054		楕円形	33	25	15	N-60°-W
3	13	X＝61916	Y＝-91053		楕円形	39	26	23	N-65°-E
3	14	X＝61912・913	Y＝-91050・051		楕円形	28	21	13	N-26°-W
3	15	X＝61914・915	Y＝-91047・048		楕円形	44	38	19	N-27°-W
3	16	X＝61916・917	Y＝-91048		楕円形	27	26	20	N-22°-E

第７表　集石計測表

面	番号	位　置		重　複	平面形状	規模(cm)			長軸方位
						長軸	短軸	深さ	
1	1	X＝61913～915	Y＝-91097～099	２号集石より新	楕円形	212	(82)	19	N-43°-E
1	2	X＝61913～915	Y＝-91098～100	１号集石より旧	楕円形	257	199	45	N-34°-E

出土遺物観察表

第８表　遺物観察表

３面１号溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第20図 PL.22	1	須恵器 杯蓋	埋没土 口縁部～天井部 1/4	口 カ	18.0 14.8			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。内面にカエリを作る。	８世紀初頭

３面30号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第30図 PL.22	1	須恵器 椀	埋没土 口縁部片					細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回りか。	９世紀代

３面１号集石

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(㎜,g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第32図 PL.22	1	礫石器 磨石	埋没土 上半部欠損	長 幅	109 73	厚 重	61 833.9	粗粒輝石安山岩	棒状礫を素材、上半部欠損、表裏面と右側面に磨耗痕と敲打痕。右側面は面取りされた顕著な磨耗痕。	縄文

遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(㎜,g)				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第33図 PL.22	1	剥片石器 石鏃	埋没土 完形	長 幅	23 21	厚 重	4 1.2	チャート	凹基無茎鏃、鍬形、幅広の脚部で基部は逆Ｕ字形を呈する。	縄文

写 真 図 版

1 面 1 号畑全景　南西から

1 面 1 号畑全景　南東から

PL.2

1面1号畑土層断面A-A′　南西から

1面1号畑調査風景　北東から

1面2号畑全景　南西から

1面2号畑東部土層断面A-A′　南西から

1面2号畑西部土層断面A-A′　南西から

3面3号～8号畑　南西上空から

3面3号～8号畑　南上空から

PL.4

３面３号畑全景　南西上空から

３面３号畑全景　南西から

３面３号畑全景　北西から

３面３号畑土層断面Ａ－Ａ′　南西から

3面4号～8号畑　南西上空から

3面4号～6号・8号畑　南から

PL.6

3面4号・5号畑全景　南東上空から

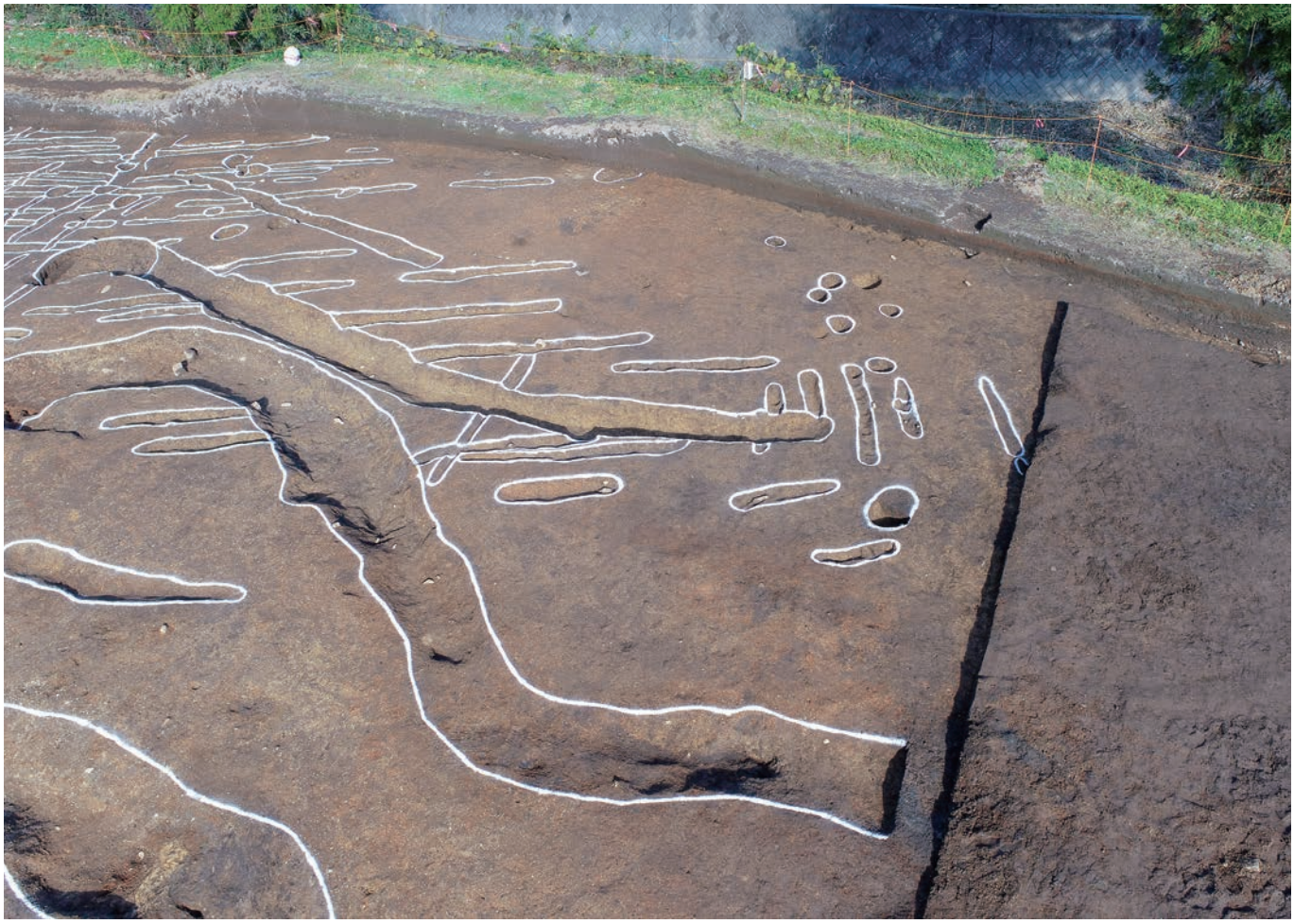
3面4号畑全景　南東から

3面4号畑土層断面A-A′　南西から

3面4号畑土層断面A-A′　南東から

3面5号畑土層断面A-A′　南西から

3面5号畑土層断面A-A′　南西から



3面6号・7号畑全景　南上空から

PL.8

3面6号畑耕作痕　西から

3面6号畑耕作痕近接　北西から

3面6号畑土層断面B-B′　北東から

3面6号畑土層断面B-B′近接　北東から

3面7号畑全景　南から

3面8号畑全景　南上空から

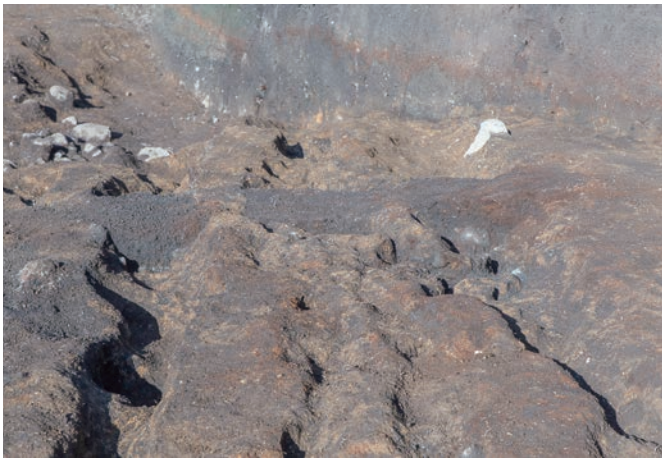
3面8号畑全景　北から

PL.10

３面８号畑土層断面Ａ－Ａ′　北から

３面８号畑土層断面Ａ－Ａ′近接　北から

１面９号畑全景　南東から



１面９号畑土層断面Ａ－Ａ′　南東から

３面10号～12号畑　南上空から

３面10号～12号畑　西上空から

３面10号～12号畑　北上空から

PL.12

３面10号・11号畑　西から

３面10号・11号畑　南から

３面10号畑全景　西から

３面10号畑全景　東から

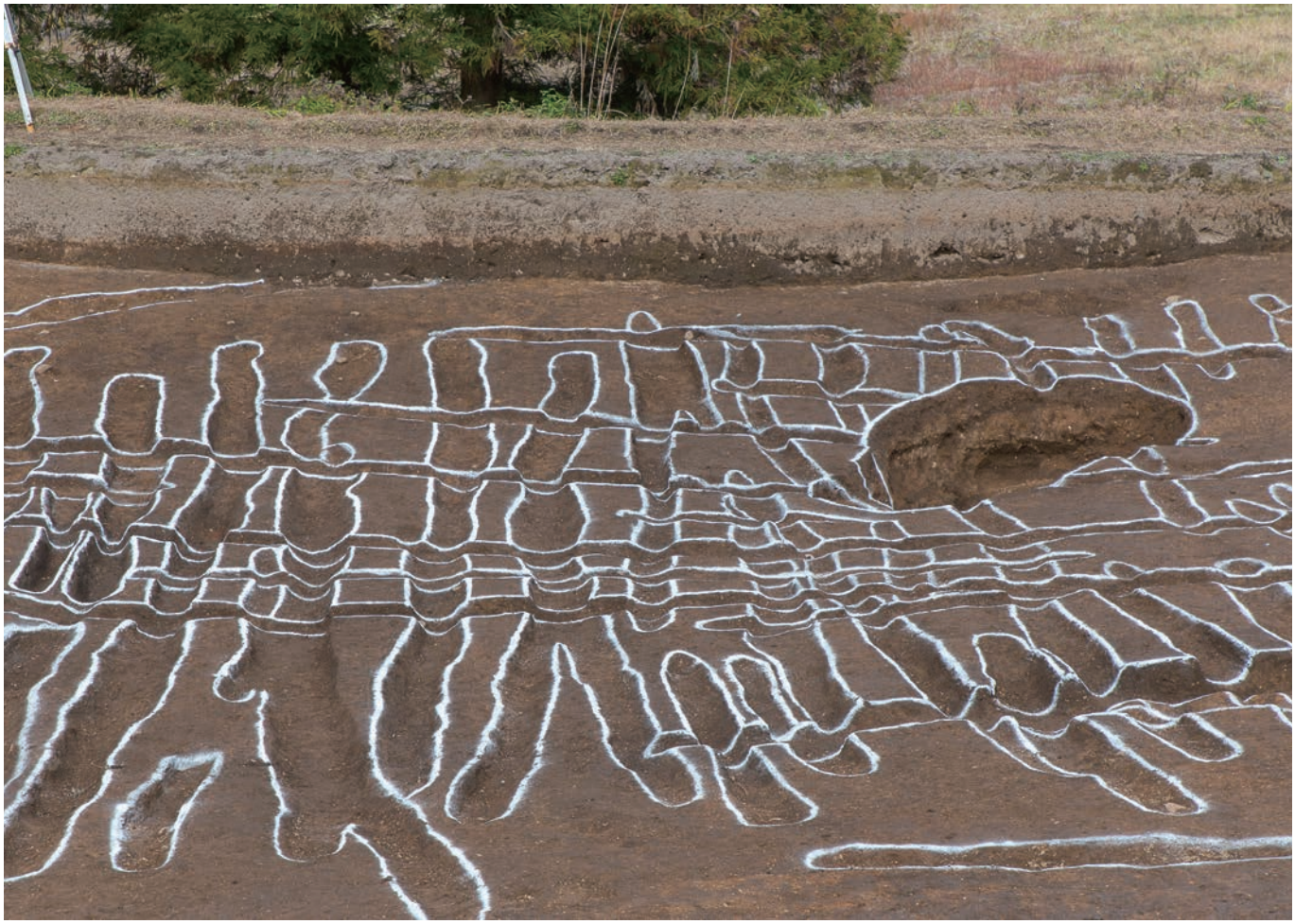
３面10号畑土層断面Ａ－Ａ′　南東から

３面10号畑土層断面Ｂ－Ｂ′　東から

３面10号畑調査風景　西から

PL.14

３面11号畑・25号～28号土坑　南から



３面11号畑西部　南から

３面12号畑全景　南東から

３面12号畑土層断面Ａ－Ａ′　南東から

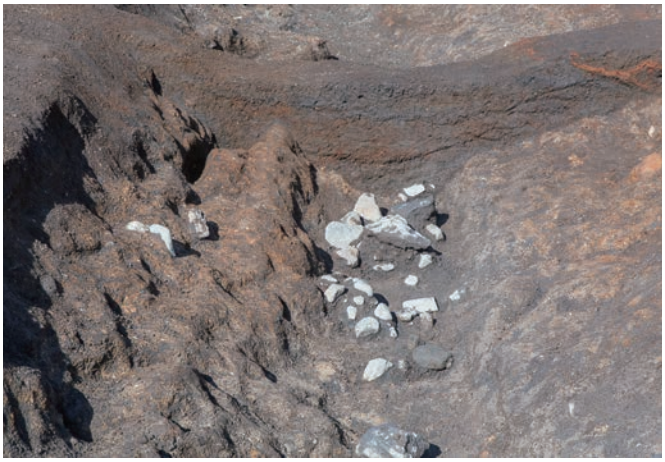
２面１号溝全景　南東から

３面１号溝土層断面Ａ－Ａ′　南東から

PL.16

２面２号溝全景　南東から

２面２号溝土層断面Ａ－Ａ′　南から



２面２号溝土層断面Ｂ－Ｂ′　南東から

２面２－１号・２－２号溝全景　東から

２面２－１号溝土層断面Ｅ－Ｅ′　北東から

２面２−２号溝土層断面Ｄ−Ｄ′　東から

２面３号溝全景　南東から

２面４号溝全景　東から

２面４号溝土層断面Ａ−Ａ′　東から

３面５号溝全景　南東から

３面６号溝全景　東から

３面７号溝全景　北から

３面７号溝土層断面Ａ−Ａ′　南から

PL.18

３面８号溝土層断面Ａ－Ａ′　南から

３面９号溝全景　北東から

３面９号溝土層断面Ａ－Ａ′　南西から

３面10号溝全景　南西から

３面10号溝土層断面Ａ－Ａ′　南西から

３面11号溝全景　北東から

３面11号溝土層断面Ａ－Ａ′　南西から

1面1号土坑　南西から

3面2号土坑　南西から

3面3号土坑　北東から

3面4号土坑　東から

3面5号土坑　北から

3面6号土坑　北東から

3面7号土坑　北東から

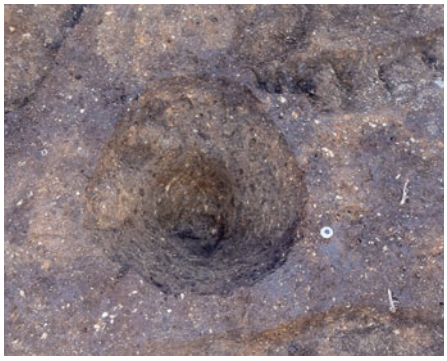
3面8号土坑　西から

3面9号土坑　北東から

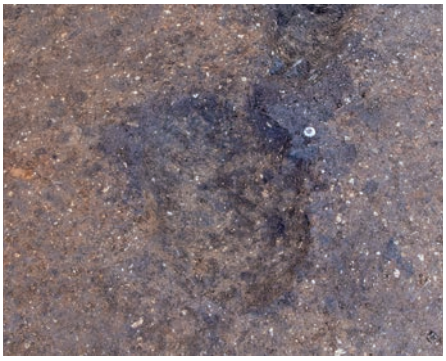
3面10号土坑　西から

3面11号土坑　東から

3面12号土坑　北東から


3面13号土坑　北から

3面14号土坑　北から


3面15号土坑　東から

PL.20

３面16号土坑　東から

３面17号土坑　南東から

３面18号土坑　北東から

３面19号土坑　南から

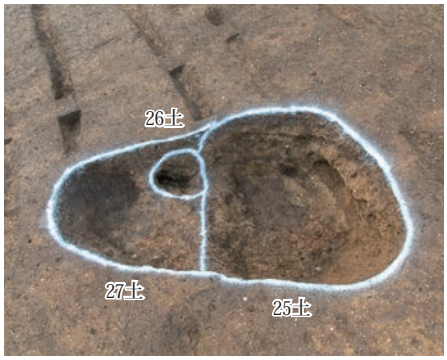
３面20号土坑　南から

３面21号土坑　南西から

３面22号土坑　南東から

３面23号土坑　北から

３面24号土坑　南西から



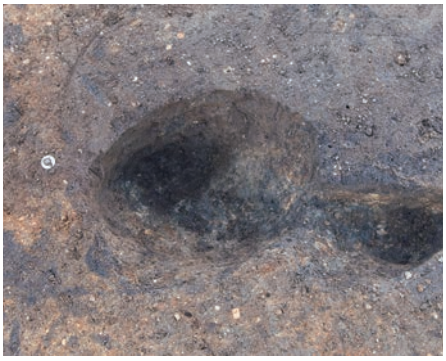
３面25号～ 27号土坑　南東から

３面25号土坑　南東から

３面26号土坑　南から

３面27号土坑　南東から

３面28号土坑　南東から



３面29号土坑　南から

3面30号土坑　北東から

3面31号土坑　北西から

3面32号土坑　南から

3面1号ピット　南西から

3面2号ピット　東から

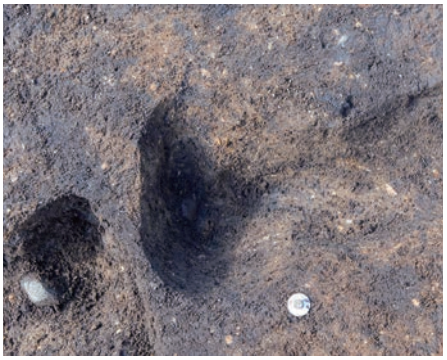
3面3号ピット　東から

3面4号ピット　東から

3面5号ピット　東から

3面6号ピット　東から

3面7号ピット　東から


3面8号ピット　東から

3面9号ピット　南から

3面10号ピット　南から

3面11号ピット　西から

3面12号ピット　南から

PL.22

３面13号ピット　西から

３面14号ピット　南から

３面15号ピット　南から

３面16号ピット　西から

１面１号集石　北東から

１面１号集石　北西から

１面２号集石　西から

３面１号旧石器トレンチ土層断面　南から

３面２号旧石器トレンチ土層断面　北東から

３面１号溝

1

３面30号土坑

1

遺構外出土遺物

1

１面１号集石

1

３面１号溝・30号土坑、１面１号集石、遺構外出土遺物

調査区全景　東から

調査区全景　真上から

PL.24

調査区全景　東から

調査区全景　西から（後方岩櫃山）

報　告　書　抄　録

書名ふりがな	かわどおおたいせき
書名	川戸太田遺跡
副書名	上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	739
編著者名	友廣哲也
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20240318
作成法人ＩＤ	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田 784-2
遺跡名ふりがな	かわどおおたいせき
遺跡名	川戸太田遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんひがしあがつままちおおあざかわど
遺跡所在地	群馬県吾妻郡東吾妻町大字川戸
市町村コード	10429
遺跡番号	0251
北緯(世界測地系)	361910
東経(世界測地系)	1391070
調査期間	20211001-20211130
調査面積	3,666.00
調査原因	道路建設工事
種別	畑地
主な時代	古代 / 中近世
遺跡概要	古代－畑＋土坑＋溝＋ピット／中近世－畑＋土坑＋溝＋ピット＋集石
特記事項	古代から中近世の畑のサク痕、溝、土坑等の遺構は重複から見ると３時期が認められる。
要約	遺跡内は傾斜地で竪穴建物跡はなく、傾斜地の平坦面に畑耕作等に使用。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第739集

川戸太田遺跡

上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和６(2024)年３月15日　印刷
令和６(2024)年３月18日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／杉浦印刷株式会社